

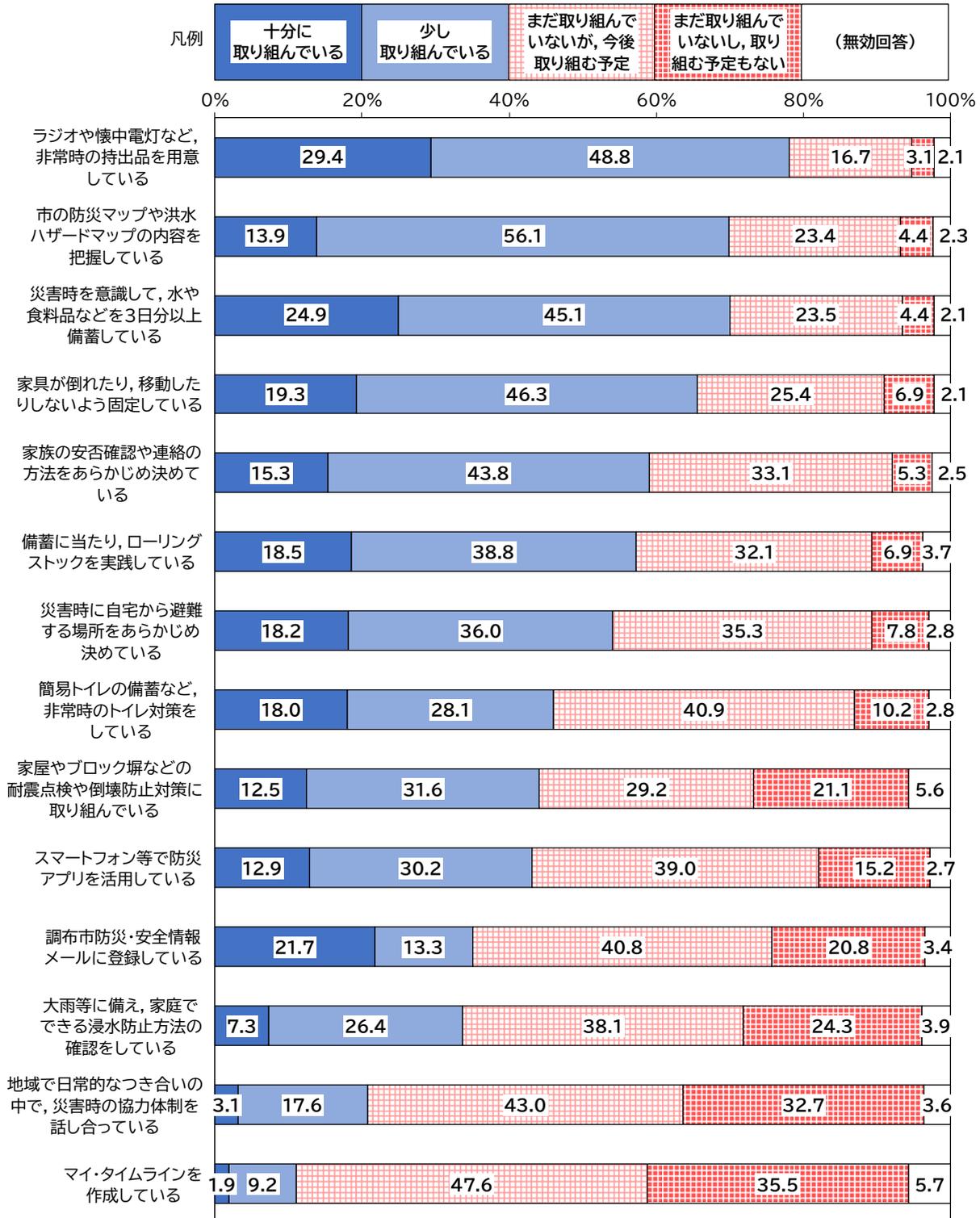
(3) 日ごろの意識や行動

【防災について】

問 14) あなたは、日ごろからどのような防災対策に取り組んでいますか。

<全体 (n=1,211) >

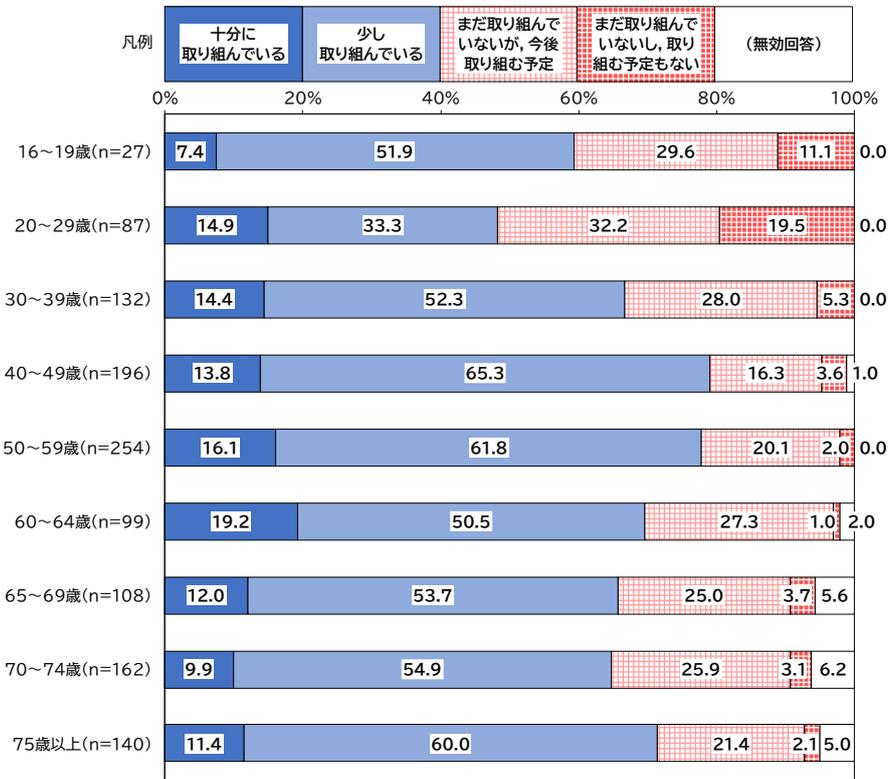
○「十分に取り組んでいる」と「少し取り組んでいる」の合計は、「ラジオや懐中電灯など、非常時の持出品を用意している」が 78.2%と最も高く、次いで、「市の防災マップや洪水ハザードマップの内容を把握している」、「災害時を意識して、水や食料品などを3日以上備蓄している」の 70.0%の順となっています。



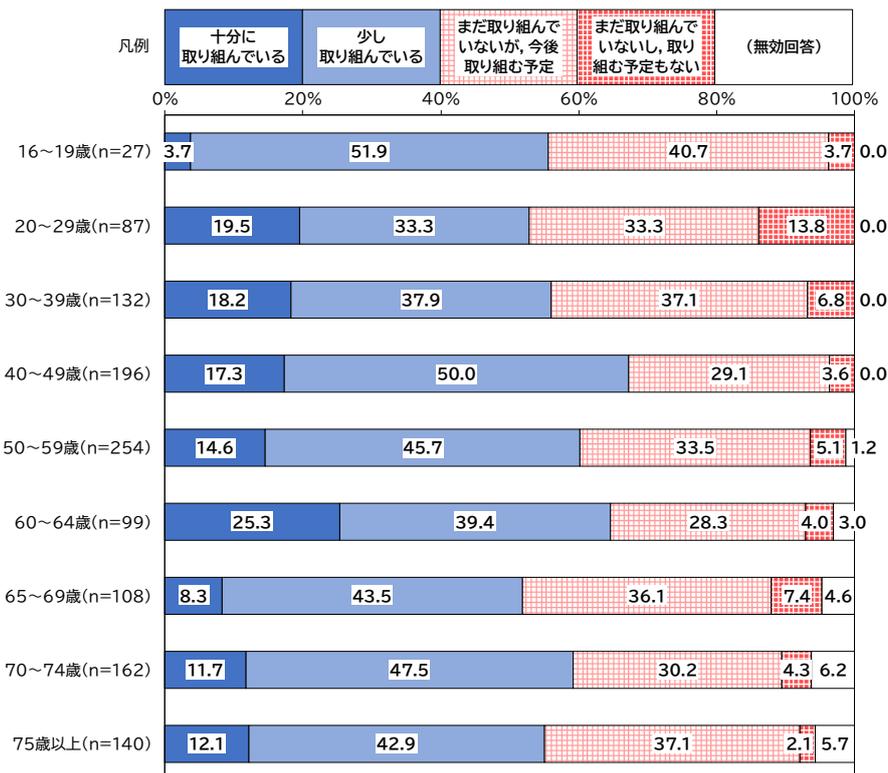
<年齢層別>

○「市の防災マップや洪水ハザードマップの内容を把握している」では、40～59歳と75歳以上で「十分に取り組んでいる」と「少し取り組んでいる」の合計が70%を超えて高くなっています。また、「備蓄に当たり、ローリングストックを実践している」では、75歳以上を除く各年代で半数を超え、40～59歳で60%を超えています。

1 市の防災マップや洪水ハザードマップの内容を把握している

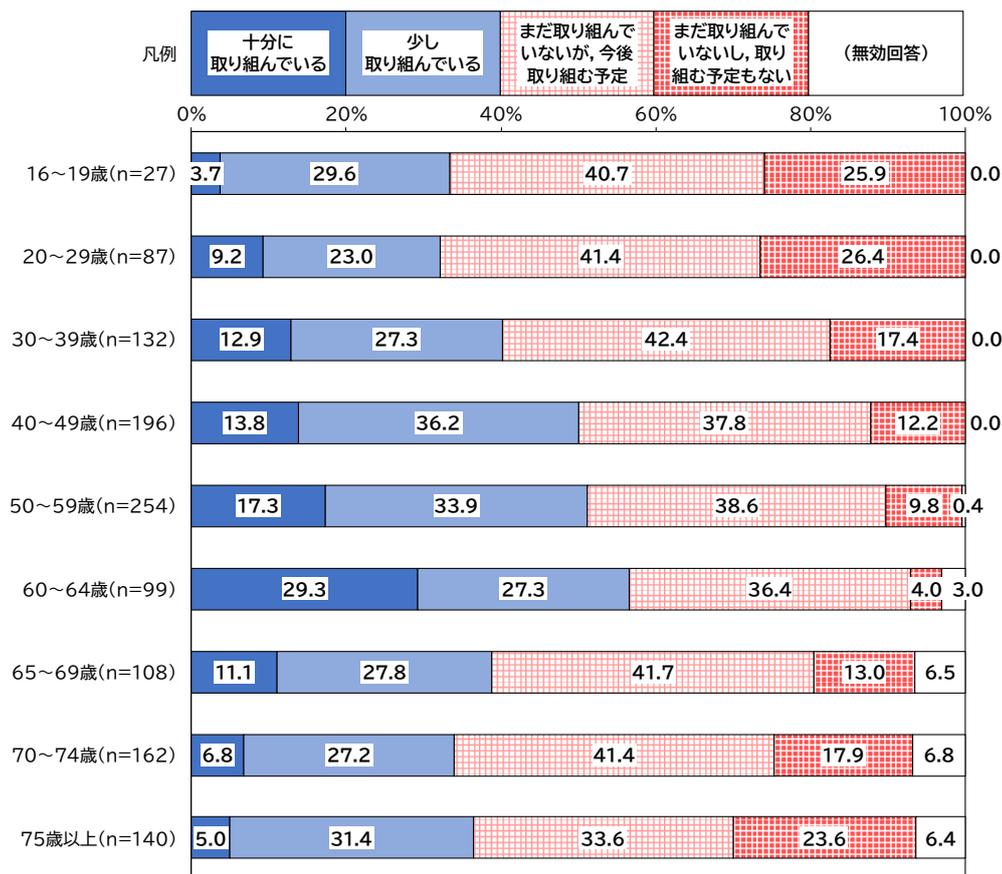


2 家族の安否確認や連絡の方法をあらかじめ決めている

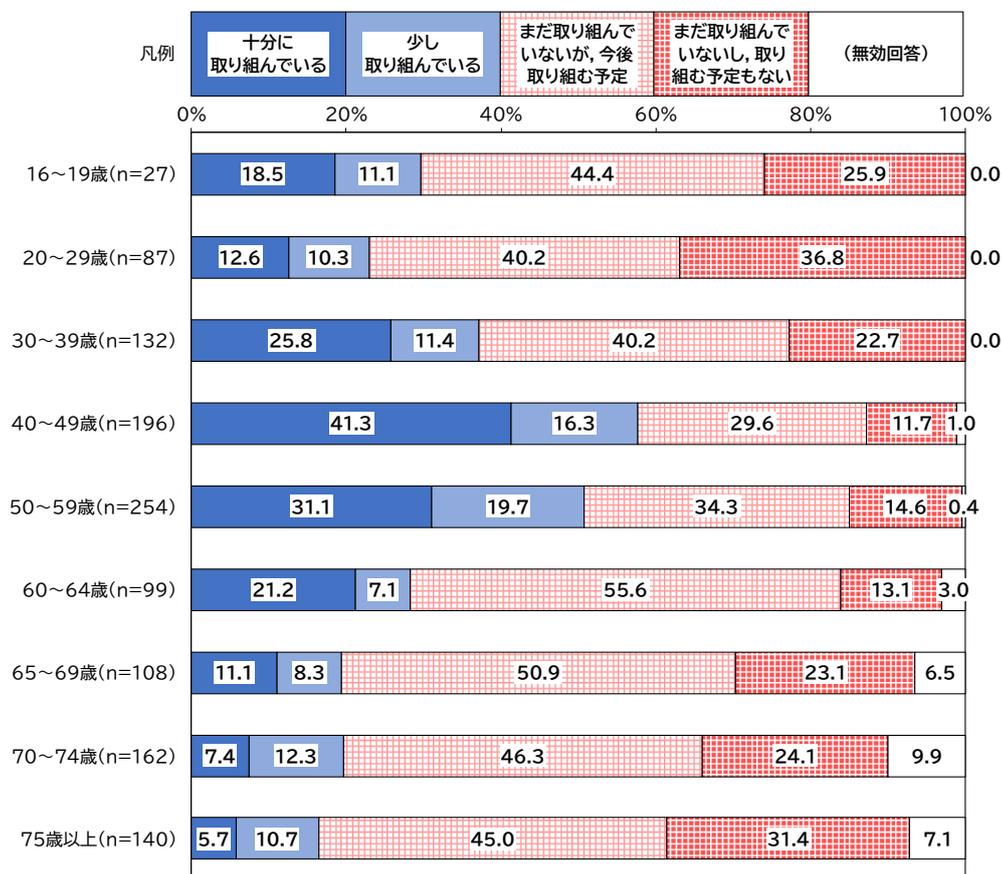


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

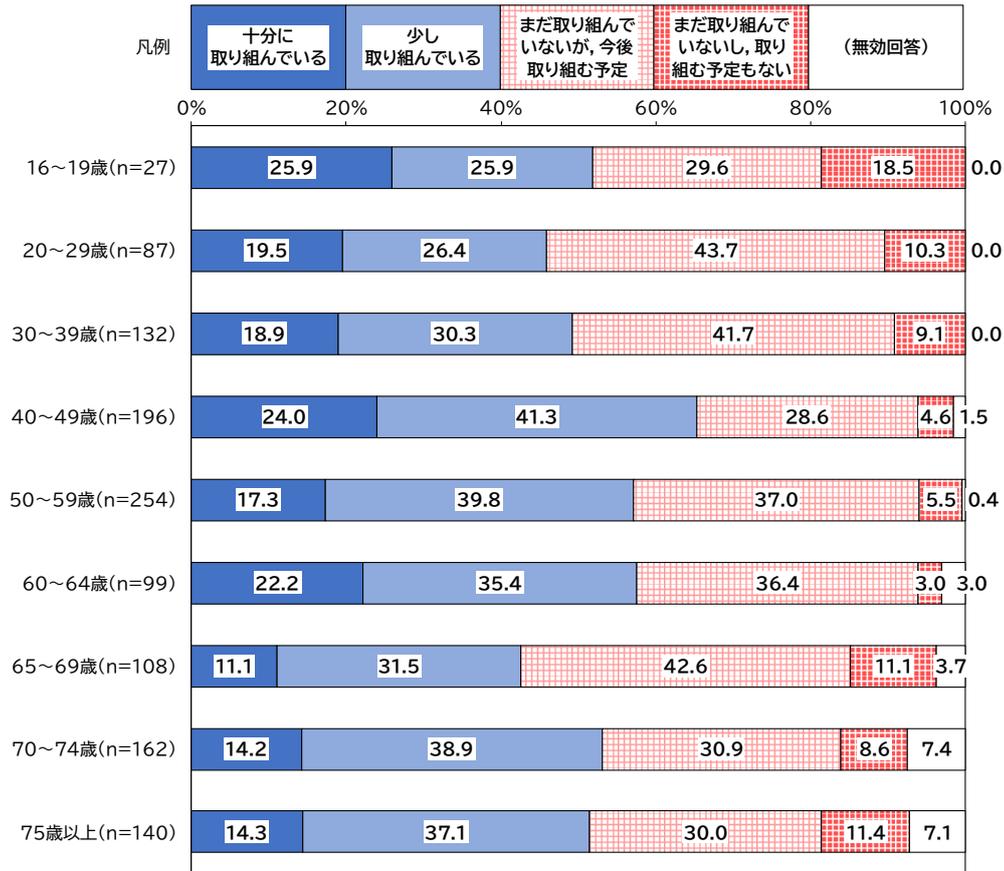
#### 3 スマートフォン等で防災アプリを活用している



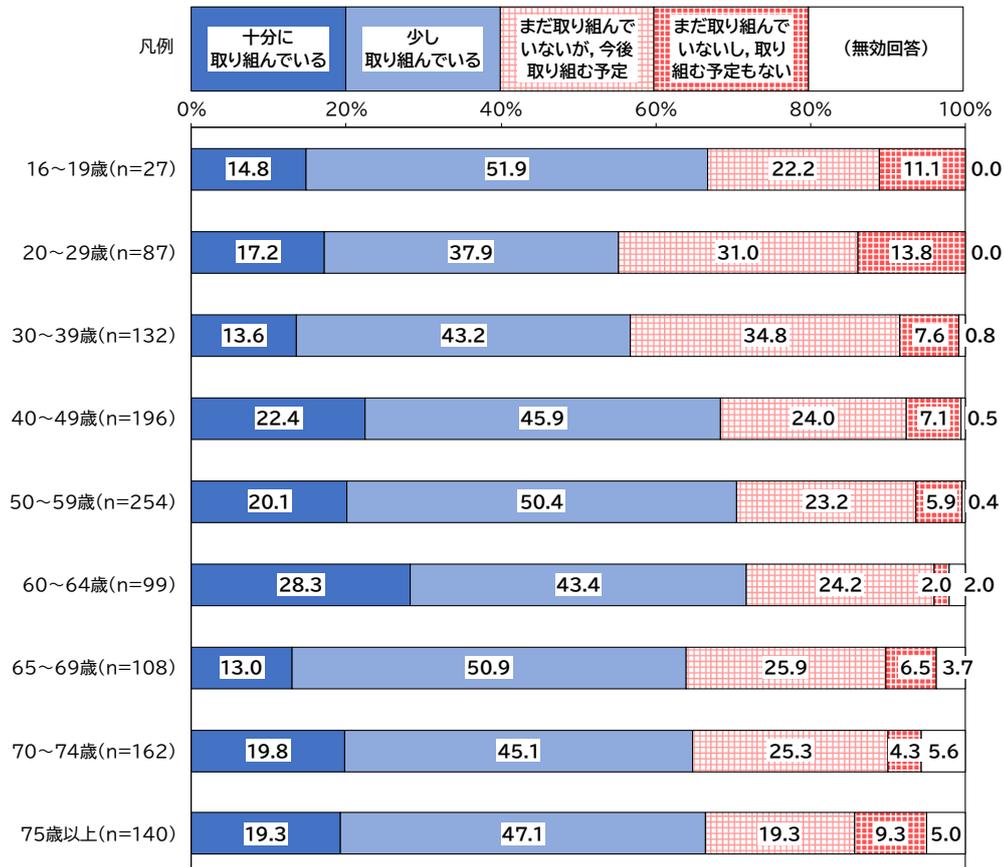
#### 4 調布市防災・安全情報メールに登録している



5 災害時に自宅から避難する場所（避難所、自宅の上層階、親族や友人・知人宅）をあらかじめ決めている

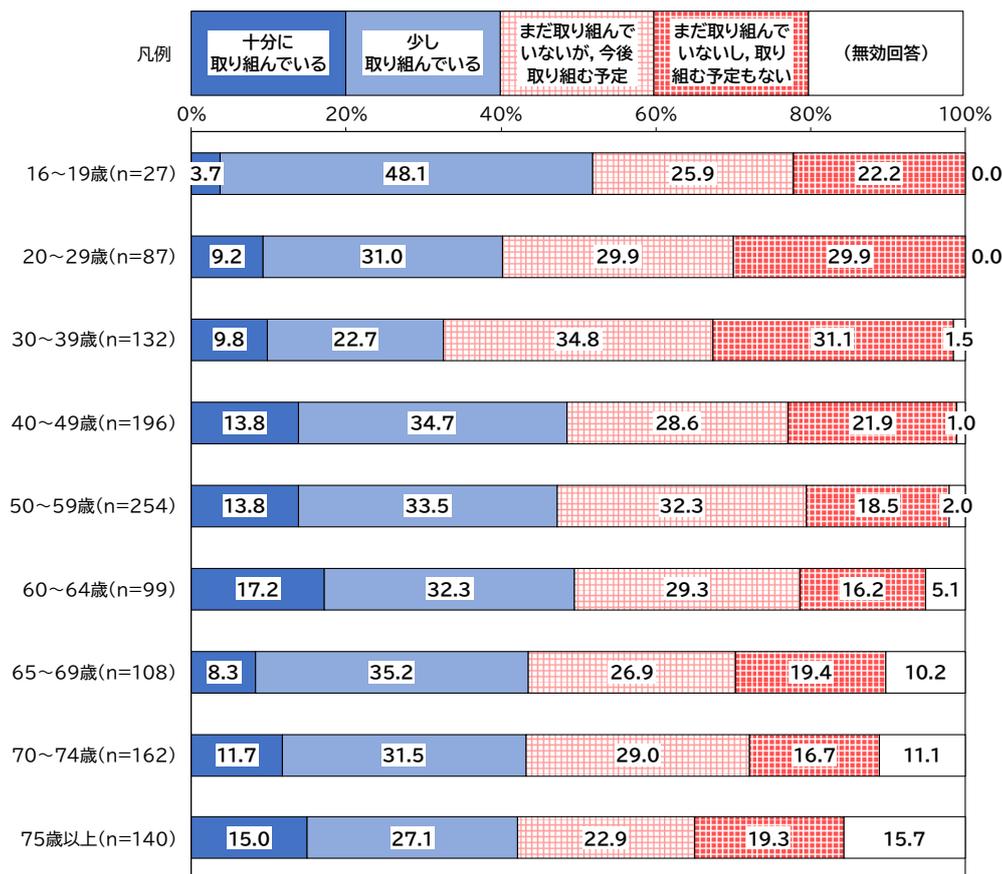


6 家具が倒れたり、移動したりしないよう固定している

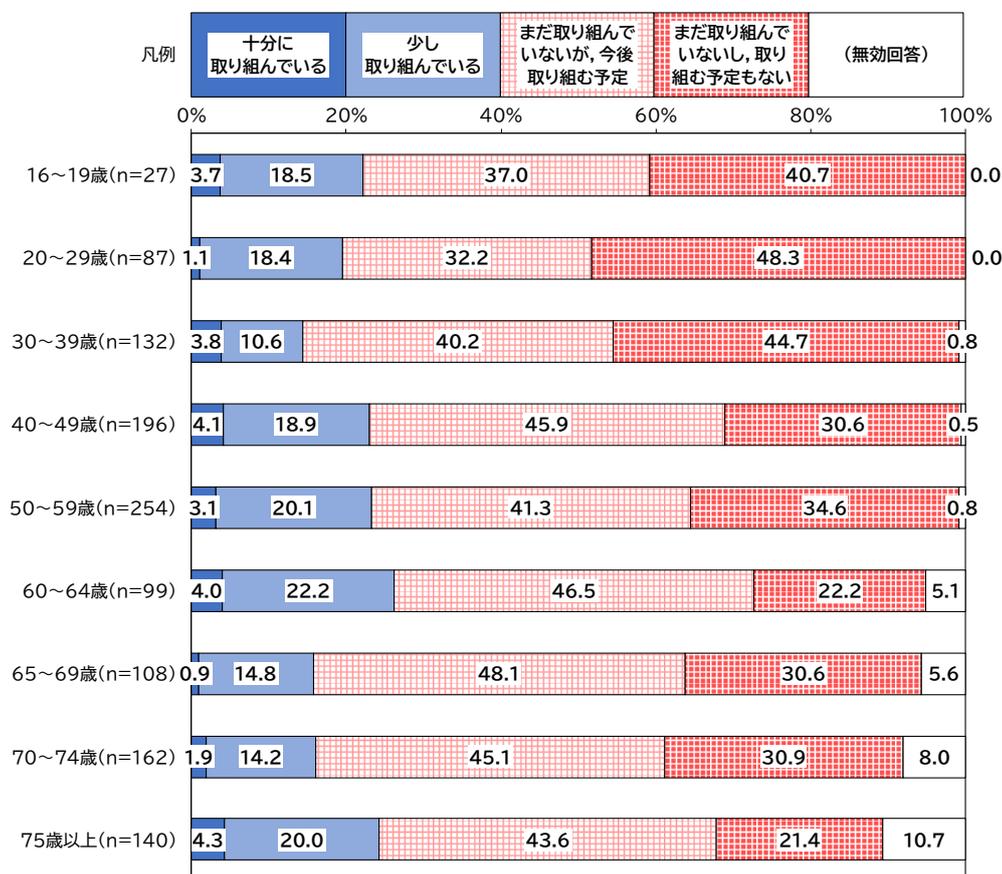


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

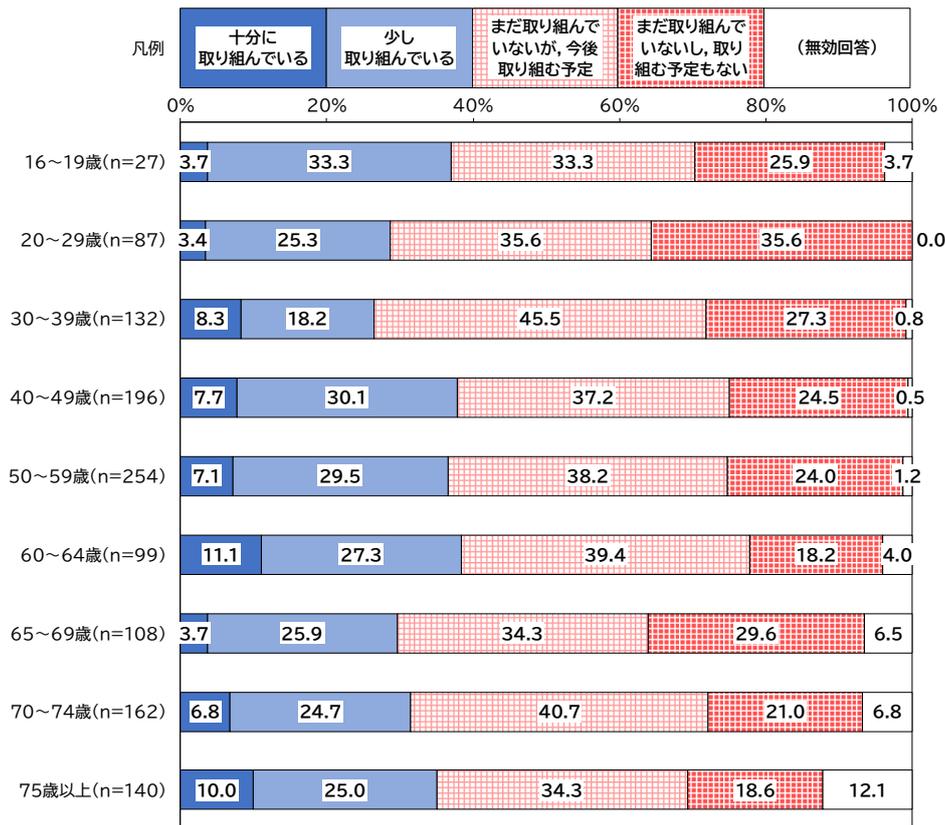
#### 7 家屋やブロック塀などの耐震点検や倒壊防止対策に取り組んでいる



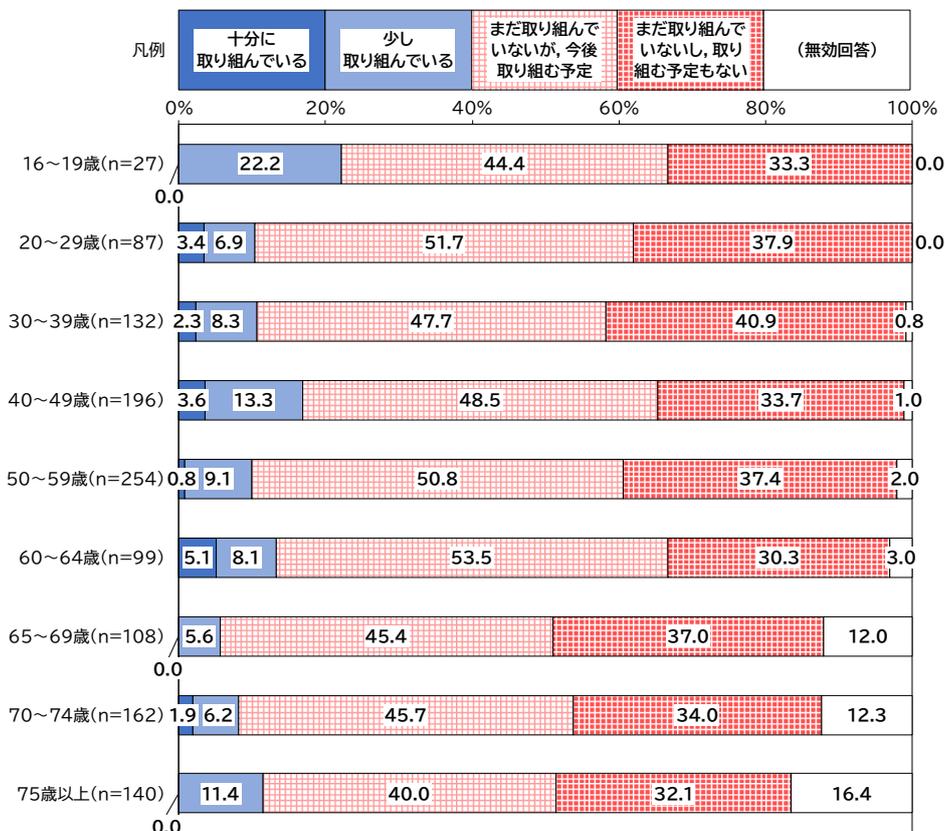
#### 8 地域で日常的なつき合いの中で、災害時の協力体制を話し合っている



9 大雨等に備え、家庭でできる浸水防止方法の確認をしている



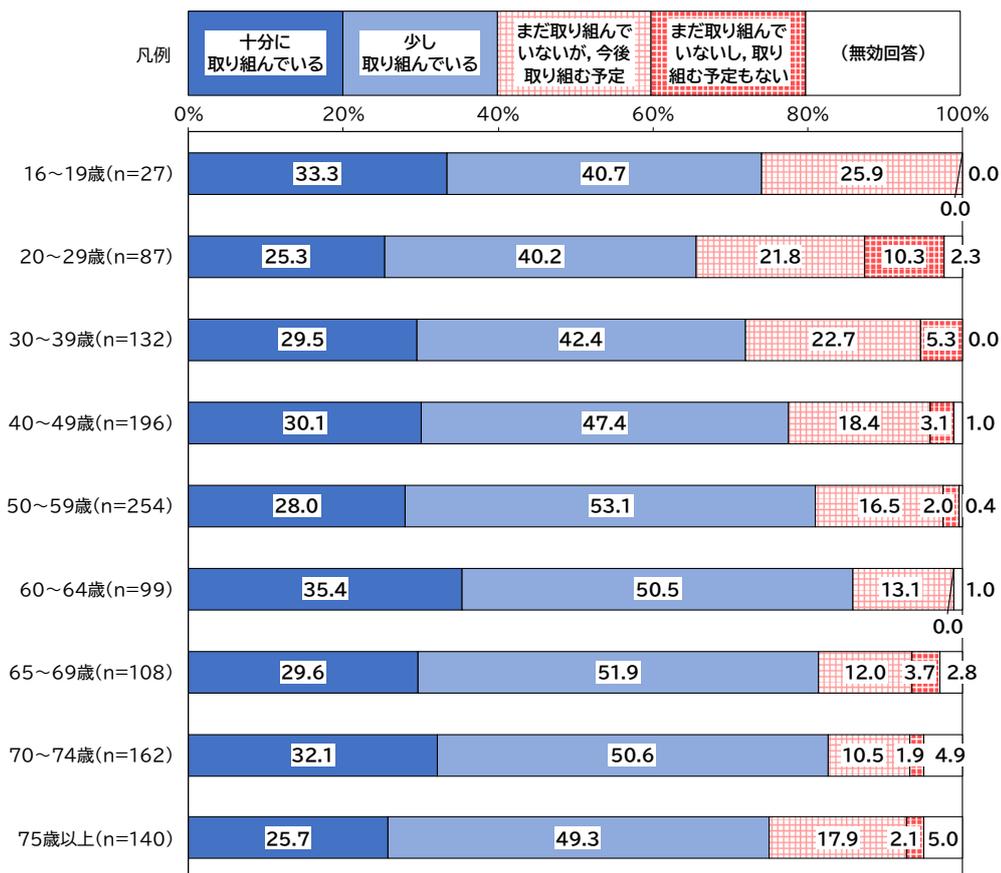
10 マイ・タイムライン※を作成している



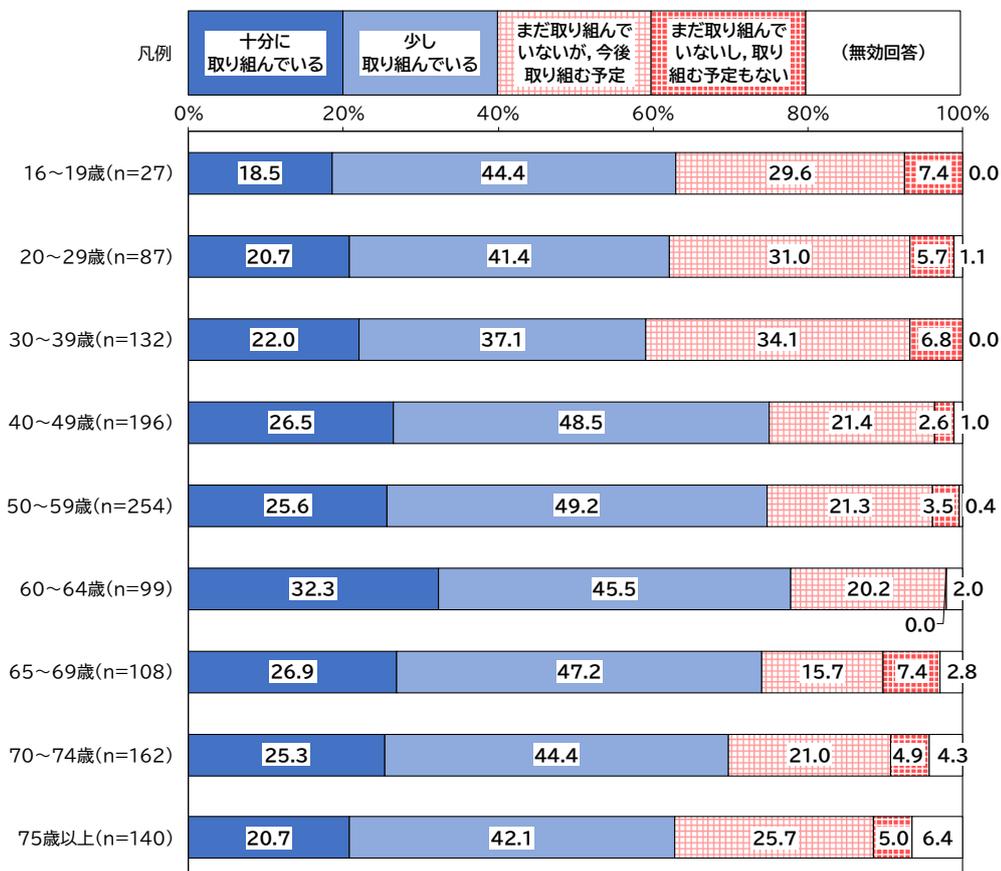
※マイ・タイムラインとは、台風や大雨の水害等、これから起きるかもしれない災害に対し、一人一人の家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」、「誰が」、「何をするのか」をあらかじめ時系列で整理した自分自身の防災行動計画のことです。

### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

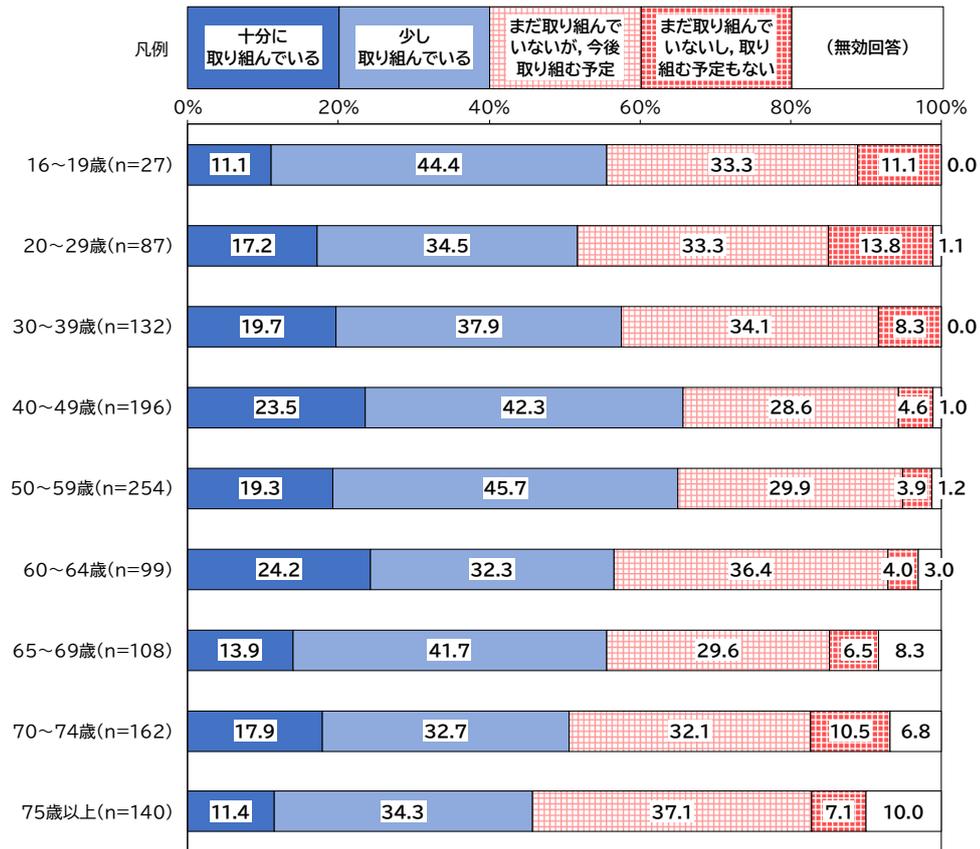
#### 11 ラジオや懐中電灯など、非常時の持出品を用意している



#### 12 災害時を意識して、水や食料品などを3日以上備蓄している

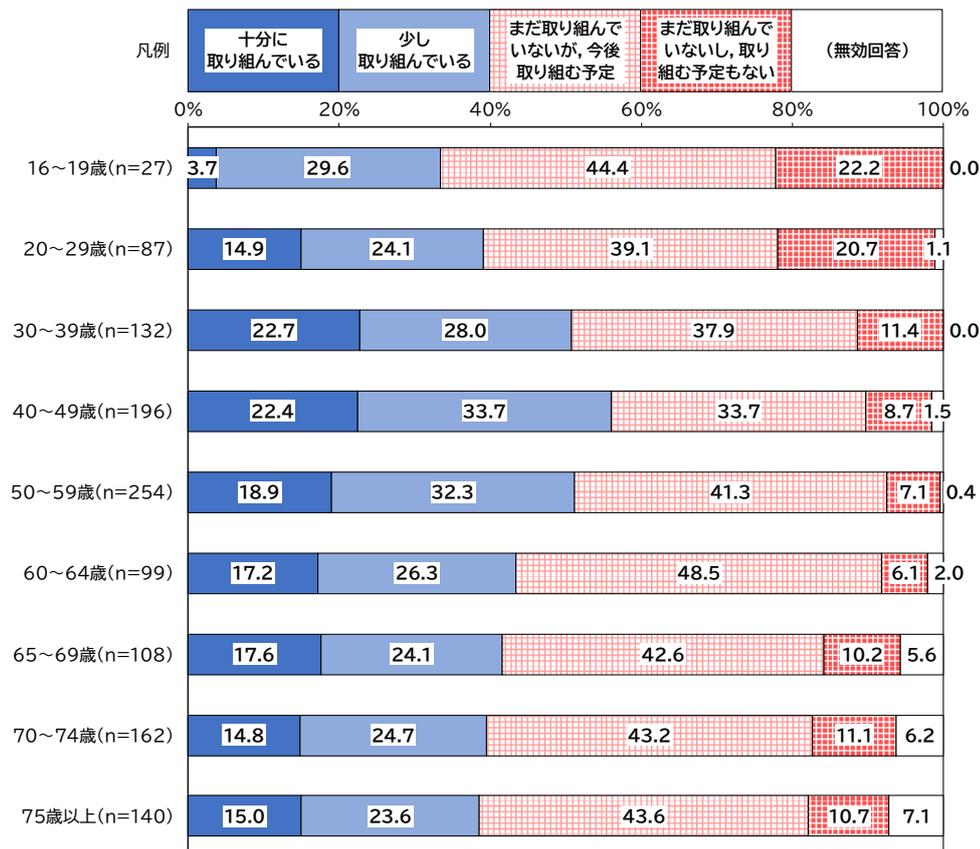


13 備蓄に当たり、ローリングストック※を実践している



※ローリングストックとは、普段から使っているものを常に少し多めに備えておき、消費したらその分を補充して、常に一定量の食品・日用品を備蓄することです。

14 簡易トイレの備蓄など、非常時のトイレ対策をしている



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<自由記述> 主な意見を抜粋

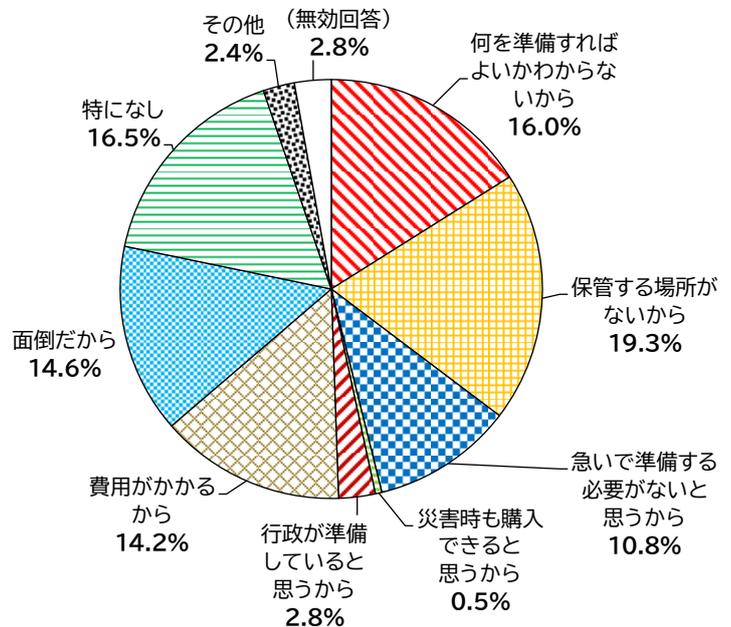
【図表 防災対策についてのご意見・ご提案】(44件)

- ・ 防災バッグ・グッズはきちんとしたものを用意すると1人一万円ほどする。家族人数分揃えておらず補助などあれば全員分揃えたい。
- ・ 台風や豪雨が増えているので、野川の氾濫対策を進めてほしい。風水害への備えを強化してほしい。
- ・ 公共公園に防災用トイレの建設。

問 14-1) 問 14 の「ラジオや懐中電灯など、非常時の持出品を用意している」「災害時を意識して、水や食料品などを3日以上備蓄している」「簡易トイレの備蓄など、非常時のトイレ対策をしている」について、「まだ取り組んでいないし、取り組む予定もない」と回答した主な理由をお聞かせください。

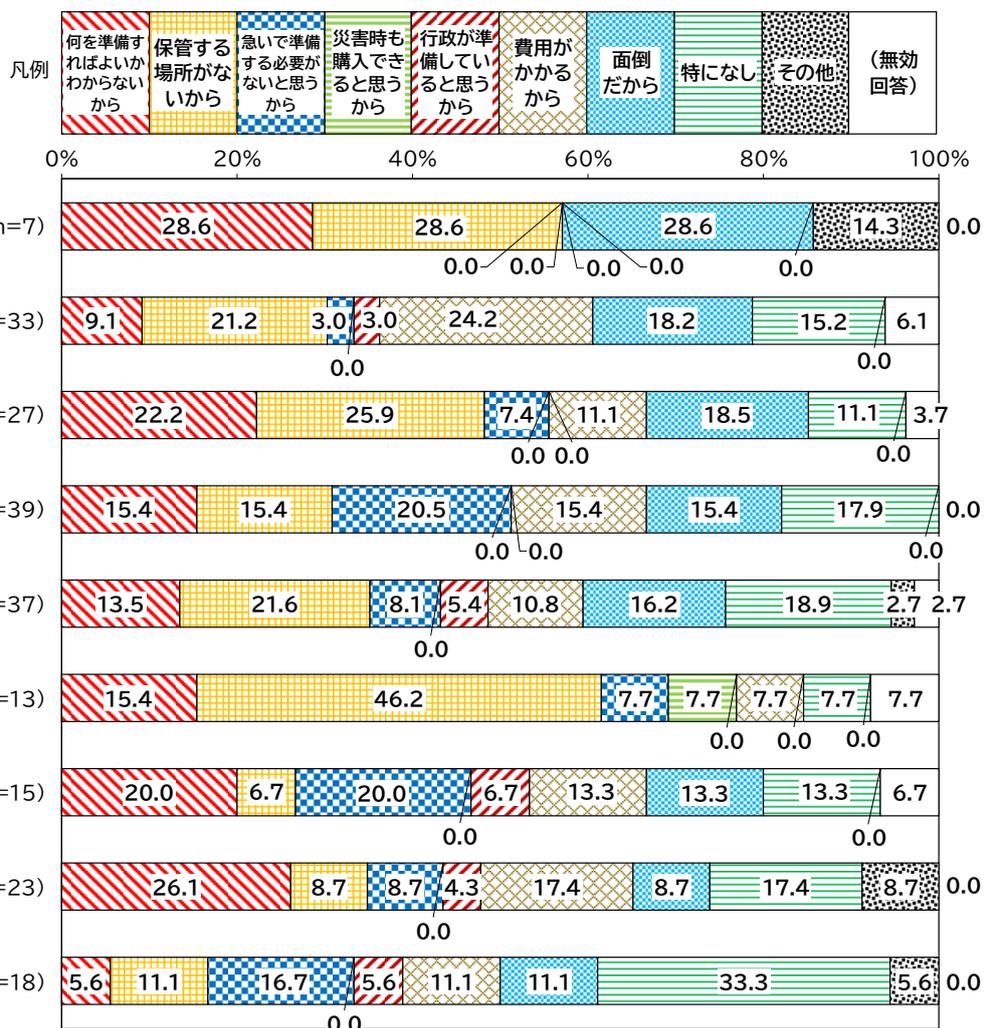
<全体 (n=212) >

○「保管する場所がないから」が 19.3%で最も高く、次いで「何を準備すればよいかわからないから」の 16.0%、「面倒だから」の 14.6%の順となっています。



<年齢層別>

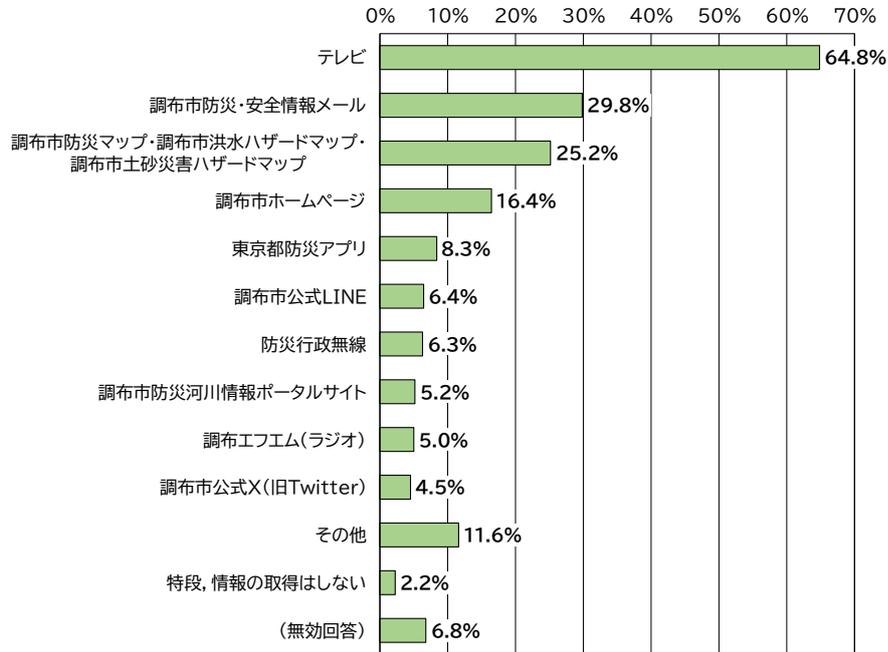
○20～29歳で「費用がかかるから」、60～64歳で「保管する場所がないから」が、他の年齢層に比べ高くなっています。



問 15) あなたは台風や地震等の災害時にどのように情報を得ていますか。

<全体 (n=1,211) >

○「テレビ」が 64.8%で最も高く、次いで「調布市防災・安全情報メール」の 29.8%、「調布市防災マップ・調布市洪水ハザードマップ・調布市土砂災害ハザードマップ」の 25.2%の順となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層においても、「テレビ」が最も高く、これに次ぐものとしては、16~19 歳及び 30~59 歳で「調布市防災・安全情報メール」、60 歳以上は「調布市防災マップ・調布市洪水ハザードマップ・調布市土砂災害ハザードマップ」となっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
テレビ	785	17	52	78	108	159	61	77	125	103
調布市防災・安全情報メール	361	10	14	44	93	102	27	18	36	15
調布市防災マップ・調布市洪水ハザードマップ・調布市土砂災害ハザードマップ	305	1	14	28	61	61	28	24	46	42
調布市ホームページ	199	3	12	21	35	48	20	21	18	20
東京都防災アプリ	101	1	3	12	15	23	11	13	14	9
調布市公式LINE	78	0	3	10	11	23	7	3	15	6
防災行政無線	76	4	6	1	5	14	4	10	13	18
調布市防災河川情報ポータルサイト	63	2	2	7	19	18	4	3	3	5
調布エフエム(ラジオ)	60	0	3	2	6	12	5	6	13	12
調布市公式X(旧Twitter)	54	2	10	15	9	14	1	0	3	0
その他	141	3	19	23	29	19	18	11	12	7
特段、情報の取得はしない	27	1	4	3	7	5	1	2	1	3
(無効回答)	82	2	2	6	9	14	9	10	12	18

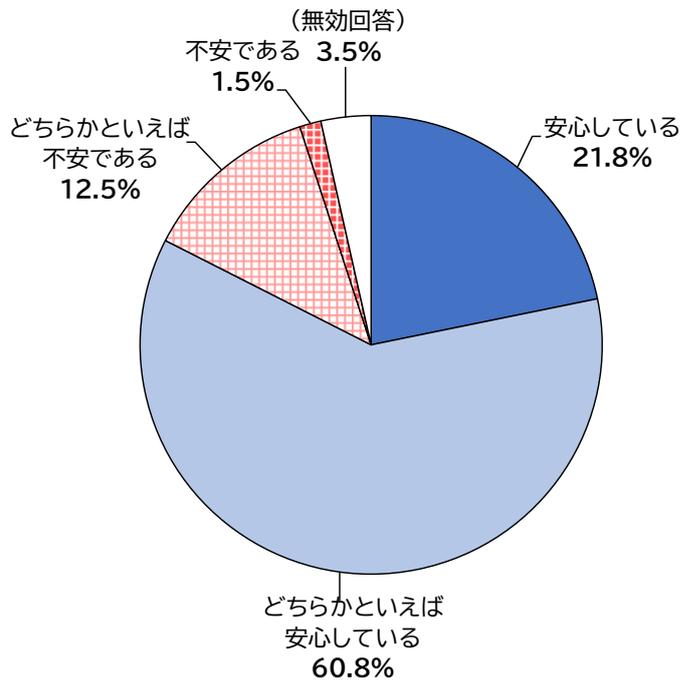
(上段：実数(人)，下段：構成比)  
 回答割合が最も高い：  回答割合が2番目に高い：

【防犯対策について】

問 16) あなたは、自分の住んでいる地域が治安の面で安心して暮らせる場所だと感じていますか。

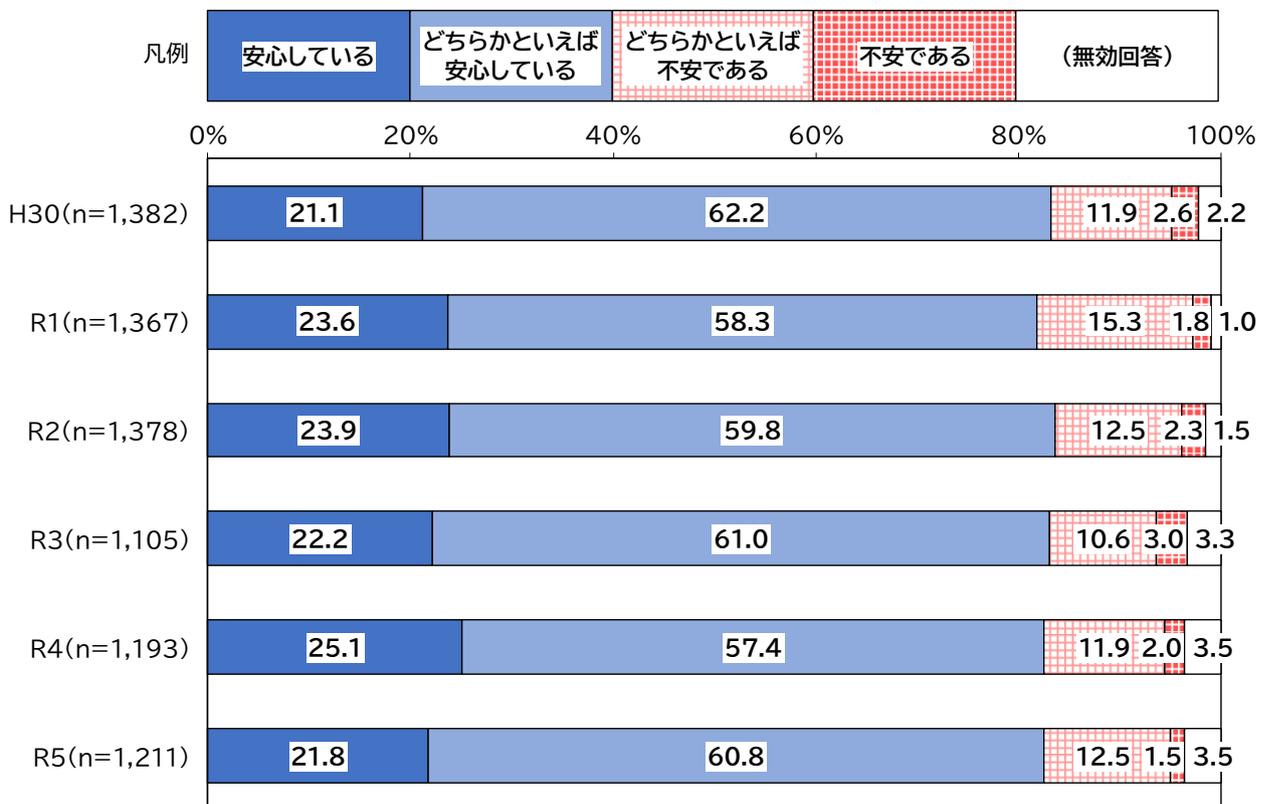
<全体 (n=1,211) >

- 「安心して暮らせる」は 21.8%、「どちらかといえば安心して暮らせる」は 60.8%であり、合計 82.6%を占めています。



<経年比較>

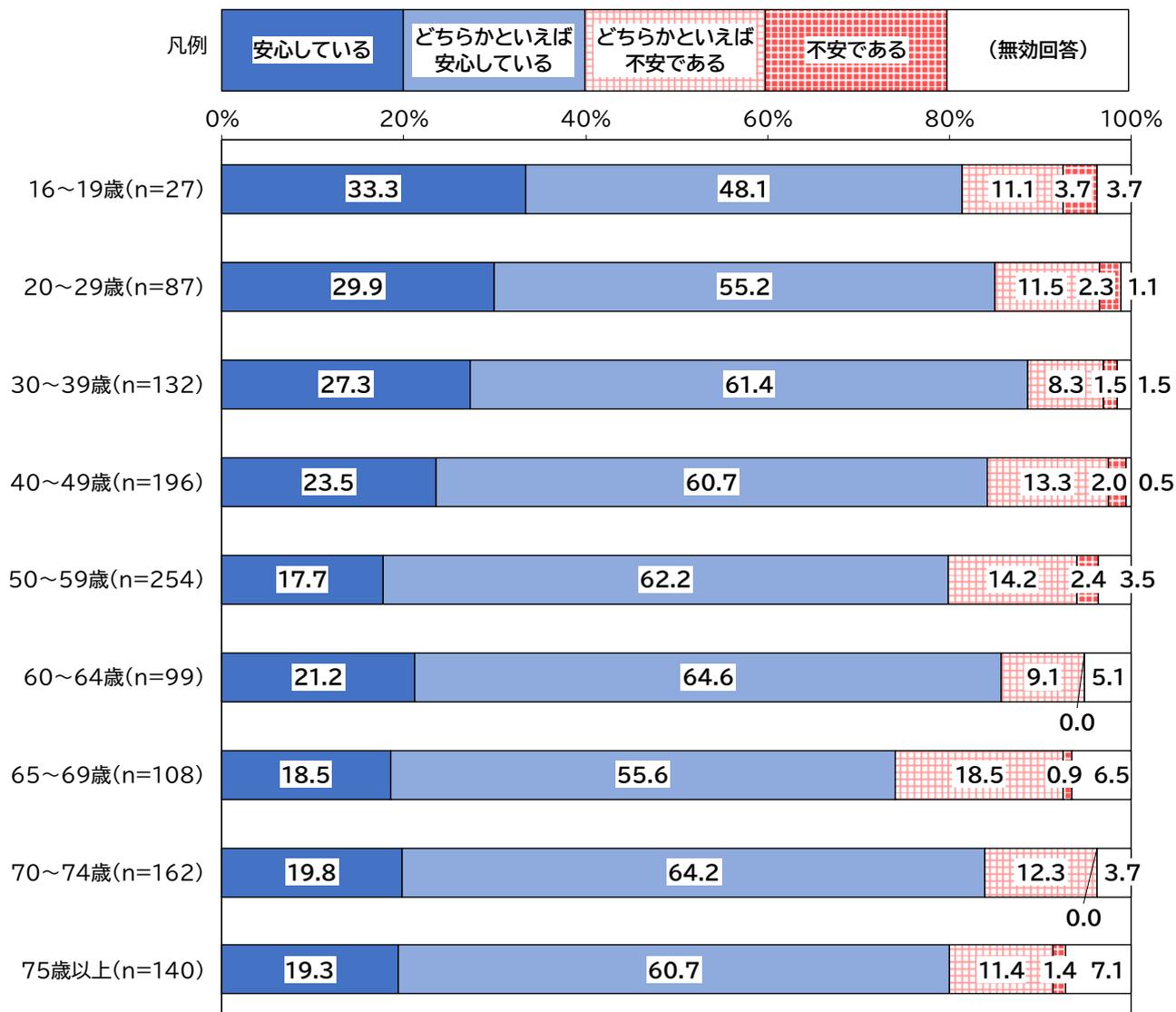
- 「安心して暮らせる」、「どちらかといえば安心して暮らせる」の合計 (82.6%) は、令和 4 年度 (82.5%) に比べ 0.1 ポイント増加しています。
- 「不安である」、「どちらかといえば不安である」の合計 (14.0%) は、令和 4 年度 (13.9%) に比べ 0.1 ポイント増加しています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

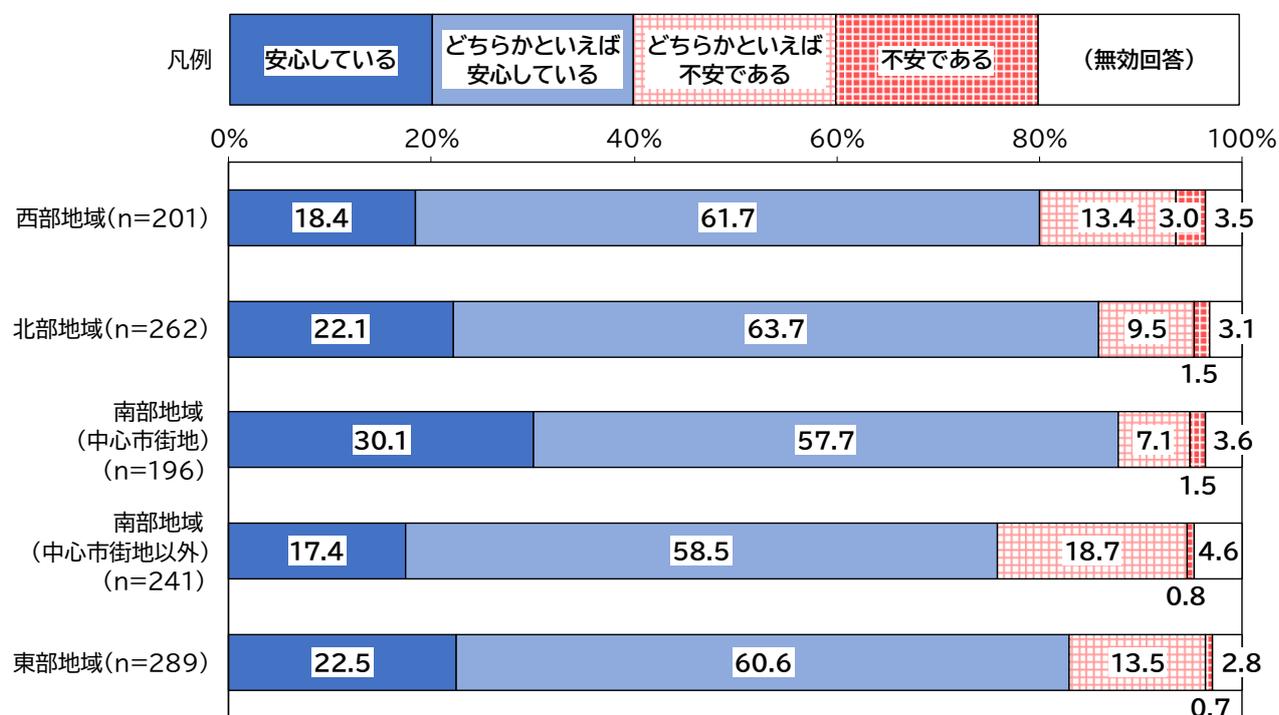
○50～59歳及び65～69歳を除いた年齢層で、「安心している」と「どちらかといえば安心している」の合計が80%以上を占めています。



<地域別>

○北部地域及び南部地域（中心市街地）で、「安心している」と「どちらかといえば安心している」の合計が85%以上を占めています。

○西部地域及び南部地域（中心市街地以外）で「どちらかといえば不安である」と「不安である」の合計が15%を超え、他の地域に比較して高くなっています。



<自由記述> 主な意見を抜粋

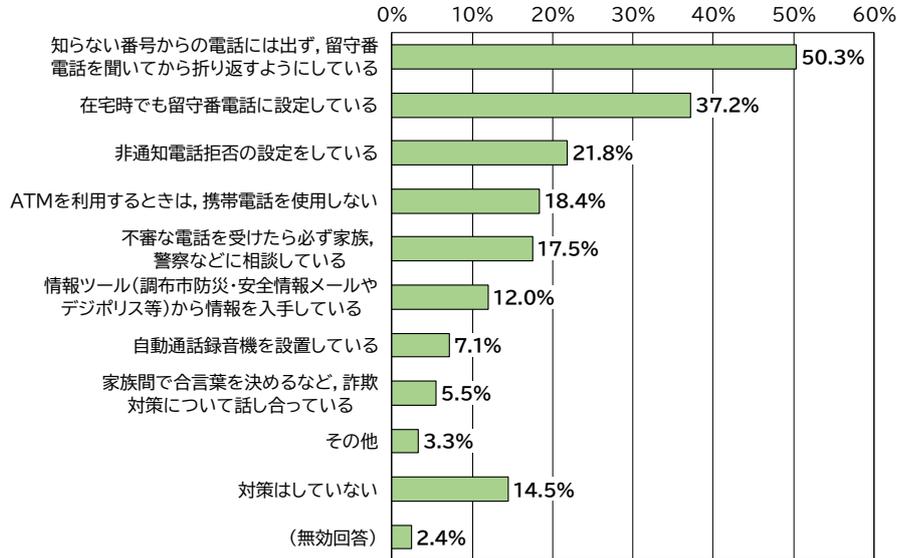
【図表 住んでいる地域が安心、または不安と感じる理由】(221件)

「安心している」「どちらかといえば安心している」	「どちらかといえば不安である」「不安である」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近所付き合いがある。</li> <li>・ 治安が良い。</li> <li>・ 大きな事件が起きていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夜は人通りが少なく、道が暗い。</li> <li>・ 調布駅前広場などで夜間に外で飲酒して騒いでいる。ゴミもそのまま放置していて、朝になって見る光景が残念。駅前に交番があるのに。</li> <li>・ 近くの狛江で強盗があった。業者の訪問販売が多く、自動車や自転車等に関連するトラブルが多いように感じる。</li> </ul>

問 17) あなたは（ご家族を含む）、特殊詐欺※被害防止のためにどのような対策をしていますか。

<全体（n=1,211）>

○特殊詐欺への対策は、「知らない番号からの電話には出ず、留守番電話を聞いてから折り返すようにしている」が 50.3%で最も高く、次いで「在宅時でも留守番電話に設定している」の 37.2%、「非通知電話拒否の設定をしている」の 21.8%の順となっています。



※特殊詐欺とは、不特定の人に対して直接顔を合わせることなく、電話やメールなどを使い、嘘を言って信じこませ、犯人の銀行口座に現金を振り込ませたりする等、現金などをだまし取る犯罪のことです。

<年齢層別>

○特殊詐欺への対策は、69 歳以下で「知らない番号からの電話には出ず、留守番電話を聞いてから折り返すようにしている」が最も高く、70 歳以上では「在宅時でも留守番電話に設定している」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
知らない番号からの電話には出ず、留守番電話を聞いてから折り返すようにしている	609	10	46	79	92	130	52	51	80	67
在宅時でも留守番電話に設定している	451	6	20	16	36	111	48	45	85	81
非通知電話拒否の設定をしている	264	2	10	36	40	61	24	26	41	23
ATMを利用するときは、携帯電話を使用しない	223	3	7	12	17	41	17	35	46	44
不審な電話を受けたら必ず家族、警察などに相談している	212	7	8	23	30	33	15	28	38	28
情報ツール(調布市防災・安全情報メールやデジボリス等)から情報を入手している	145	3	5	12	29	45	11	7	20	13
自動通話録音機を設置している	86	1	1	0	7	15	10	9	22	19
家族間で合言葉を決めるなど、詐欺対策について話し合っている	66	5	2	6	8	13	7	5	9	11
その他	40	0	3	2	9	8	2	3	7	6
対策はしていない	176	9	22	27	40	29	12	10	11	15
(無効回答)	47	2	1	4	4	8	0	4	9	12

(上段：実数(人)、下段：構成比)

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 防犯対策についてのご意見・ご提案】(62件)

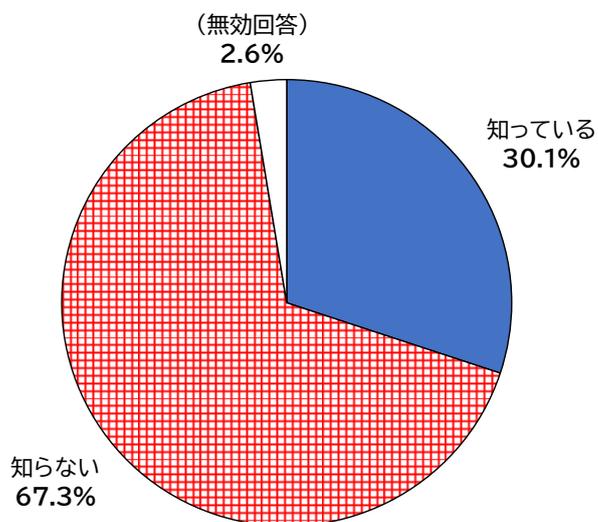
- ・ 防犯カメラの増設，外灯の設置。
- ・ 警察によるパトロール強化。
- ・ 固定電話の廃止，知らない番号は出ない，ナンバーディスプレイ契約や年齢に限らない自動通話録音機の貸出。
- ・ スпамメールが巧妙すぎて偽物かどうか見破れなくなっている。どうにかならないものか。
- ・ 市民の目，不審情報が行政に届く取り組みと，行政からのスピーディな発信。

【各種相談について】

問 18) あなたは、消費者トラブルに関する相談を、市役所3階の消費生活センターで受け付けていることを知っていますか。

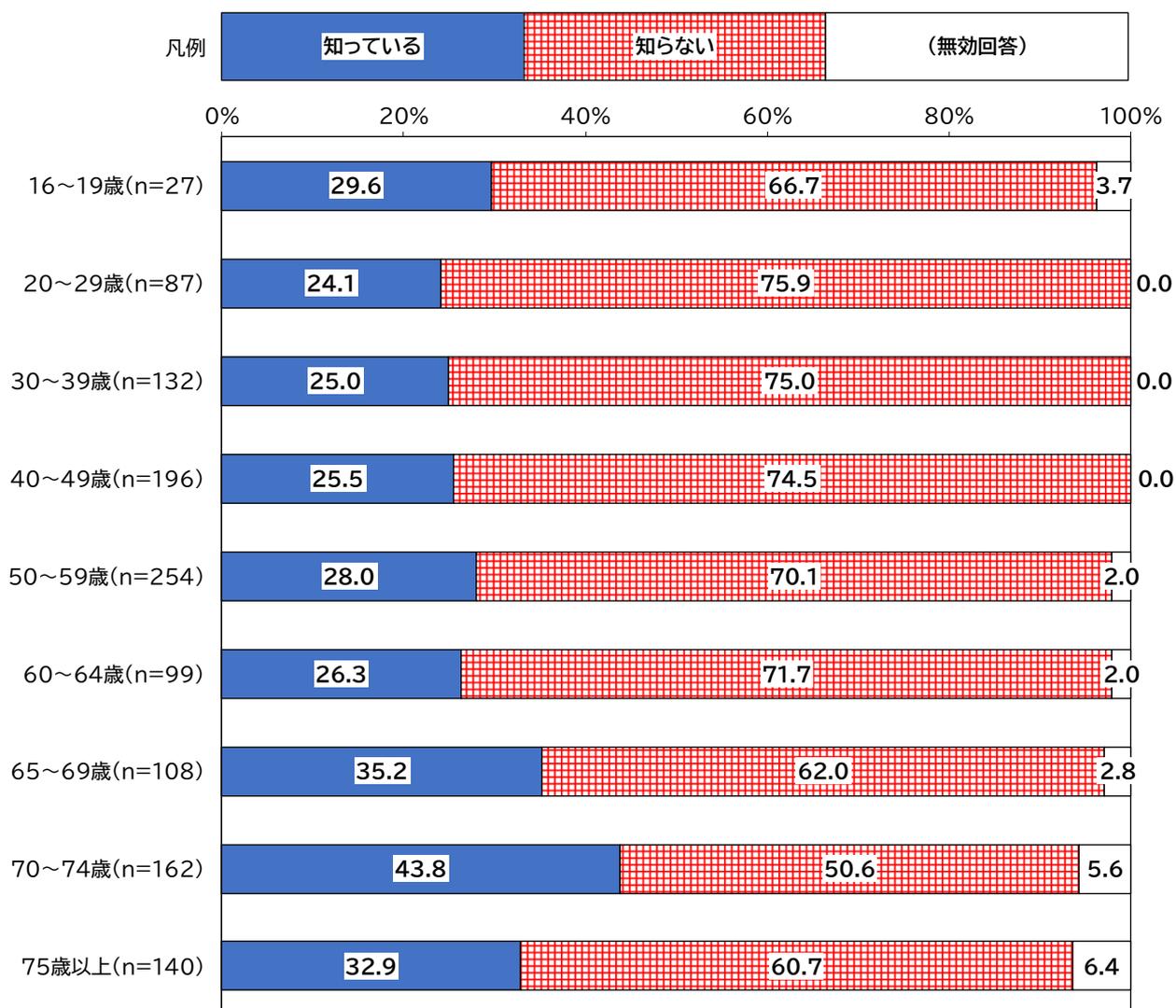
<全体 (n=1,211) >

○「知っている」は 30.1%であり、「知らない」の 67.3%を大きく下回っています。



<年齢層別>

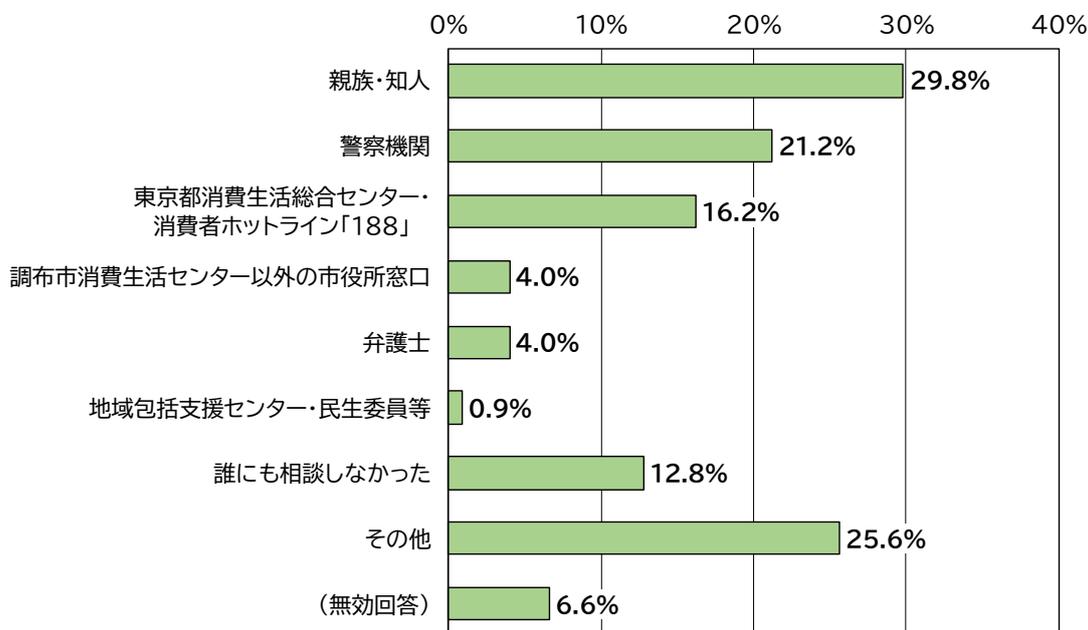
○70～74歳は、他の年齢層と比べて、「知っている」が高くなっています。



問 18-1) 問 18 で「知らない」と回答した方にうかがいます。消費者トラブルにあった場合にはどこに相談していますか。

<全体 (n=815) >

○相談相手としては「親族・知人」が 29.8%で最も高く、次いで「警察機関」の 21.2%の順となっています。なお、「誰にも相談しなかった」は 12.8%となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層においても、「親族・知人」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	815	18	66	99	146	178	71	67	82	85
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
親族・知人	243	7	26	30	45	44	19	16	23	30
	29.8%	38.9%	39.4%	30.3%	30.8%	24.7%	26.8%	23.9%	28.0%	35.3%
警察機関	173	3	13	14	27	38	14	16	18	28
	21.2%	16.7%	19.7%	14.1%	18.5%	21.3%	19.7%	23.9%	22.0%	32.9%
東京都消費生活総合センター・消費者ホットライン「188」	132	3	6	16	19	32	18	13	13	11
	16.2%	16.7%	9.1%	16.2%	13.0%	18.0%	25.4%	19.4%	15.9%	12.9%
調布市消費生活センター以外の市役所窓口	33	0	1	2	6	4	1	5	6	8
	4.0%	0.0%	1.5%	2.0%	4.1%	2.2%	1.4%	7.5%	7.3%	9.4%
弁護士	33	0	3	3	6	4	3	7	1	6
	4.0%	0.0%	4.5%	3.0%	4.1%	2.2%	4.2%	10.4%	1.2%	7.1%
地域包括支援センター・民生委員等	7	0	0	0	0	3	0	1	2	1
	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	1.5%	2.4%	1.2%
誰にも相談しなかった	104	3	14	19	18	29	7	5	5	4
	12.8%	16.7%	21.2%	19.2%	12.3%	16.3%	9.9%	7.5%	6.1%	4.7%
その他	209	2	13	27	41	46	23	13	24	20
	25.6%	11.1%	19.7%	27.3%	28.1%	25.8%	32.4%	19.4%	29.3%	23.5%
(無効回答)	54	1	4	4	5	11	5	9	9	6
	6.6%	5.6%	6.1%	4.0%	3.4%	6.2%	7.0%	13.4%	11.0%	7.1%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：



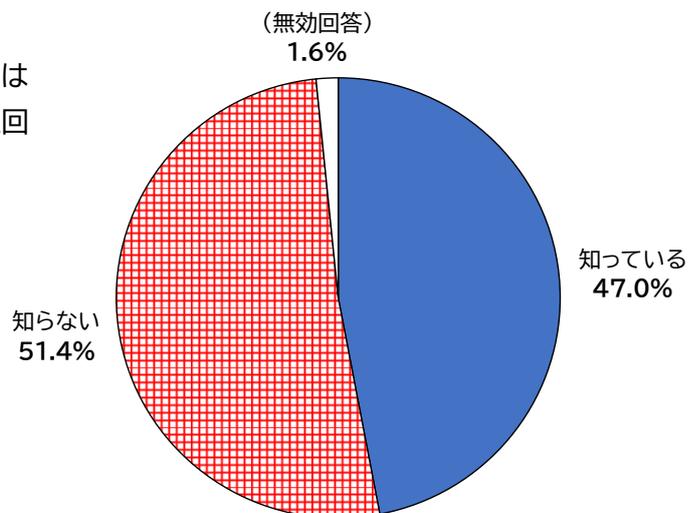
【地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉について】

問19) あなたは、地域福祉や高齢者福祉に関する次の相談窓口を知っていますか。

地域包括支援センター

<全体 (n=1,211) >

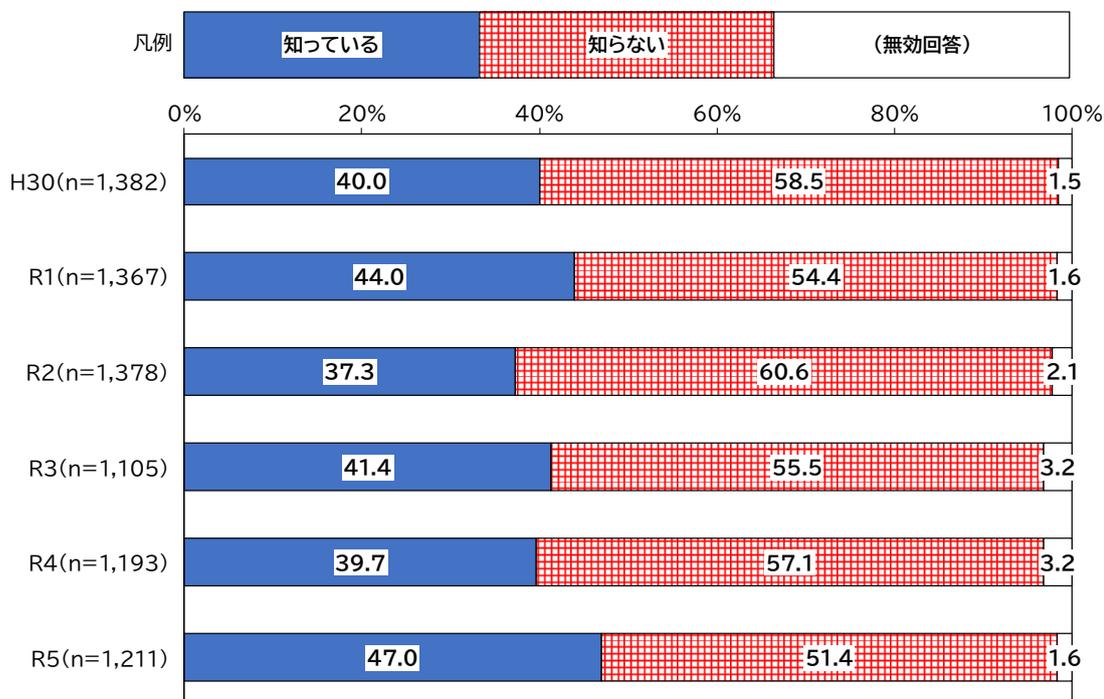
○「知っている」は 47.0%、「知らない」は 51.4%であり、後者が前者を 4.4 ポイント上回っています。



※地域包括支援センターは、市内8箇所・サブセンター2箇所高齢者に関するさまざまな相談のほか、介護予防ケアマネジメント業務、成年後見制度の利用手続や高齢者虐待に関する相談などの権利擁護業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務などを行っています。

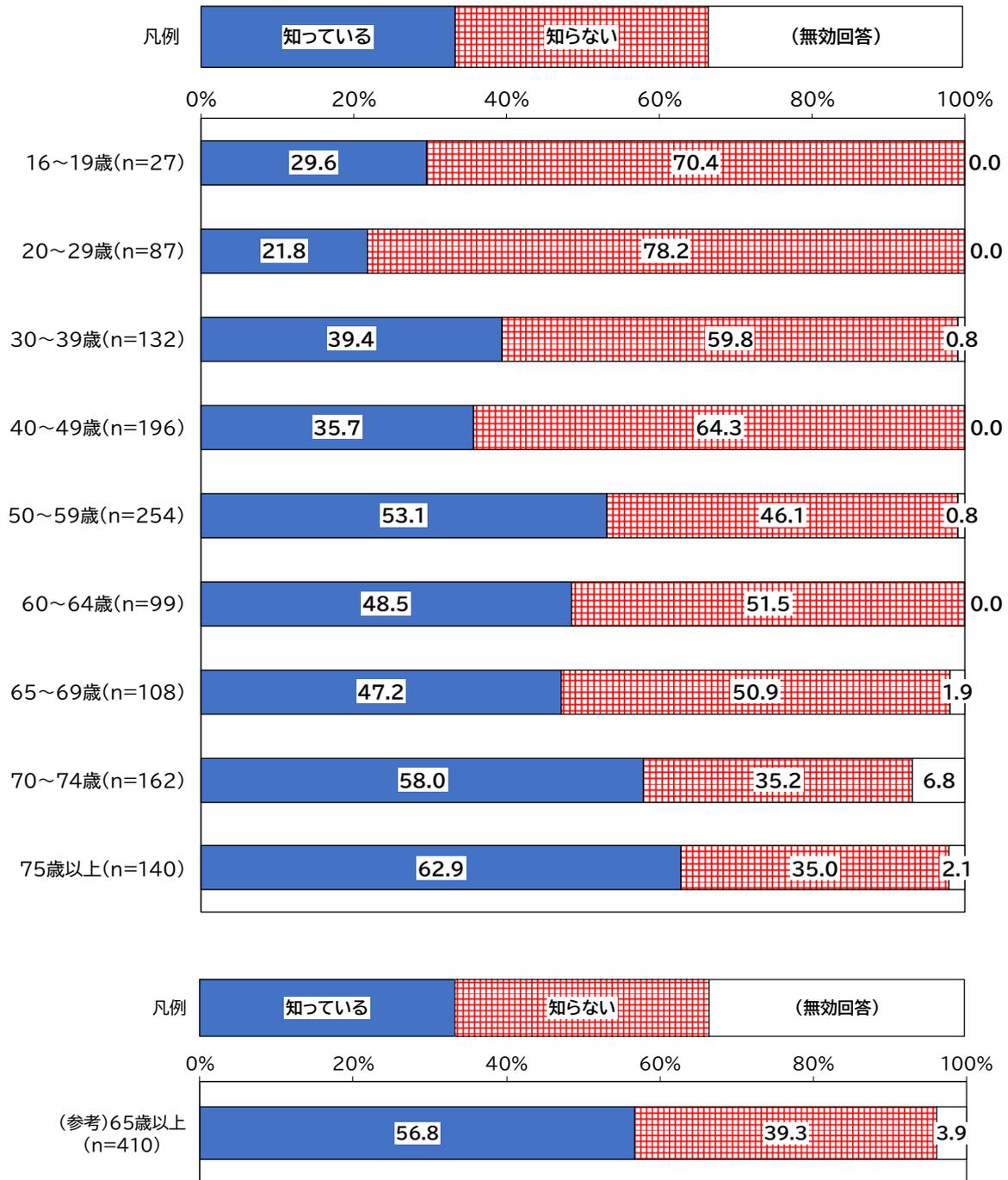
<経年比較>

○「知っている」(47.0%)は、令和4年度(39.7%)に比べ7.3ポイント増加しています。



<年齢層別>

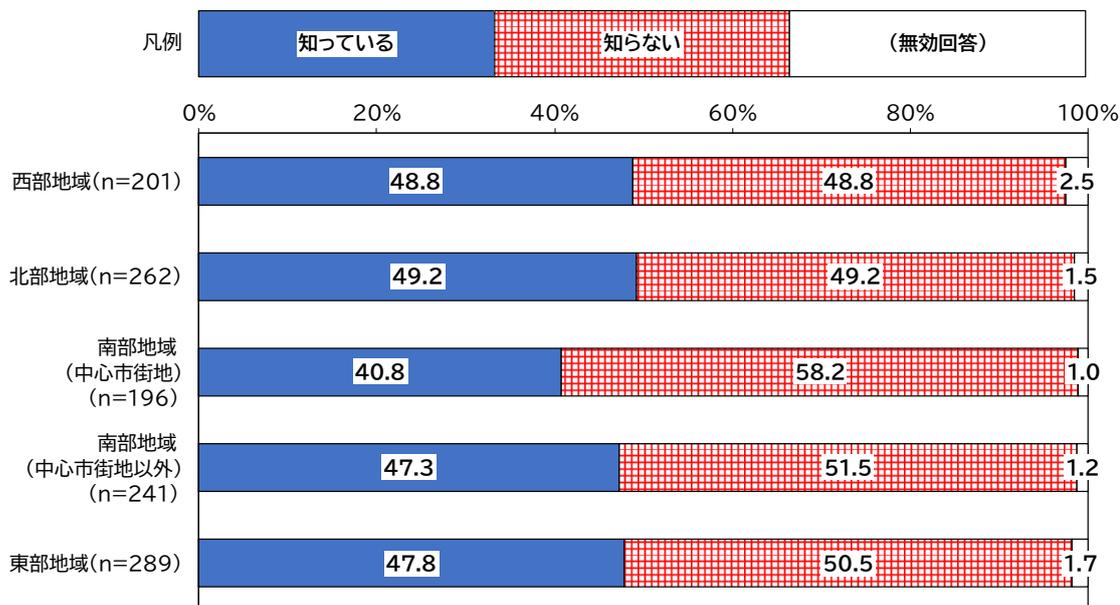
○「知っている」はおおむね年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあり、50歳以上では40%を超えています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

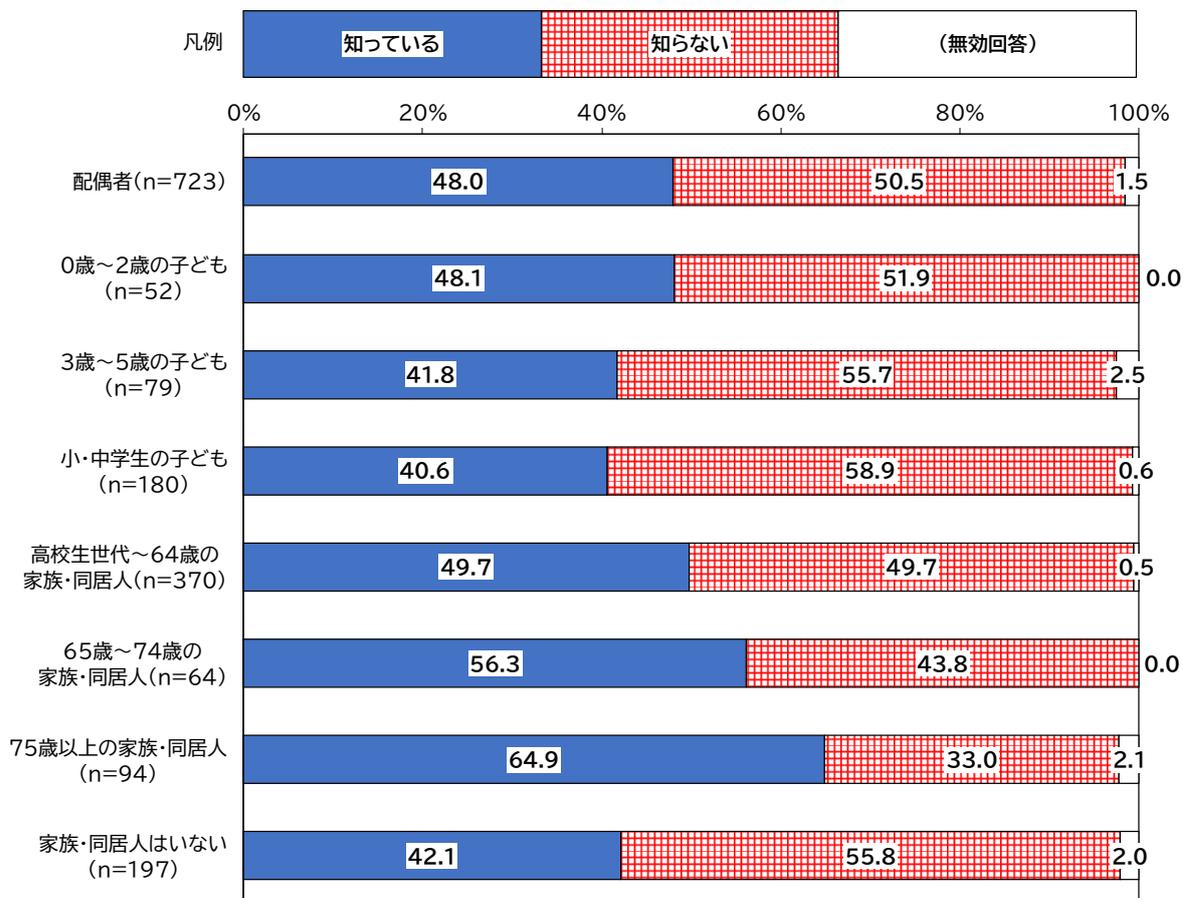
#### <地域別>

○いずれの地域でも「知っている」は40%を超えています。 「南部地域（中心市街地）」で他の地域と比較してやや低くなっています。



#### <同居人別>

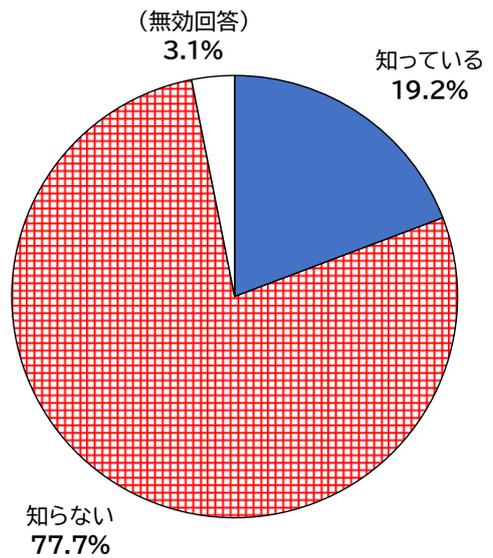
○「75歳以上の家族・同居人」で「知っている」が約65%と、他の年齢層と比較して高くなっています。



地域福祉コーディネーター

<全体 (n=1,211) >

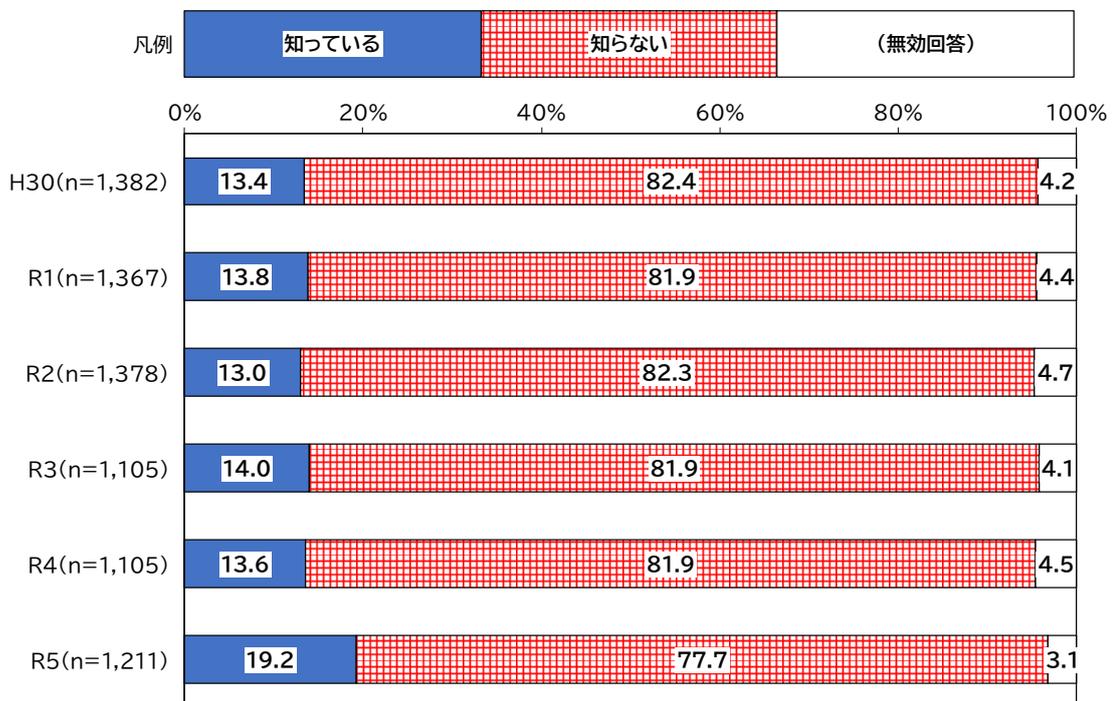
○「知っている」は 19.2%であり、「知らない」の 77.7%を大きく下回っています。



※地域福祉コーディネーターは、市内を8つに分けた福祉圏域にそれぞれ1人を配置し、既存の公的な福祉サービスだけでは十分な対応ができない方、制度の狭間で困っている方などに対し、地域の生活課題の解決に向けた相談・支援を行っています。

<経年比較>

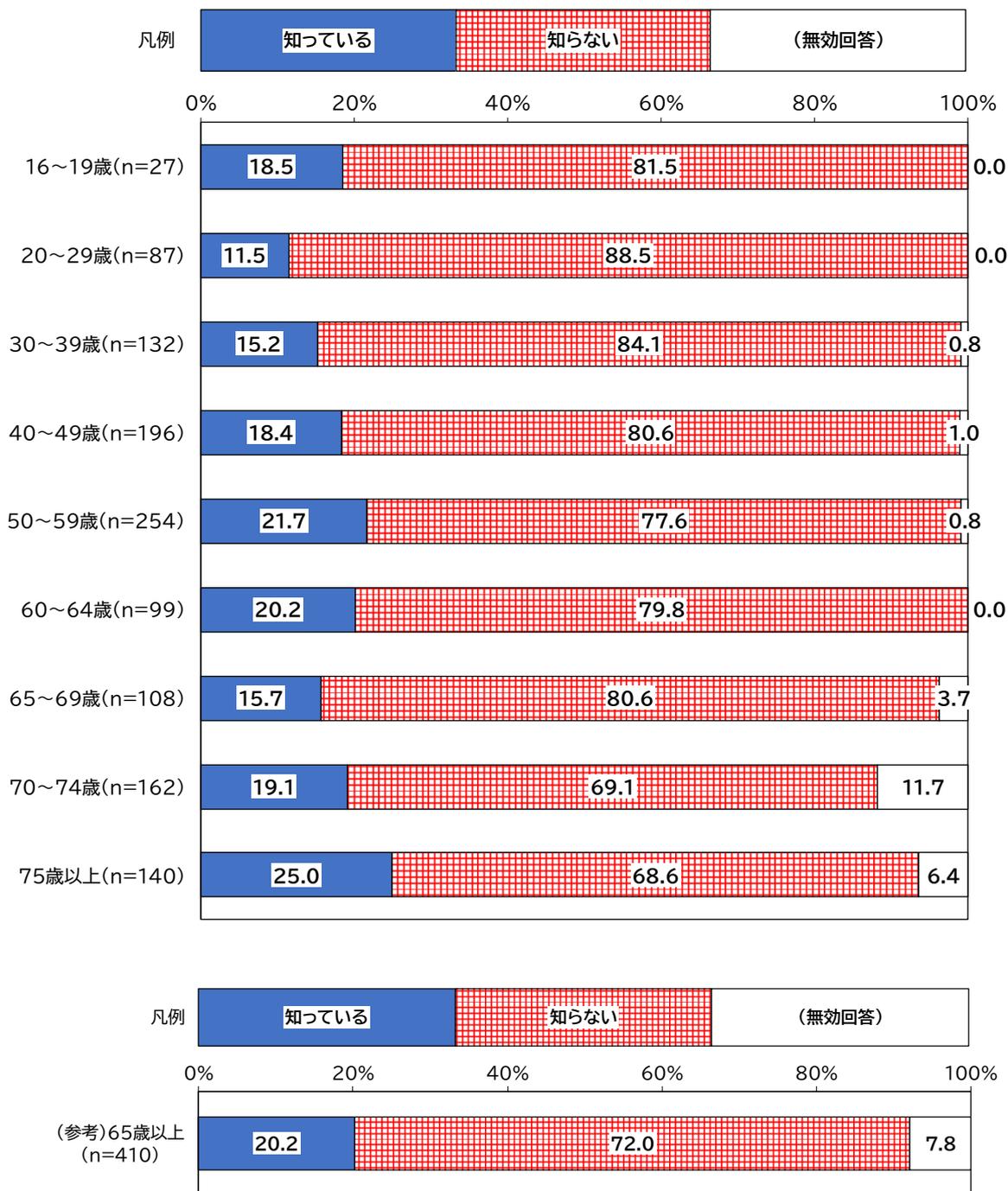
○「知っている」は、平成30年度以降横ばいで推移していましたが、令和5年度(19.2%)は令和4年度(13.6%)に比べ5.6ポイント増加しています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

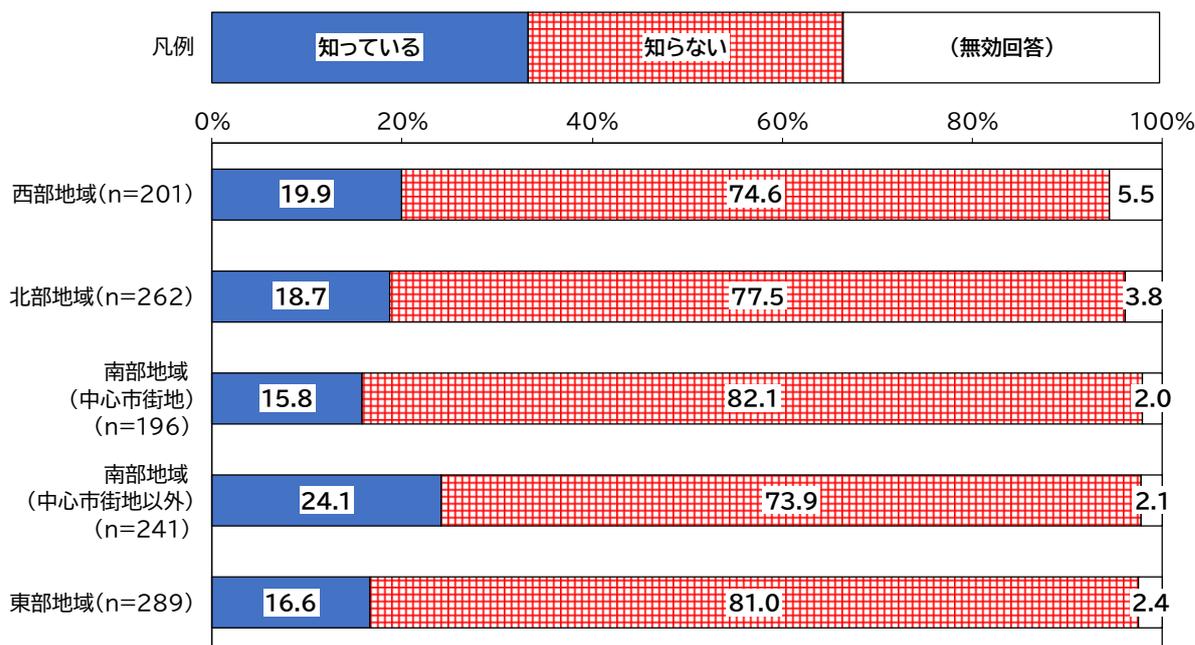
#### <年齢層別>

○「知っている」は、50～59歳、60～64歳及び75歳以上で20%を超えています。その他の年齢層では10%台にとどまっています。



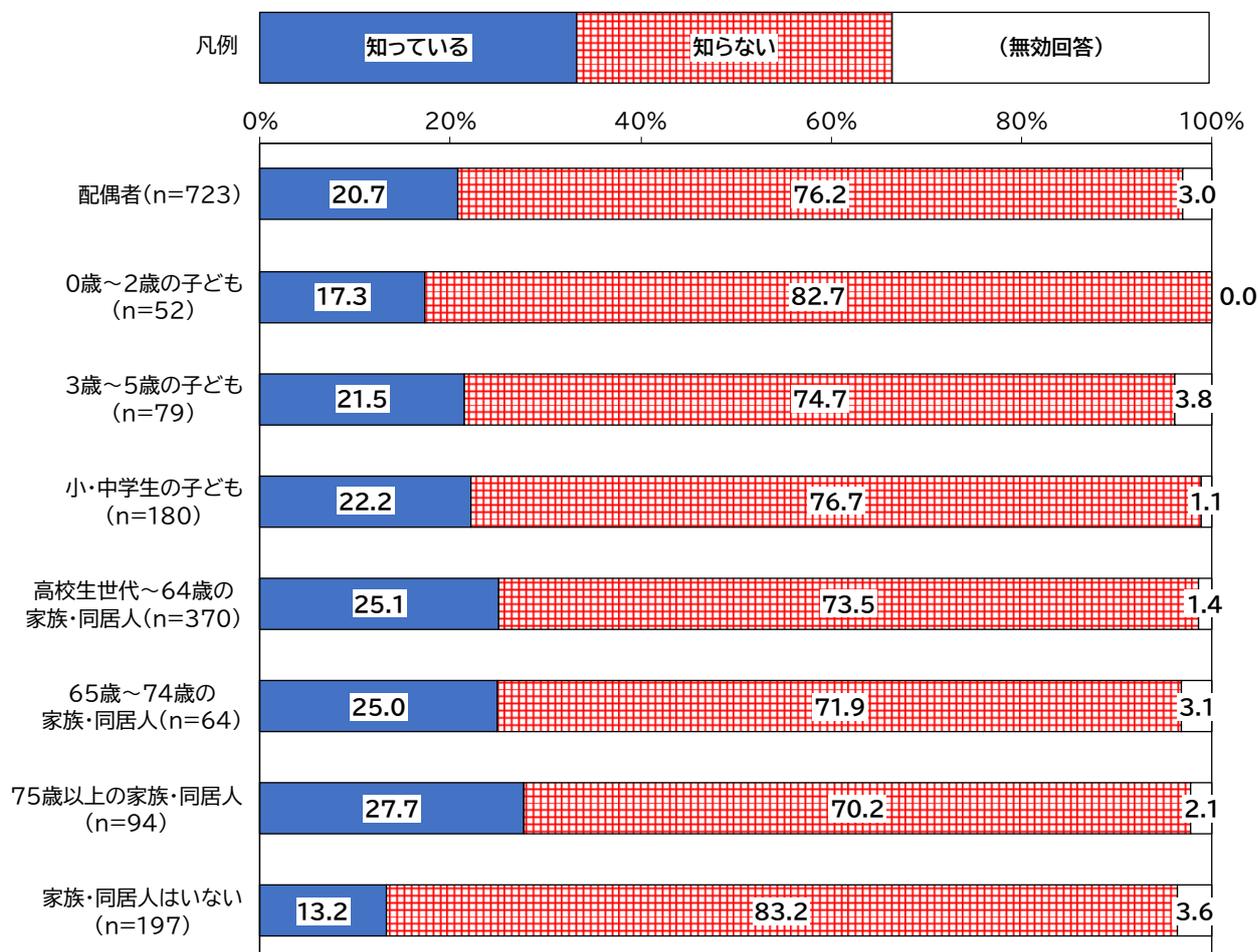
<地域別>

○「知っている」は、「南部地域（中心市街地以外）」で20%を超え、他の地域と比較して高くなっています。



<同居人別>

○同居人が「0～2歳の子ども」,「家族・同居人はいない」で「知っている」が10%台にとどまり、他の年齢層と比較して低くなっています。

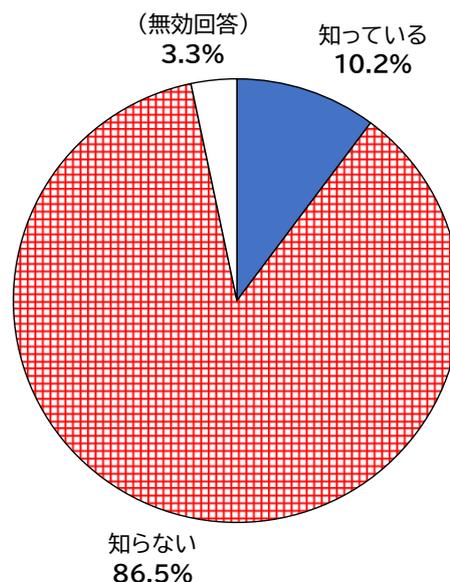


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### 地域支え合い推進員

<全体 (n=1,211) >

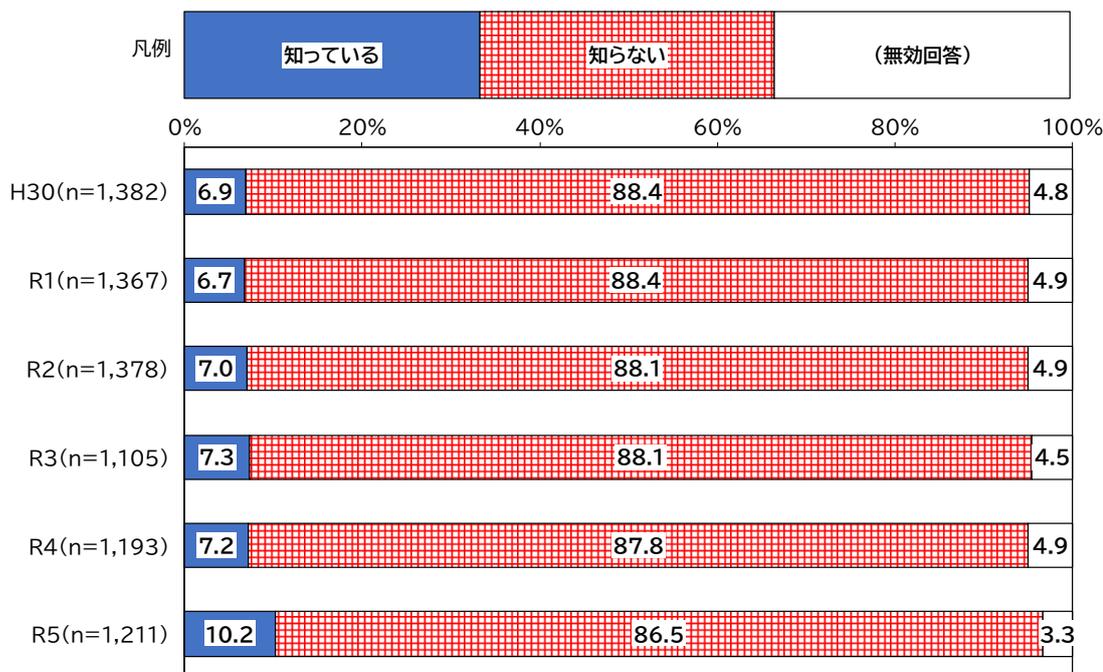
- 「知っている」は 10.2%、「知らない」は 86.5%であり、後者が前者を大きく上回っています。



※地域支え合い推進員は、市全域を活動エリアとする推進員に加え、市内を8つに分けた福祉圏域に段階的に配置を進めています。介護予防や交流を目的とした活動に関する相談等に応じるなど、高齢者等が地域の中で安全・安心に暮らしていけるよう、生活支援・介護予防サービスの充実や強化に取り組んでいます。

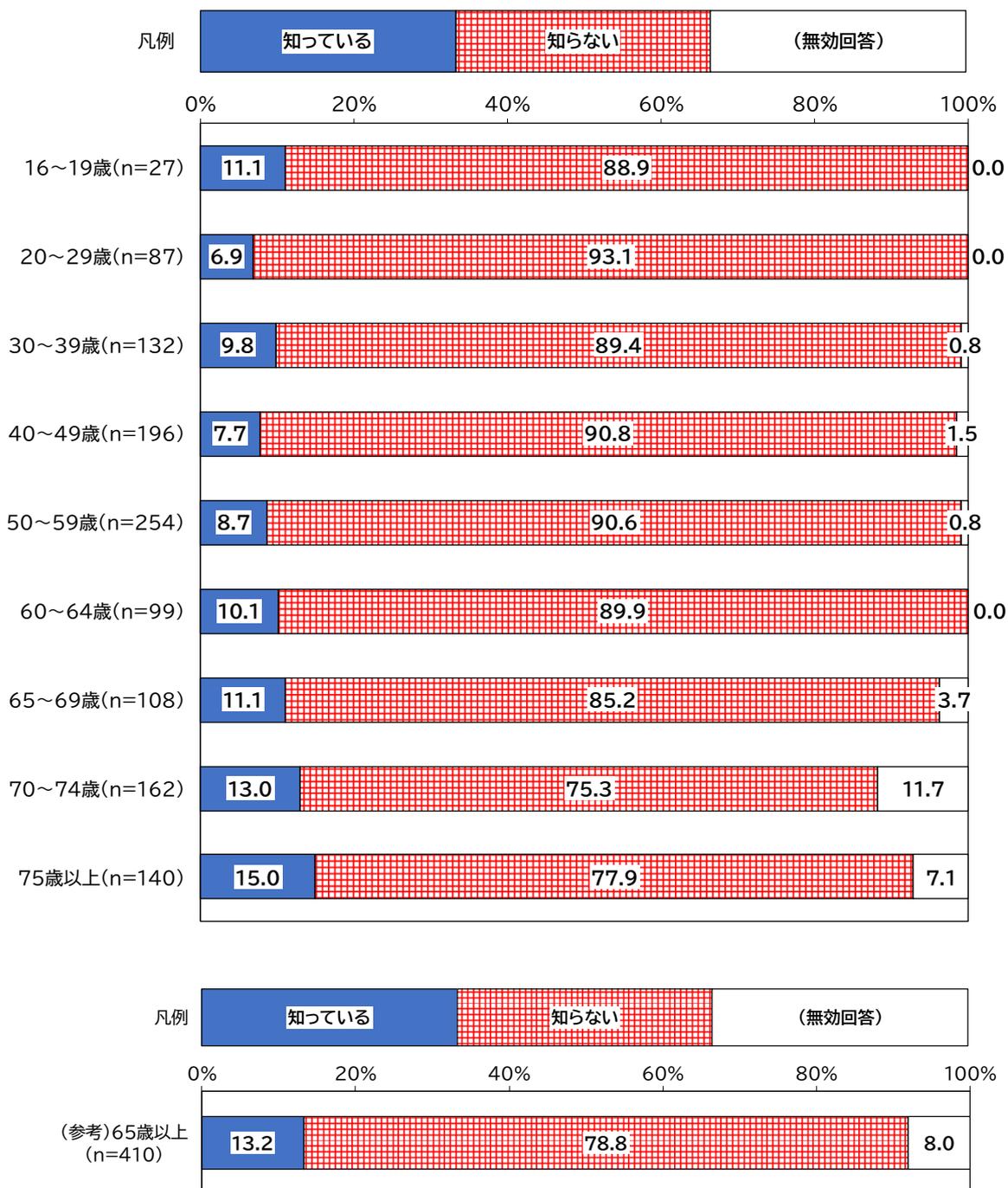
#### <経年比較>

- 「知っている」は、平成30年度以降横ばいで推移していましたが、令和5年度（10.2%）は令和4年度（7.2%）に比べ3.0ポイント増加しています。



<年齢層別>

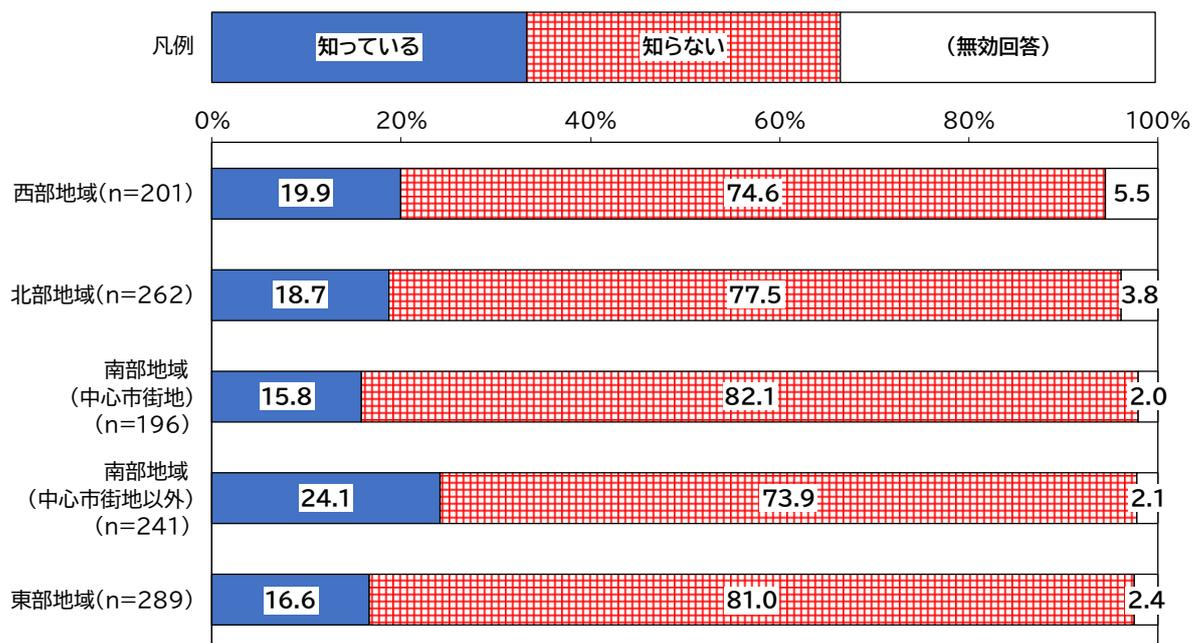
○「知っている」は最も高い75歳以上でも15.0%にとどまっており、20~29歳及び40~59歳で「知らない」が90%を超えています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

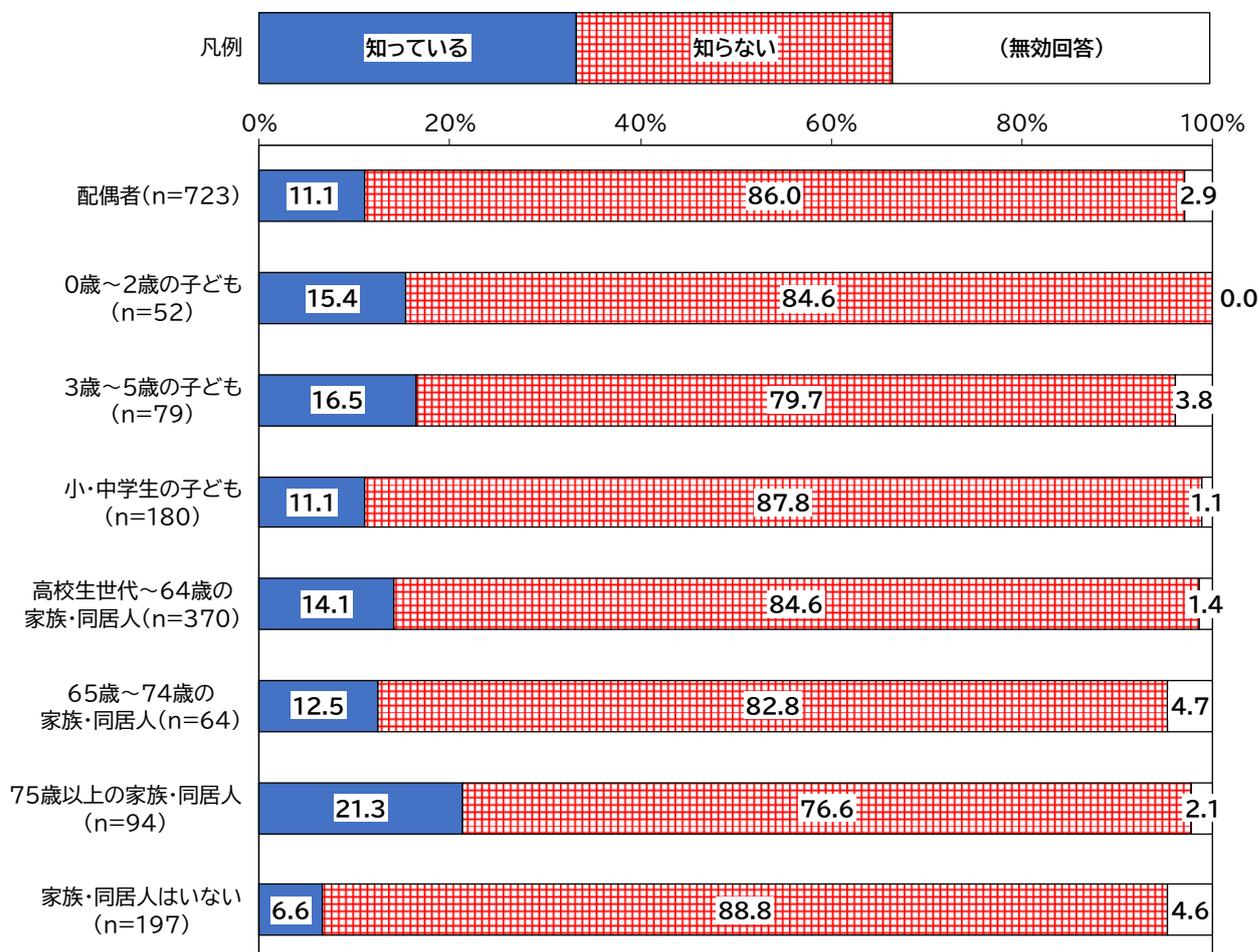
#### <地域別>

○「知っている」は、「南部地域（中心市街地以外）」で 20%を超え、他の地域と比較して高くなっています。



#### <同居人別>

○「知っている」は、「75歳以上の家族・同居人」で 20%を超え、他の年齢層と比較して高くなっています。



<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 地域福祉，高齢者・障害者福祉についてのご意見・ご提案】（42件）

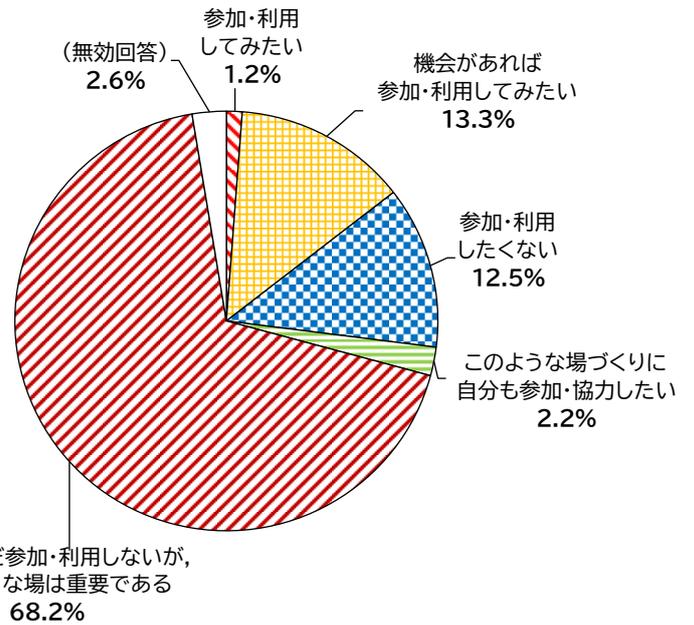
- ・ どこへ相談すれば良いかわかりづらい。
- ・ 介護認知度の審査をしっかりとってほしい。適正な審査の教育をして欲しい。
- ・ 地域が入り組んでいるため，包括支援センターは住んでいる場所によって近くの支援センターではなく，離れたところまでいかねばならない。何丁目何番地への考慮が必要ではないか。
- ・ 親のことでお世話になりましたが，圧倒的な人手不足を感じました。
- ・ 高齢者が身を寄せられる施設の充実。
- ・ 地域施設のバリアフリー化。障害者雇用。在宅医療が受けられるようにして欲しい。

問 20) あなたは、地域における交流の場（「ひだまりサロン※」など）についてどのように感じますか。

<全体 (n=1,211) >

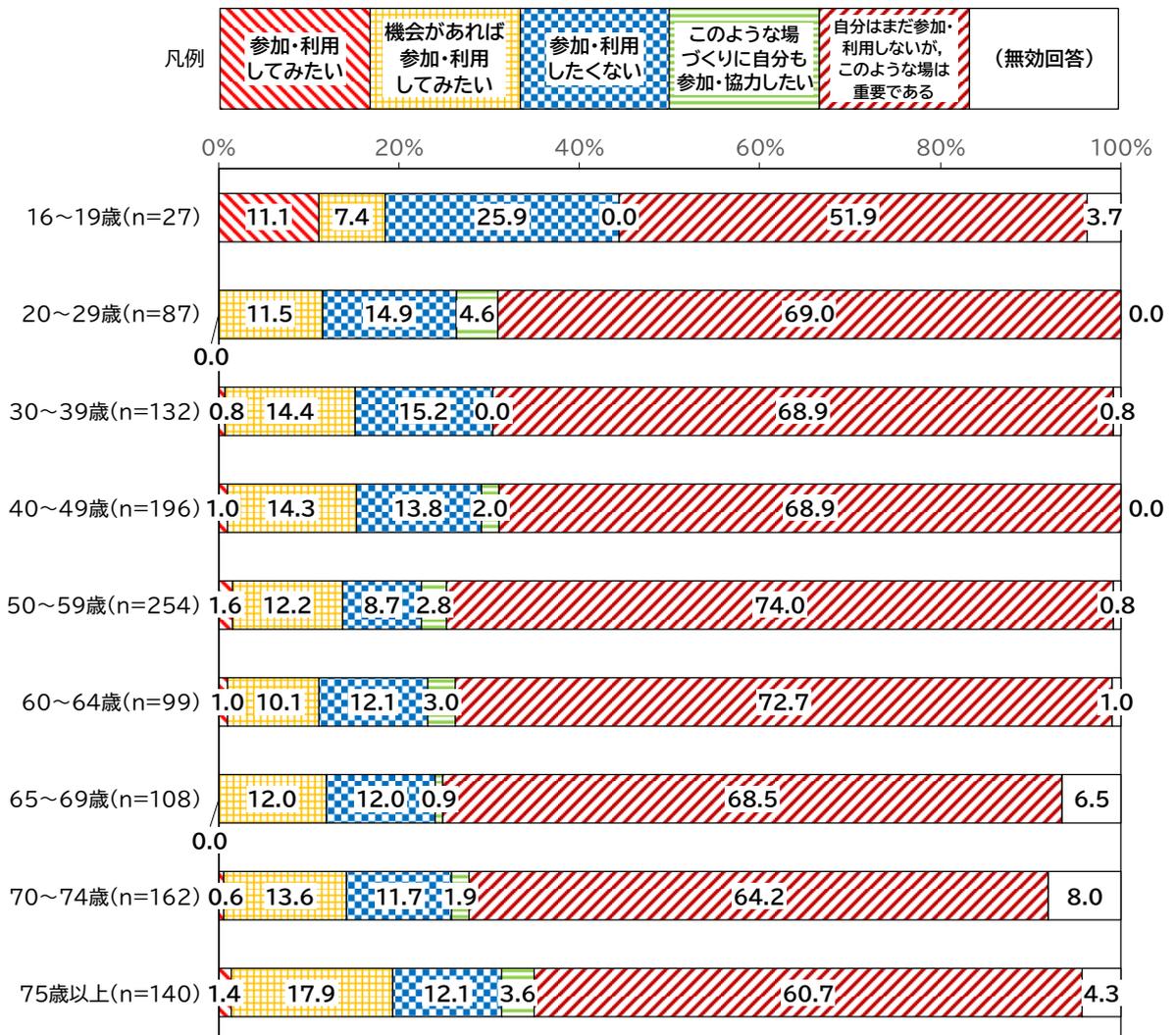
○「自分はまだ参加・利用しないが、このような場は重要である」が 68.2%で最も高く、次いで「機会があれば参加・利用してみたい」の 13.3%、「参加・利用したくない」の 12.5%の順となっています。

※「ひだまりサロン」とは、市民が主体となり、自宅や公共施設等のスペースを活用して、ご近所同士など市民が気軽に集い、お茶やお食事をしながら、おしゃべりや趣味活動などを行う場です。市内にはひだまりサロン（令和5年3月31日現在 91箇所）をはじめとした様々な交流活動の場があります。



<年齢層別>

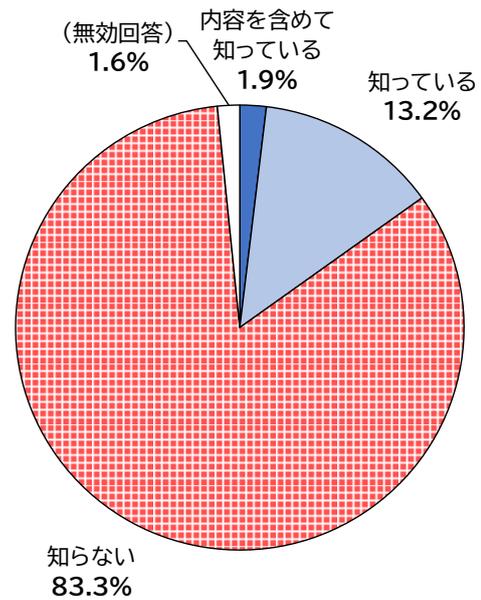
○16～19歳で「参加・利用してみたい」が 11.1%と高くなっていますが、「参加・利用してみたい」と「機会があれば参加・利用してみたい」の合計は、いずれの年齢層も 10%台にとどまっています。



問21) あなたは、「パラハート月間※」を知っていますか。

<全体 (n=1,211) >

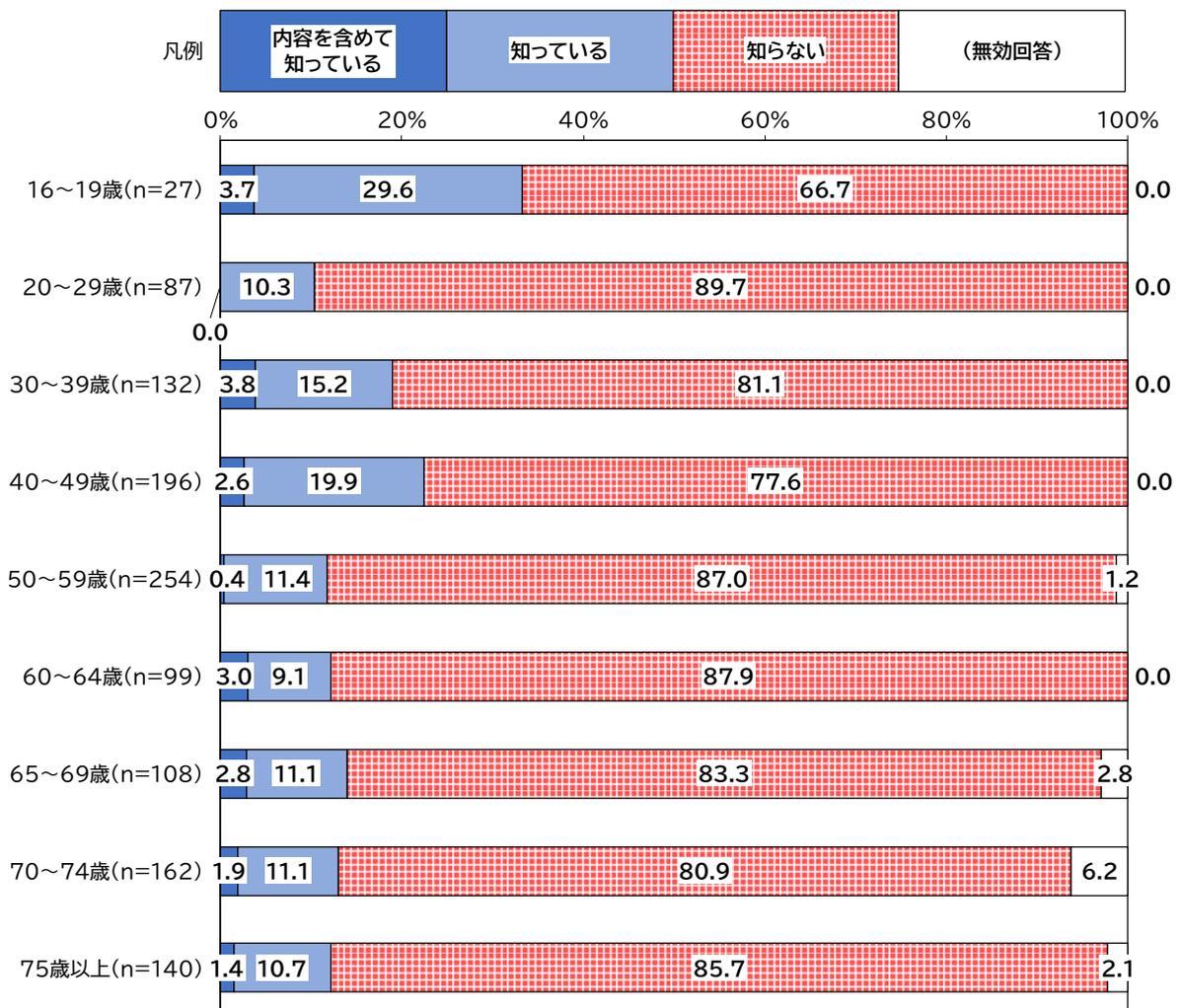
○「内容を含めて知っている」は 1.9%、「知っている」は 13.2%であり、合計で 15.1%となっています。



※障害者基本法により、毎年 12 月 3 日から 12 月 9 日までが障害者週間とされていることに合わせ、調布市において、この期間を含む 12 月の 1 箇月間を「パラハート」月間と位置付け、障害理解を推進するための普及啓発活動などを行っています。

<年齢層別>

○16～19 歳で、「内容を含めて知っている」、「知っている」の合計が 33.3%と最も高く、次いで 40～49 歳の 22.5%、30～39 歳の 19.0%の順となっています。



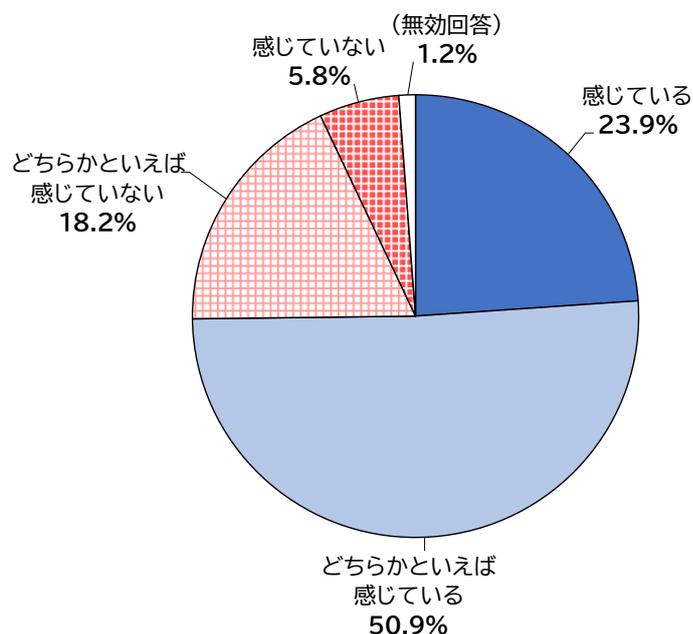
【健康づくりについて】

問 22) あなたは、心身ともに健康だと感じていますか。

<全体 (n=1,211) >

○心身ともに健康だと「感じている」は 23.9%、「どちらかといえば感じている」は 50.9%であり、合計で 74.8%を占めています。

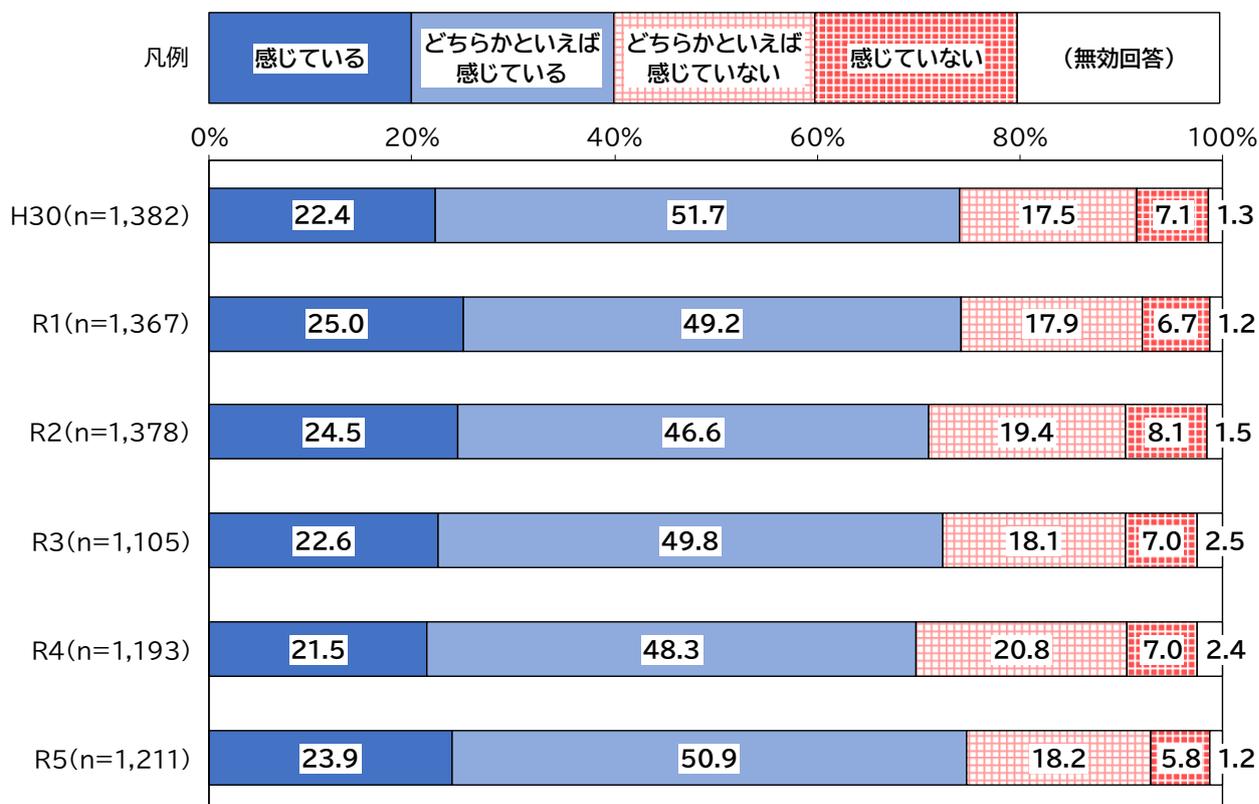
○一方、「感じていない」と「どちらかといえば感じていない」の合計は 24.0%となっています。



<経年比較>

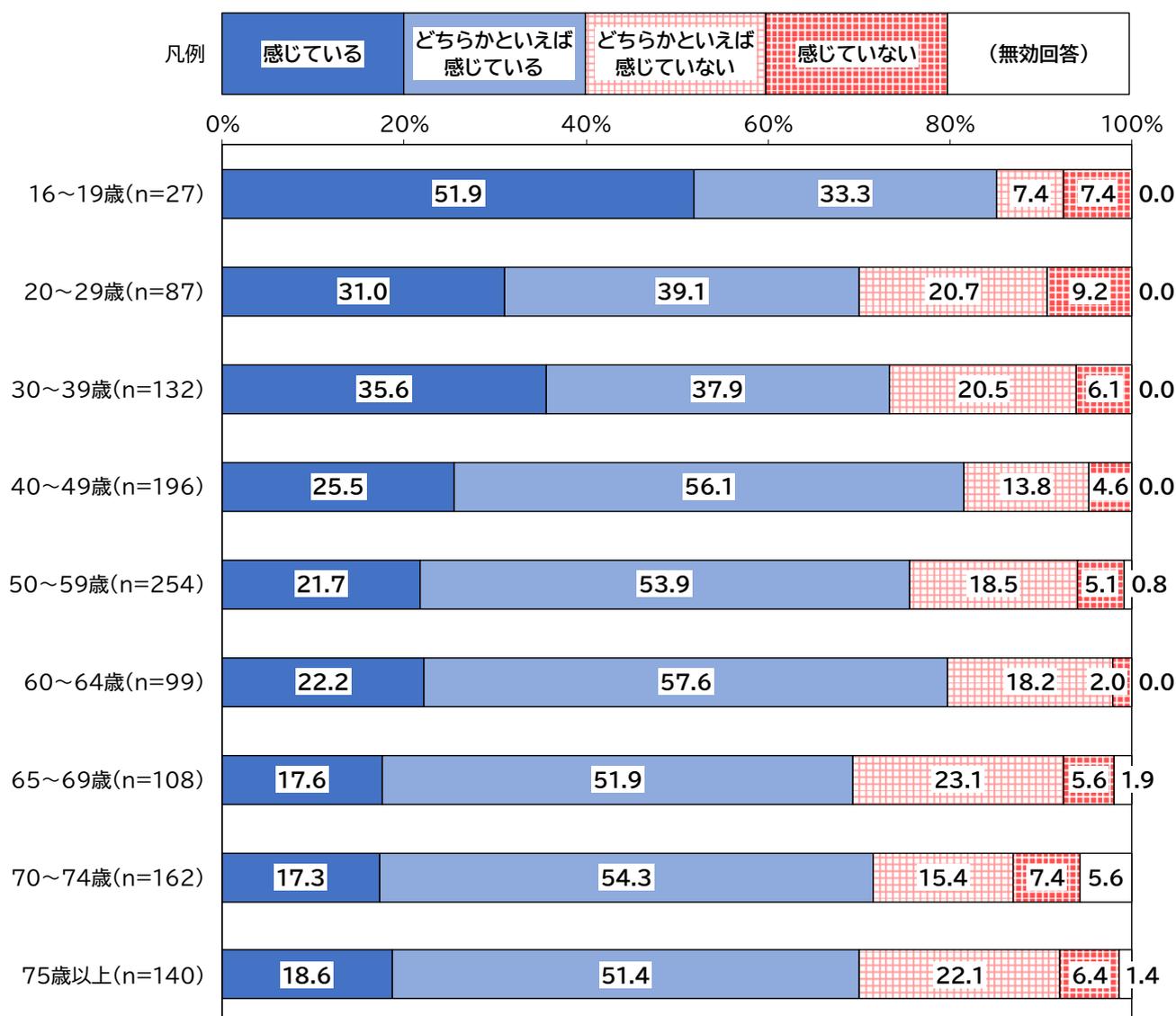
○「感じている」、「どちらかといえば感じている」の合計 (74.8%) は、令和 4 年度 (69.8%) に比べ 5.0 ポイント増加しています。

○「感じていない」、「どちらかといえば感じていない」の合計 (24.0%) は、令和 4 年度 (27.8%) に比べ 3.8 ポイント減少しています。



<年齢層別>

○「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計は、16～19歳及び40～49歳で80%を超えて高く、65～69歳を除いた年齢層で70%を超えています。



<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 健康づくりに関する施策についてのご意見・ご提案】(64件)

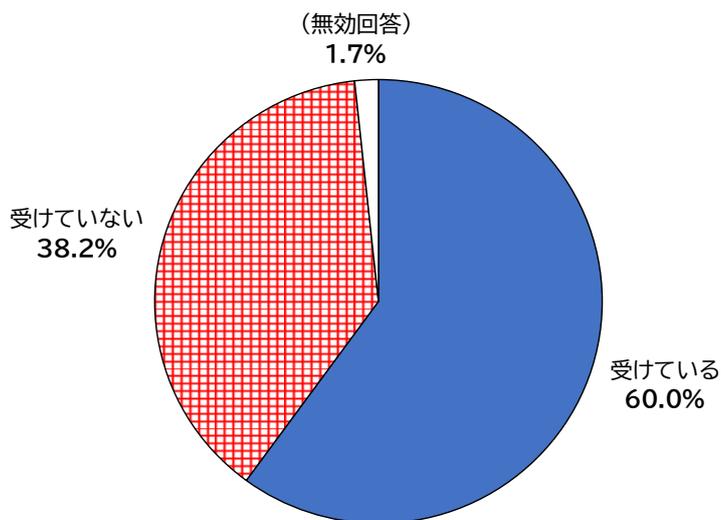
- ・市のスポーツに申し込んだが応募者が多くて厳しい。もう少し講座を増やして欲しい。
- ・公園等に運動器具があればいい。
- ・5～6年前に健康づくりに参加した事があったが、とてもハードでついていけなかった。
- ・産後の母親へのサポート、支援。
- ・ひだまりサロンのように年齢の若い層や精神疾患の人が集まりやすい所があると良い。
- ・市民健診の内容をもっと多くの項目にして欲しい。胃がん検診をバリウムではなく内視鏡検診にしていきたい。

問23) あなたは、定期的に以下の検診を受けていますか。

**歯科検診**

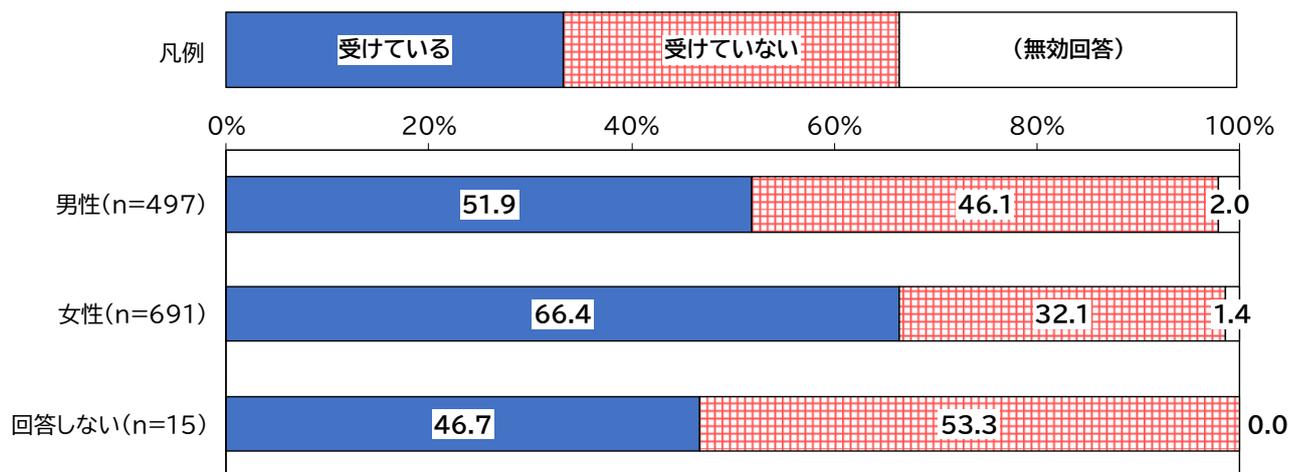
<全体 (n=1,211) >

○「受けている」は 60.0%、「受けていない」は 38.2%であり、「受けている」の割合が大きく上回っています。



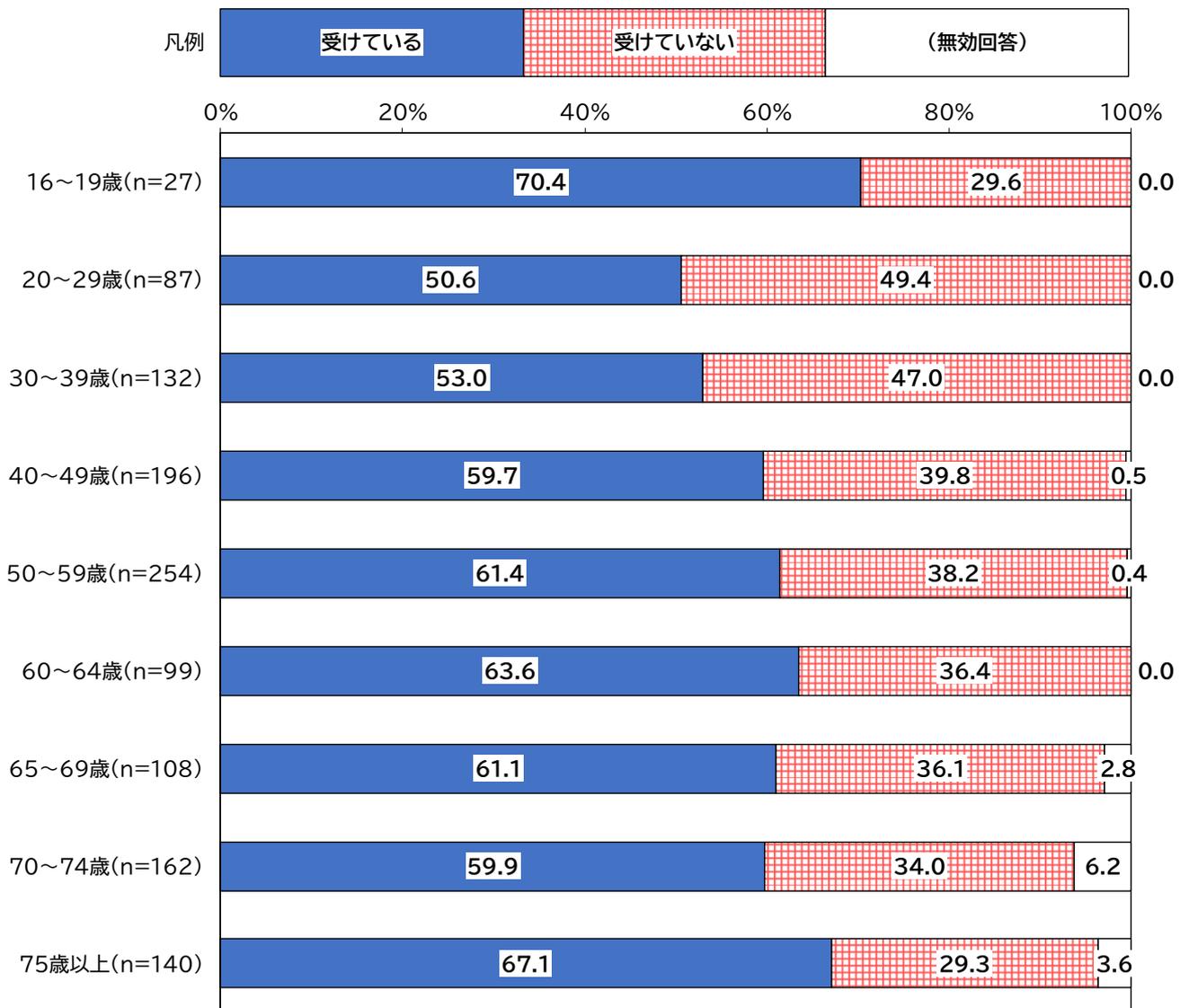
<性別>

○「受けている」は男性が 51.9%、女性は 66.4%で、女性が男性を 14.5 ポイント上回っています。



<年齢層別>

○「受けている」は、16～19歳が70.4%と最も高く、いずれの年齢層も50%を超えています。

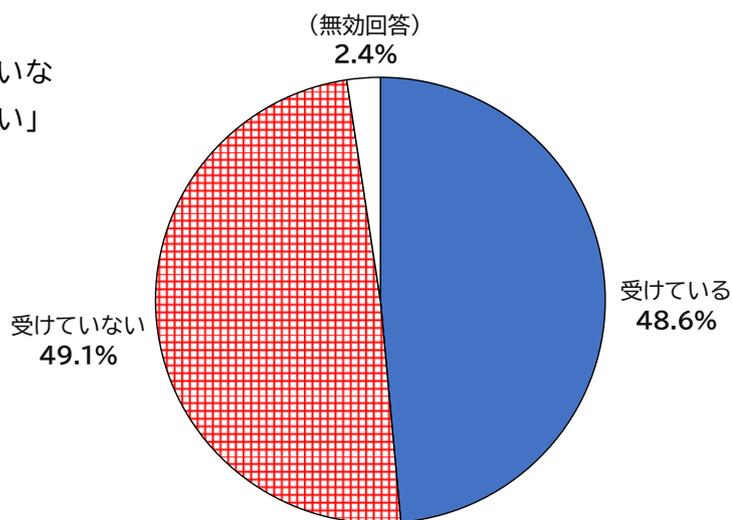


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### がん検診

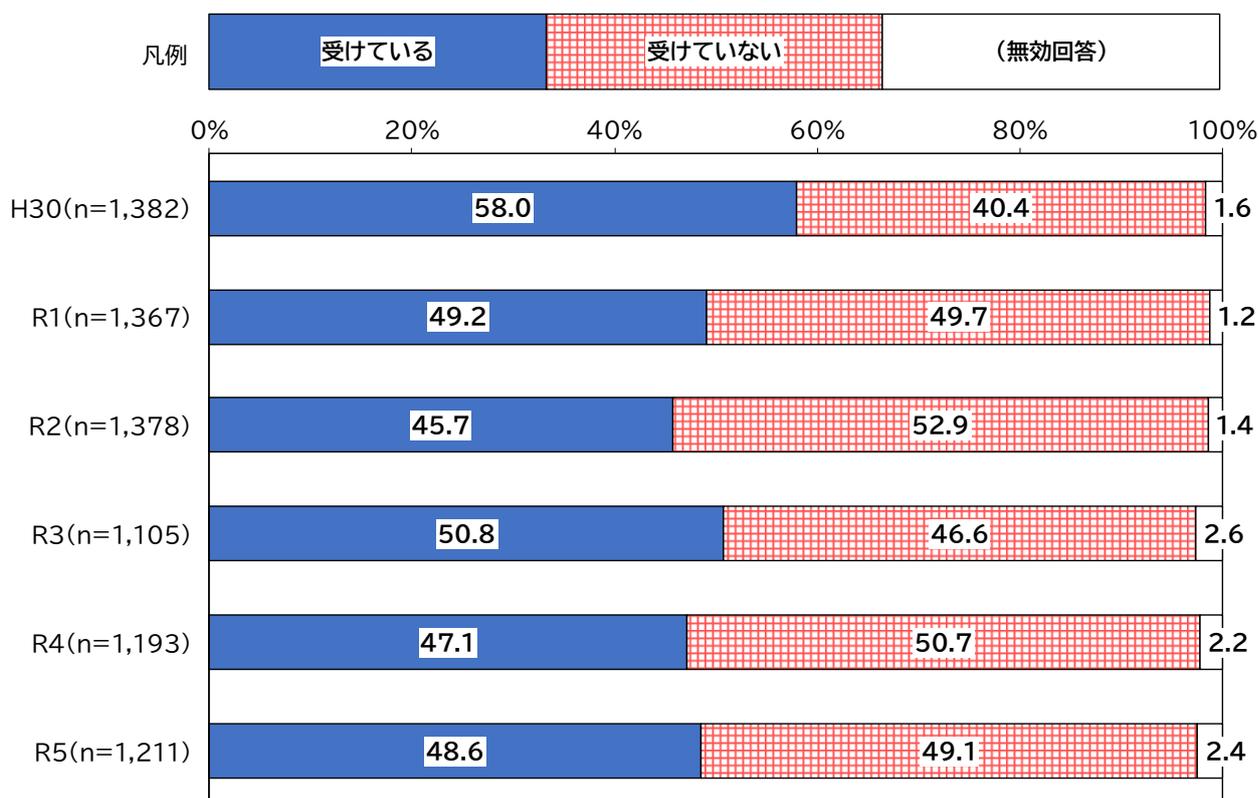
<全体 (n=1,211) >

○「受けている」は 48.6%、「受けていない」は 49.1%であり、「受けていない」の割合がやや高くなっています。



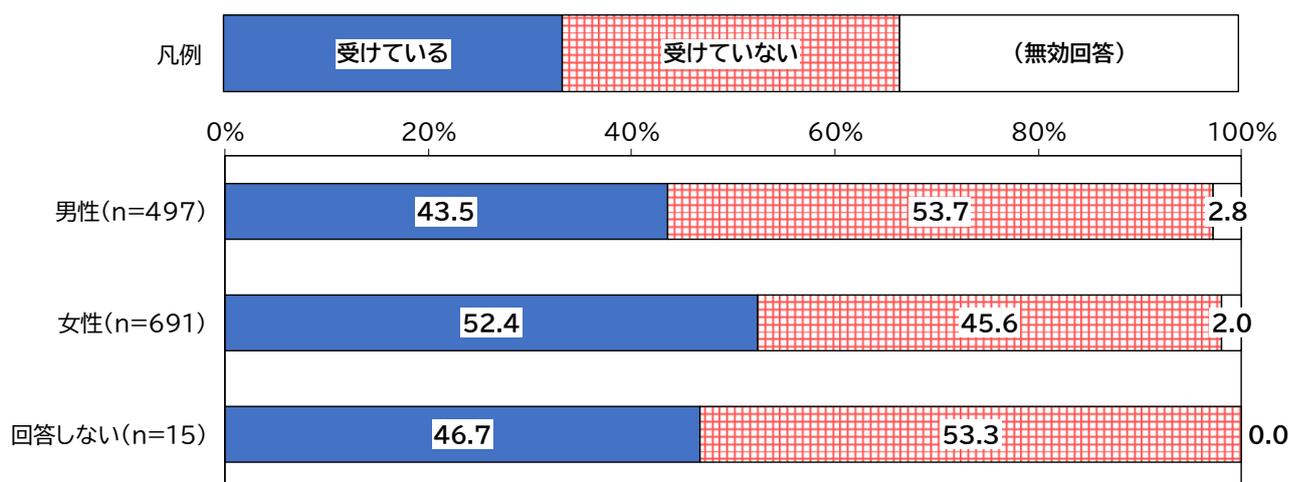
<経年比較>

○「受けている」(48.6%)は、令和4年度(47.1%)に比べて1.5ポイント増加していますが、平成30年度(58.0%)と比べると9.4ポイント減少しています。



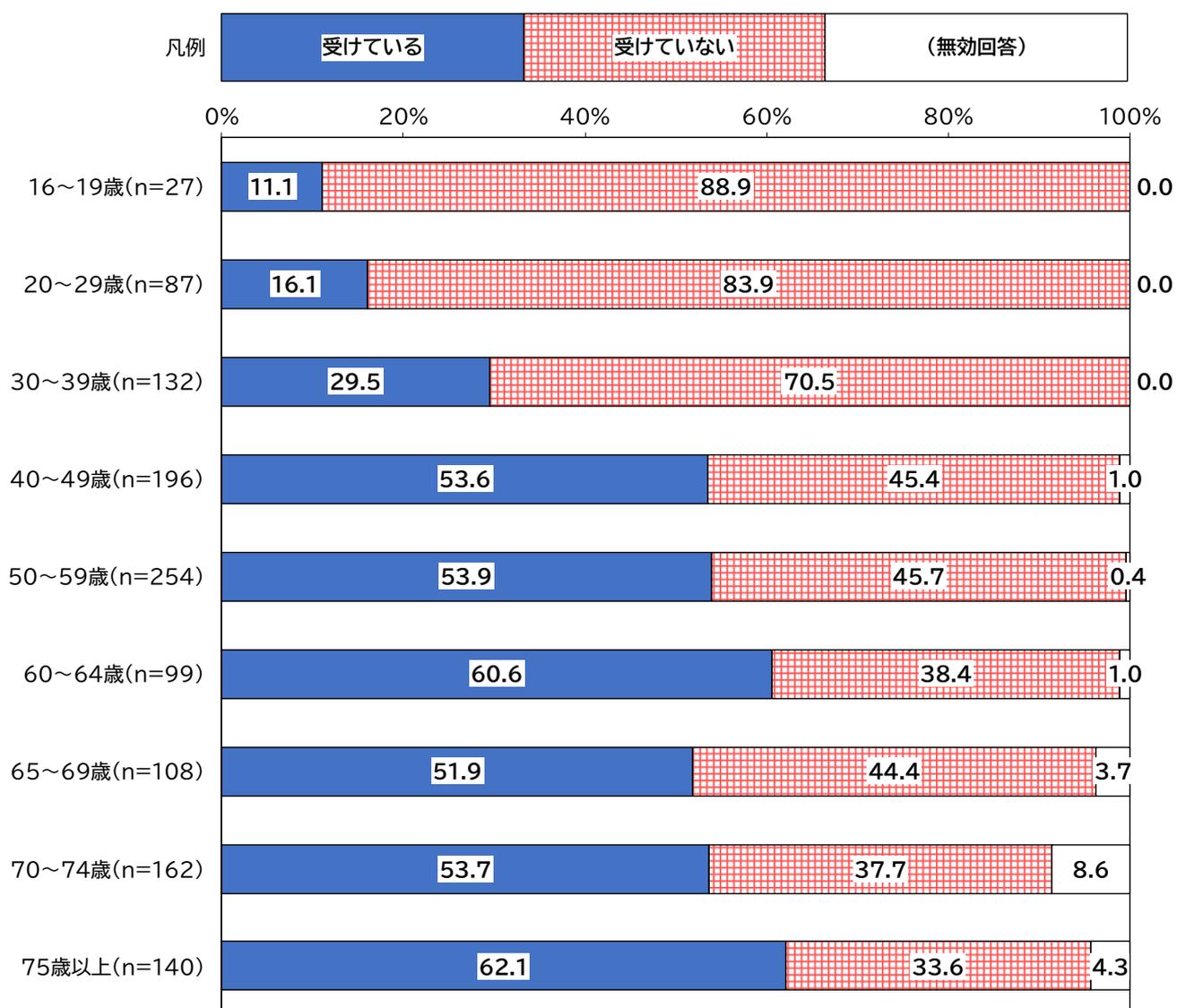
<性別>

○「受けている」は男性が43.5%，女性は52.4%で，女性が男性を8.9ポイント上回っています。



<年齢層別>

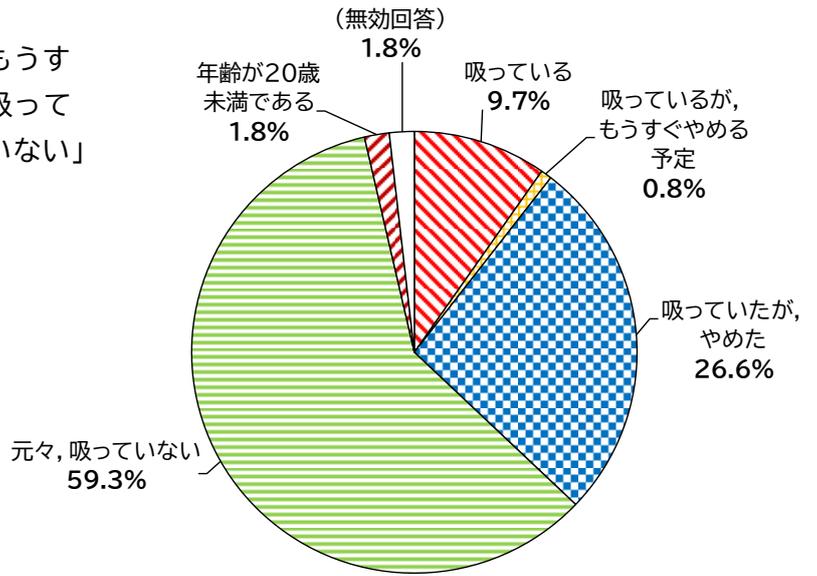
○「受けている」は，40歳以上の年齢層では50%を超えています。



問 24) あなたは普段、たばこ（紙巻きたばこ・加熱式たばこ，葉巻）を吸いますか。（ここでは，受動喫煙（他の方の喫煙によりたばこの煙を吸ってしまうこと）は含みません。）

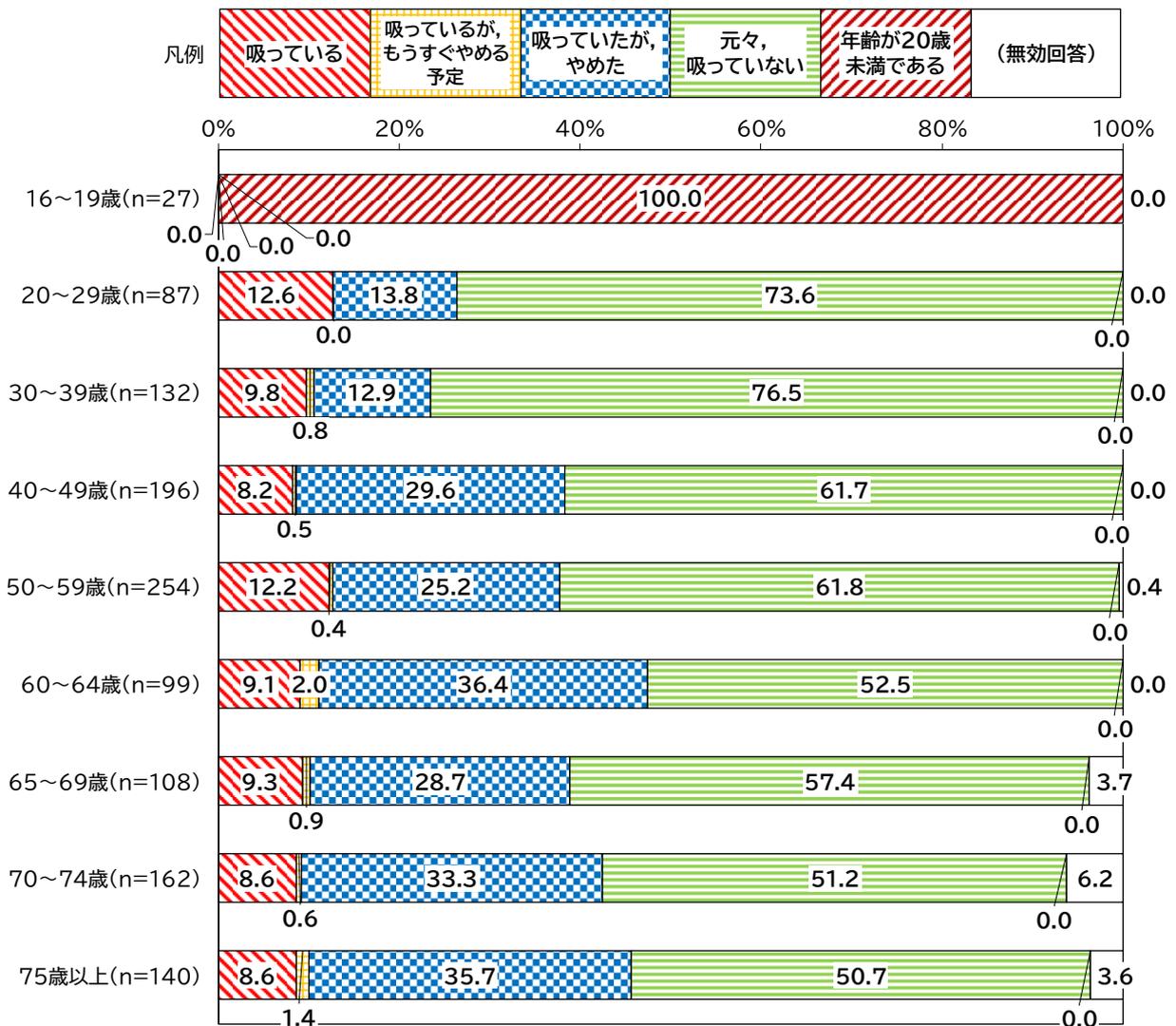
<全体 (n=1,211) >

- 「吸っている」と「吸っているが，もうすぐやめる予定」の合計が 10.5%，「吸っていたが，やめた」と「元々，吸っていない」の合計が 85.9%となっています。



<年齢層別>

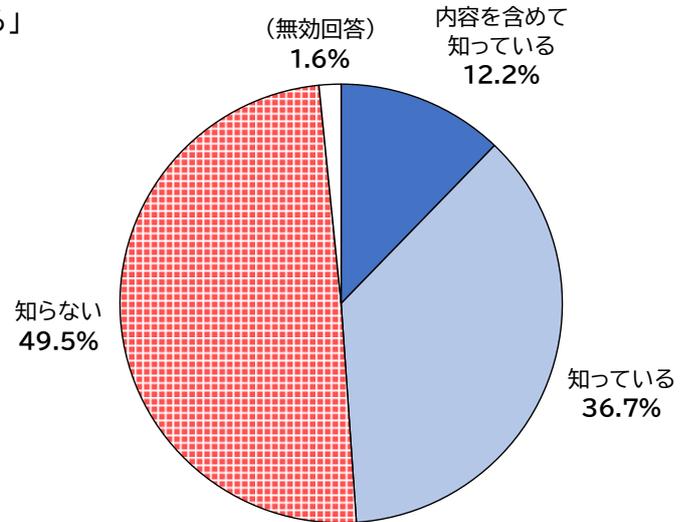
- 「吸っている」と「吸っているが，もうすぐやめる予定」の合計は，20～29歳と50～59歳が12.6%で最も高く，次いで60～64歳の11.1%の順となっています。
- 「元々，吸っていない」は20～39歳で70%を超え，他の年齢層に比べて高くなっています。



問 25) あなたは、調布市受動喫煙防止条例※（平成 31 年 3 月公布，令和元年 7 月施行）を知っていますか。

<全体（n=1,211）>

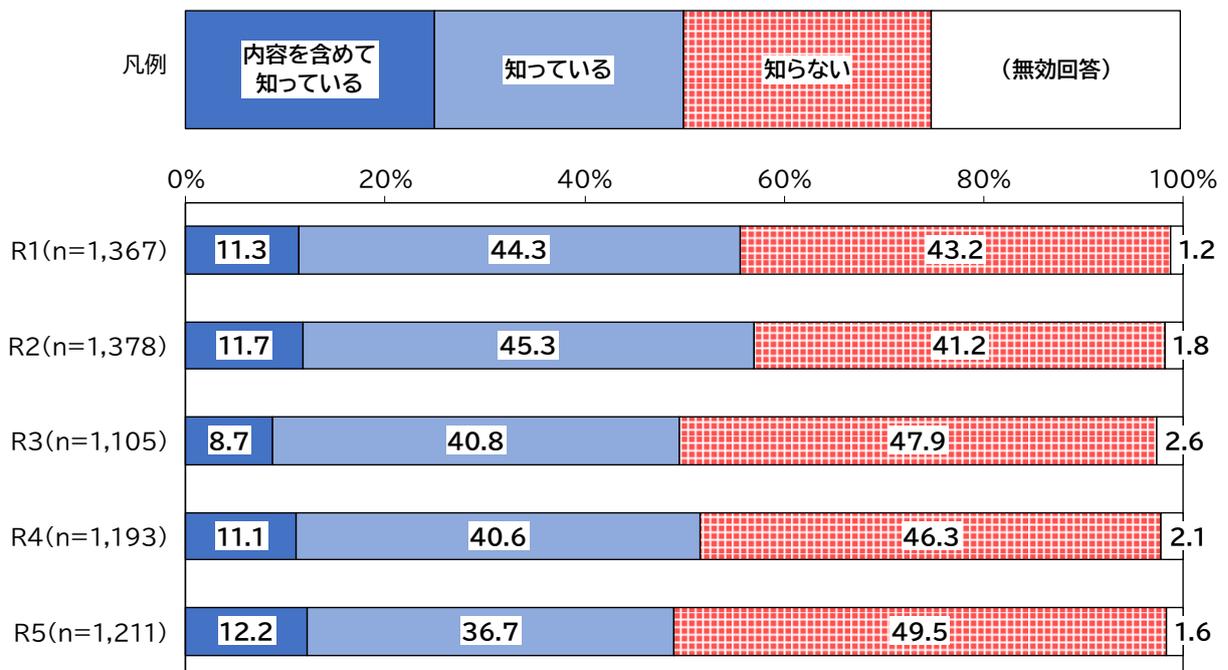
○「内容を含めて知っている」と「知っている」の合計が 48.9%となっています。



※市は、受動喫煙による健康への悪影響から市民等を守るとともに受動喫煙及び喫煙による身体への悪影響等に関する啓発及び教育を行うことにより、次代を担う子どもたちをはじめ誰もが健康に暮らせるまち調布の実現に寄与することを目的として「調布市受動喫煙防止条例」を施行しています。

<経年比較>

○「内容を含めて知っている」と「知っている」の合計（48.9%）は、令和 4 年度（51.7%）に比べ 2.8 ポイント減少し、令和元年度以降最も低くなっています。

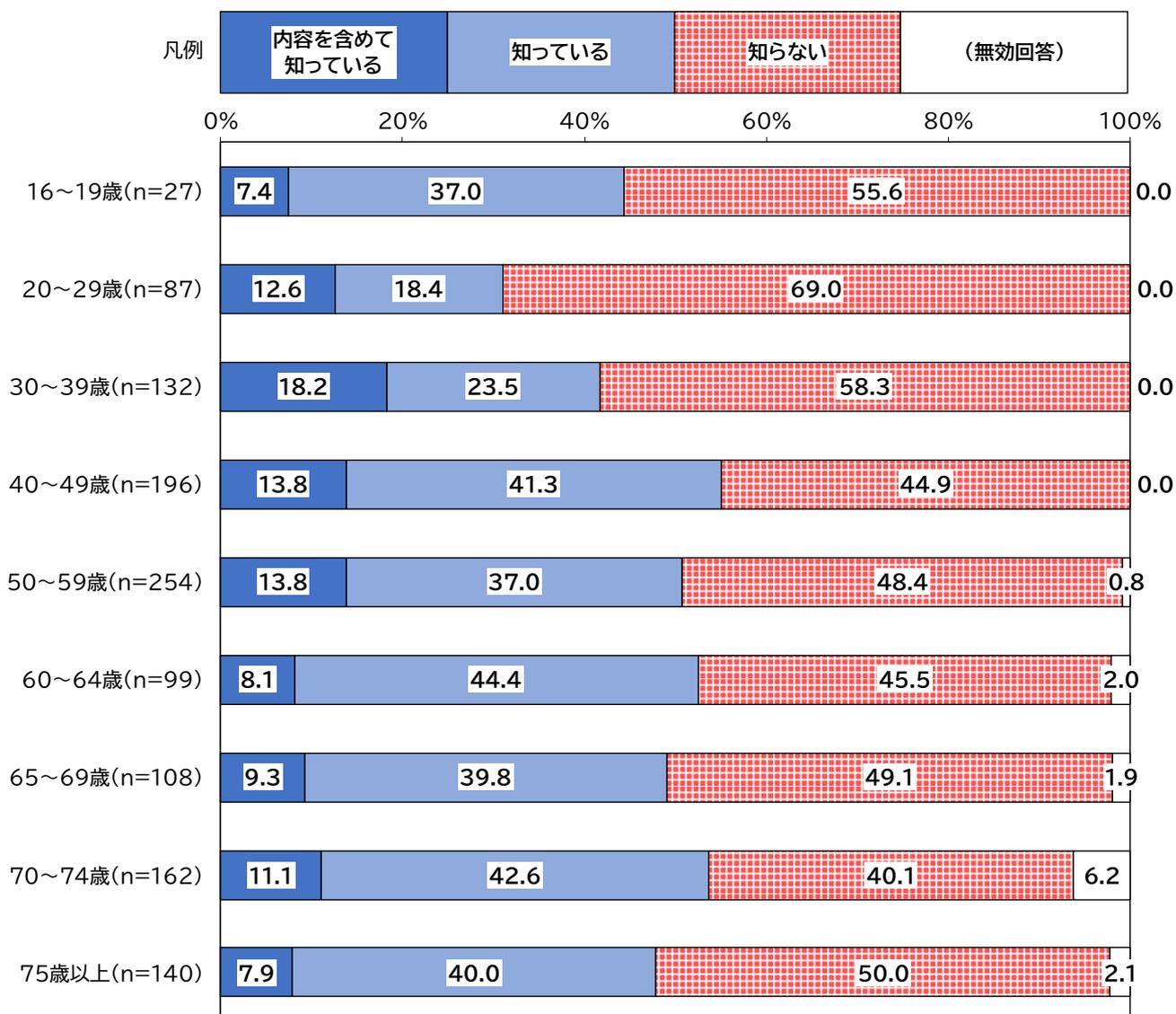


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

○「内容を含めて知っている」と「知っている」の合計は、40～49歳が55.1%で最も高く、次いで70～74歳の53.7%の順となっています。

○「知らない」は、20～29歳が69.0%で最も高くなっています。



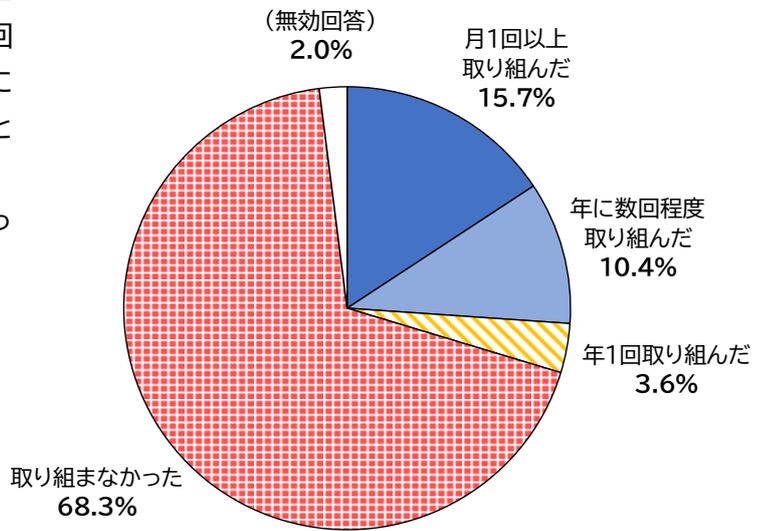
【生涯学習について】

問26) あなたは、この1年間に、生涯学習※に取り組みましたか。

<全体 (n=1,211) >

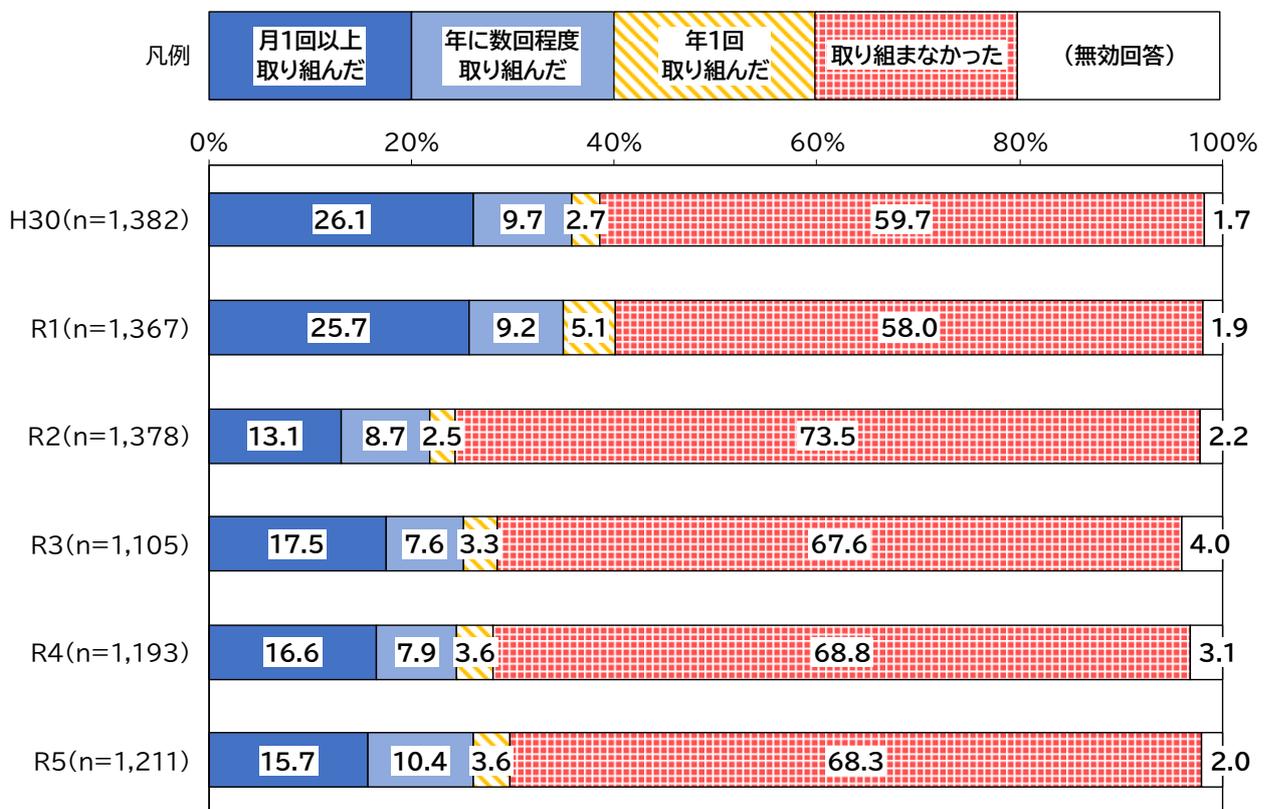
- 「月1回以上取り組んだ」が15.7%、「年に数回程度取り組んだ」が10.4%、「年1回取り組んだ」が3.6%であり、生涯学習に年1回以上取り組んだ人は合計で29.7%となっています。
- 一方、「取り組まなかった」は68.3%となっています。

※「生涯学習」とは、人々が自発的意思に基づいて生涯を通じて行う学習のことで、学校や社会教育施設のほか、家庭・職場・地域などで行われる学習や、文化・スポーツ・レクリエーション・ボランティア・趣味など生活のあらゆる場面で行われる学習が含まれます。



<経年比較>

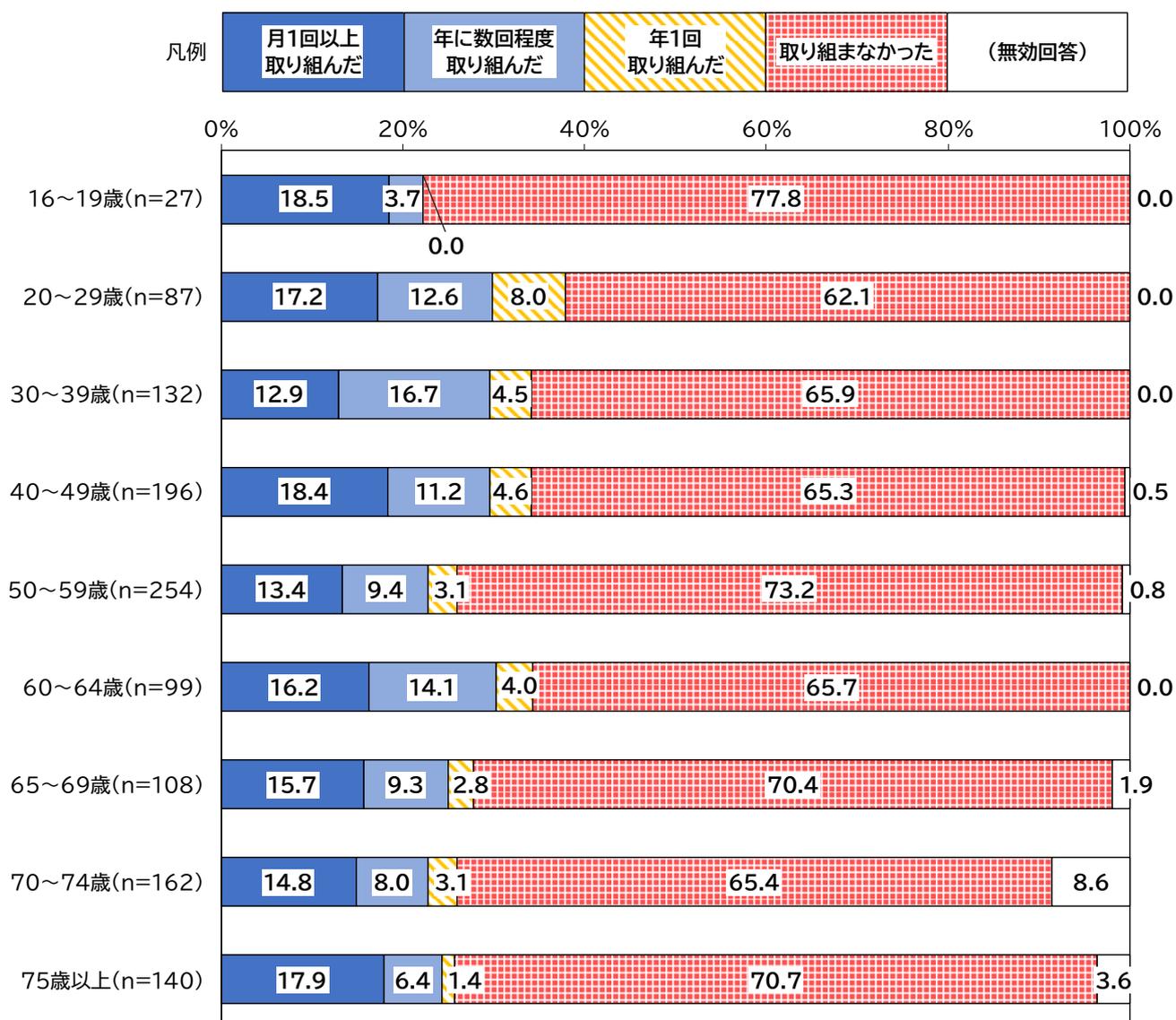
- 「取り組んだ」の合計(29.7%)は、令和4年度(28.1%)に比べて1.6ポイント増加しています。
- 「取り組まなかった」(68.3%)は、令和4年度(68.8%)と比較して0.5ポイント減少しています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

○いずれの年齢層でも、生涯学習に年1回以上取り組んだ方の割合は40%を下回っています。



#### <自由記述> 主な意見を抜粋

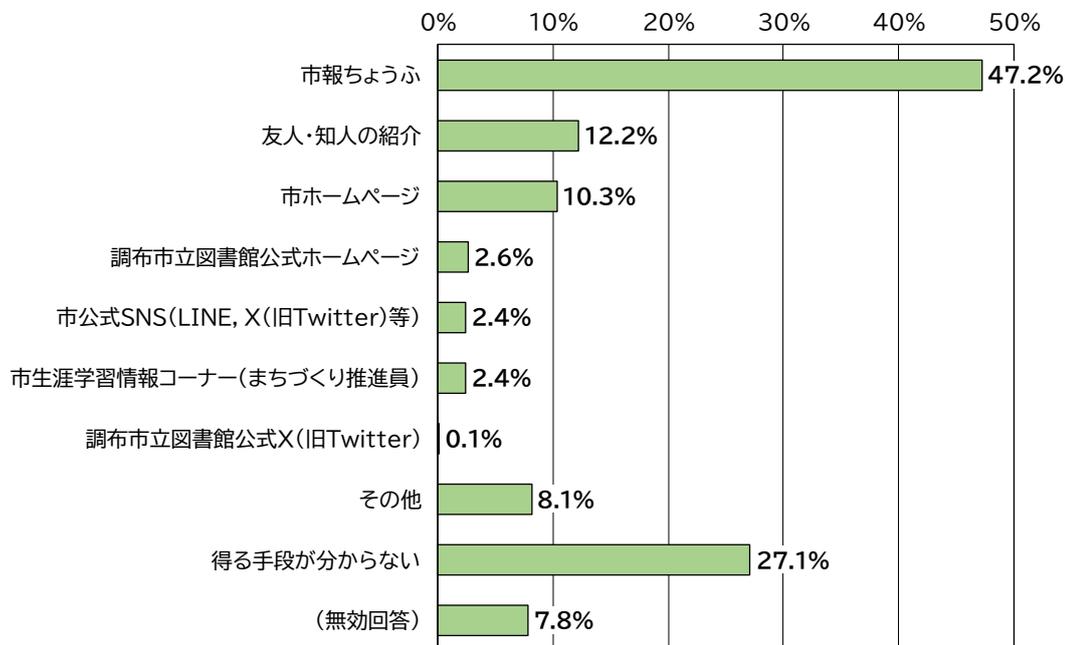
##### 【図表 生涯学習に関する施策についてのご意見・ご提案】(32件)

- ・市民活動が色々できるように、たづくりや教育会館、福祉センターの部屋を費用面、手続きの簡素化など、もっと気軽に借りやすくなるとよい。Wi-Fi はどこでも利用できるとより良い。
- ・生涯学習 = 高齢者になっているように感じる。働く世代もいつでも学びやすい支援があると調布に住み続けたいと思う。
- ・市関連の生涯学習に関する情報を充実させてほしい。土日に参加できるものがあるといい。
- ・赤ちゃん連れ OK の習い事ができたら嬉しい。

問 27) あなたは、生涯学習に関する情報を何から入手していますか。

<全体 (n=1,211) >

○生涯学習に関する情報の入手経路としては、「市報ちょうふ」が 47.2%で最も高く、次いで「友人・知人の紹介」の 12.2%、「市ホームページ」の 10.3%の順となっています。一方で、「得る手段が分からない」は 27.1%となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層においても、「市報ちょうふ」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
市報ちょうふ	571	9	12	42	84	117	55	59	97	92
	47.2%	33.3%	13.8%	31.8%	42.9%	46.1%	55.6%	54.6%	59.9%	65.7%
友人・知人の紹介	148	2	11	19	33	28	10	15	10	19
	12.2%	7.4%	12.6%	14.4%	16.8%	11.0%	10.1%	13.9%	6.2%	13.6%
市ホームページ	125	2	2	12	26	28	17	11	11	16
	10.3%	7.4%	2.3%	9.1%	13.3%	11.0%	17.2%	10.2%	6.8%	11.4%
調布市立図書館公式ホームページ	31	0	1	3	5	5	2	5	8	2
	2.6%	0.0%	1.1%	2.3%	2.6%	2.0%	2.0%	4.6%	4.9%	1.4%
市公式SNS(LINE, X(旧Twitter)等)	29	1	3	3	8	6	5	0	3	0
	2.4%	3.7%	3.4%	2.3%	4.1%	2.4%	5.1%	0.0%	1.9%	0.0%
市生涯学習情報コーナー(まちづくり推進員)	29	0	0	1	3	4	1	4	8	8
	2.4%	0.0%	0.0%	0.8%	1.5%	1.6%	1.0%	3.7%	4.9%	5.7%
調布市立図書館公式X(旧Twitter)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	98	2	9	11	19	27	7	8	9	5
	8.1%	7.4%	10.3%	8.3%	9.7%	10.6%	7.1%	7.4%	5.6%	3.6%
得る手段が分からない	328	14	49	55	54	65	23	24	26	17
	27.1%	51.9%	56.3%	41.7%	27.6%	25.6%	23.2%	22.2%	16.0%	12.1%
(無効回答)	95	2	4	6	10	22	5	10	21	15
	7.8%	7.4%	4.6%	4.5%	5.1%	8.7%	5.1%	9.3%	13.0%	10.7%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

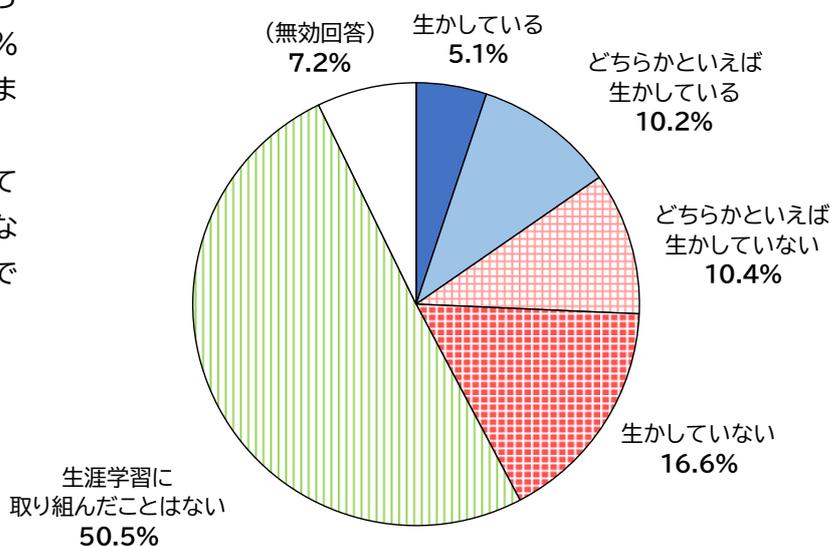
回答割合が2番目に高い：

問28) あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識・技能を、まちづくりや仲間づくり、地域活動など自分以外のために活かしていますか。

<全体 (n=1,211) >

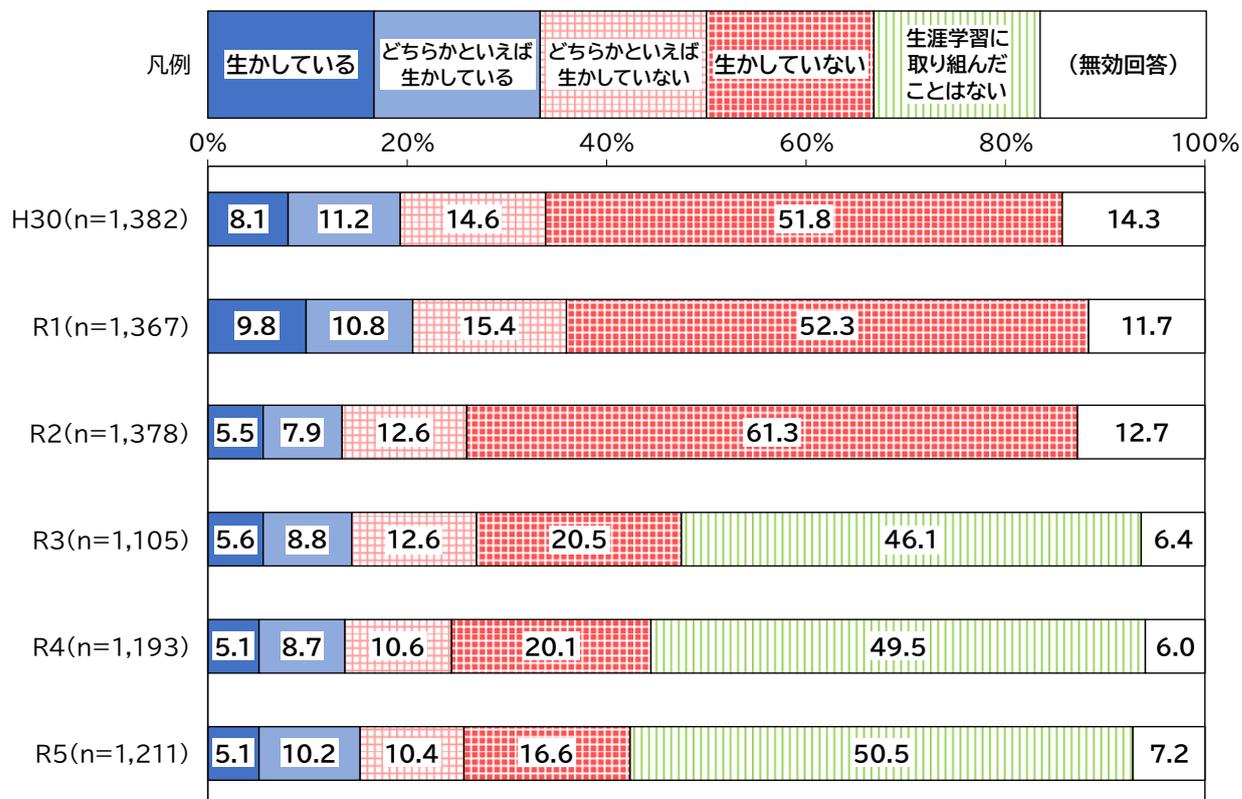
○「活かしている」は5.1%、「どちらかといえば活かしている」は10.2%であり、合計で15.3%となっています。

○一方、「どちらかといえば活かしていない」は10.4%、「活かしていない」は16.6%であり、合計で27.0%を占めています。



<経年比較>

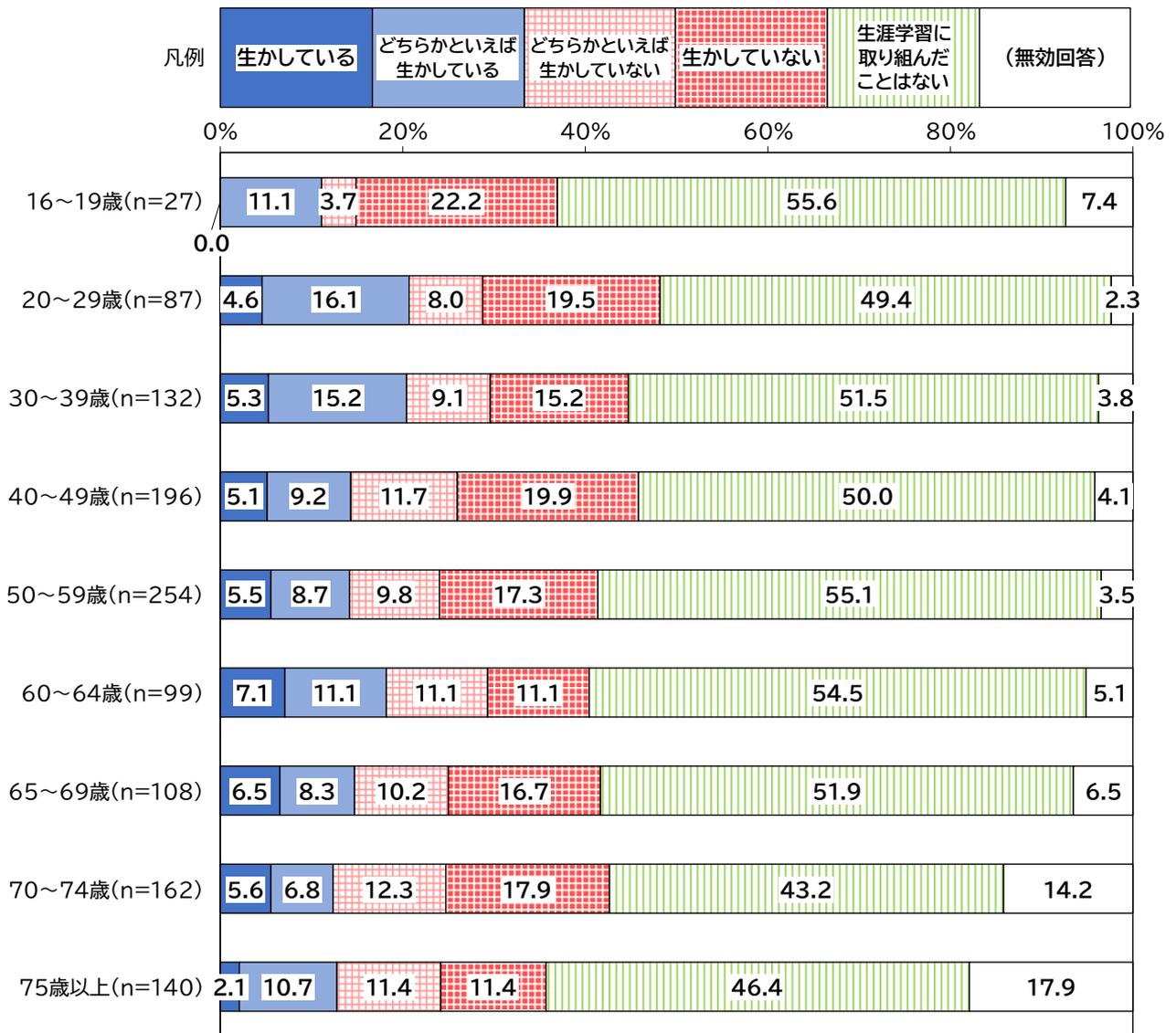
○「活かしている」と「どちらかといえば活かしている」の合計(15.3%)は、令和4年度(13.8%)に比べて1.5ポイント増加しています。



※「生涯学習に取り組んだことはない」は、令和3年度以降追加された選択肢です。

<年齢層別>

○「生かしている」と「どちらかといえば生かしている」の合計は、20～39歳で20%を超えて高くなっていますが、他の年齢層は10%台となっています。

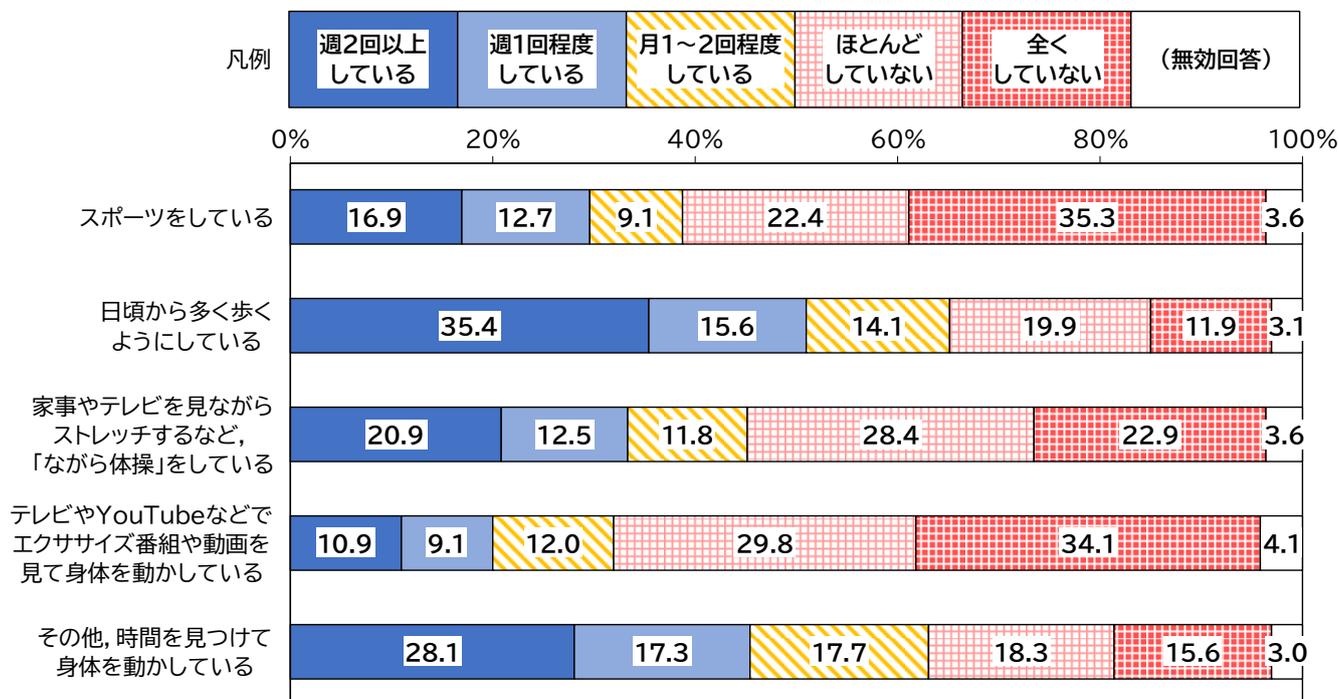


【スポーツ振興について】

問 29) あなたは、健康・体力づくりのために体を動かしていますか。

<全体 (n=1,211) >

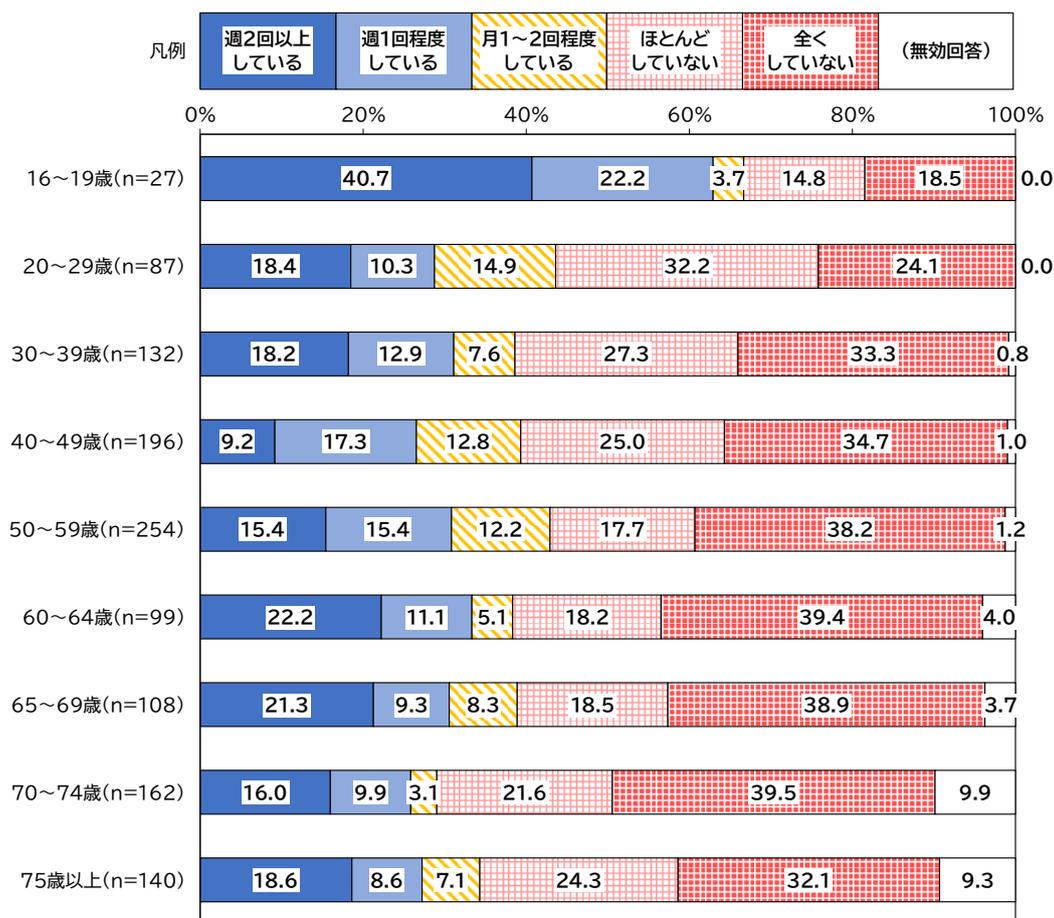
○「週2回以上している」と「週1回程度している」の合計は、「日頃から多く歩くようにしている(電車やバス等の最寄りの駅で降車せず、1駅分多く歩いているなど)」が51.0%と最も高く、次いで「その他、時間を見つけて身体を動かしている」の45.4%の順となっています。



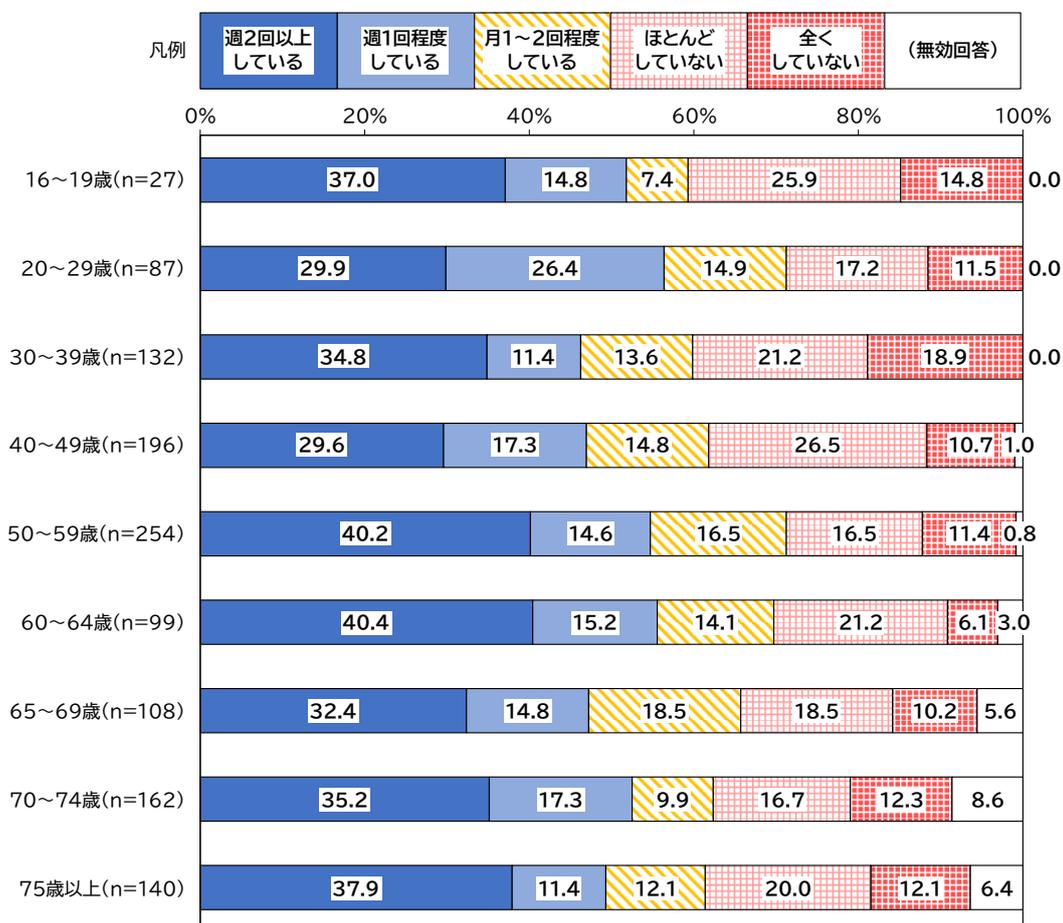
<年齢層別>

○「週2回以上している」と「週1回程度している」の合計は、16~19歳では「スポーツをしている」、20~69歳は「日頃から多く歩くようにしている(電車やバス等の最寄りの駅で降車せず、1駅分多く歩いているなど)」, 70歳以上は「その他、時間を見つけて身体を動かしている」が最も高くなっています。

ア スポーツをしている

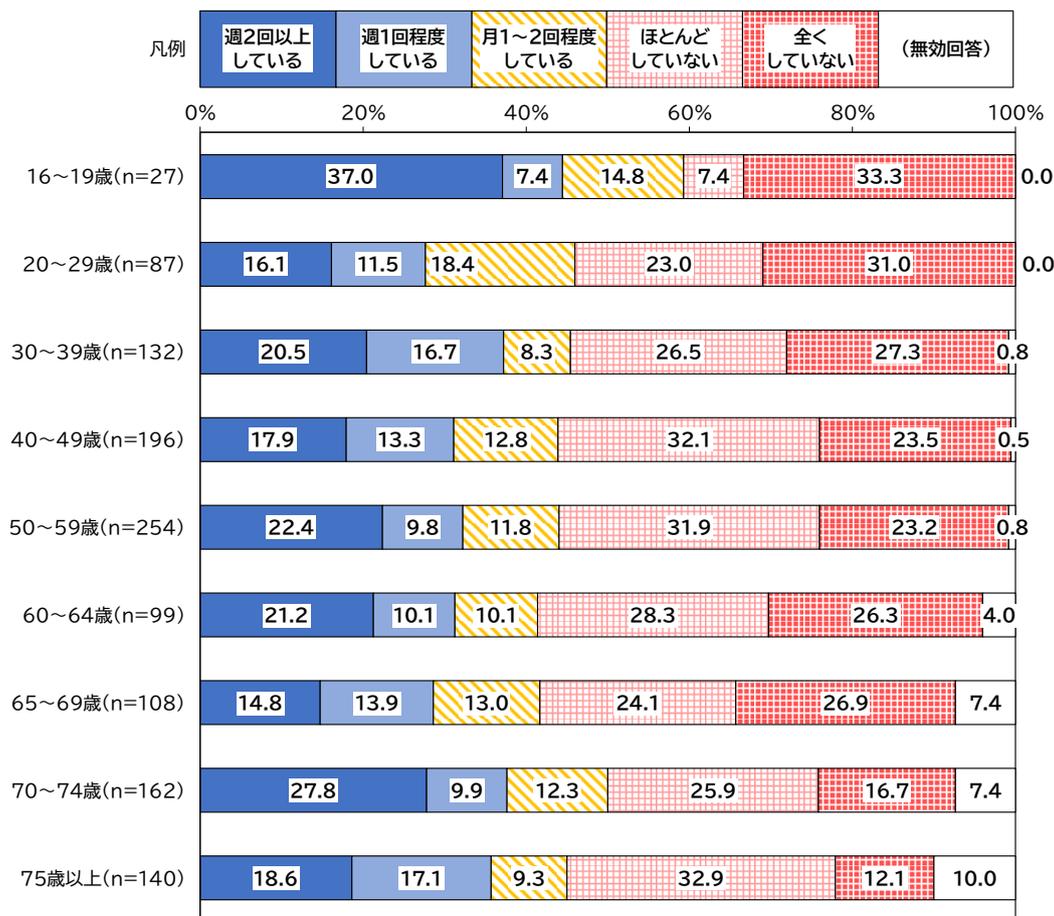


イ 日頃から多く歩くようにしている(電車やバス等の最寄りの駅で降車せず、1駅分多く歩いているなど)

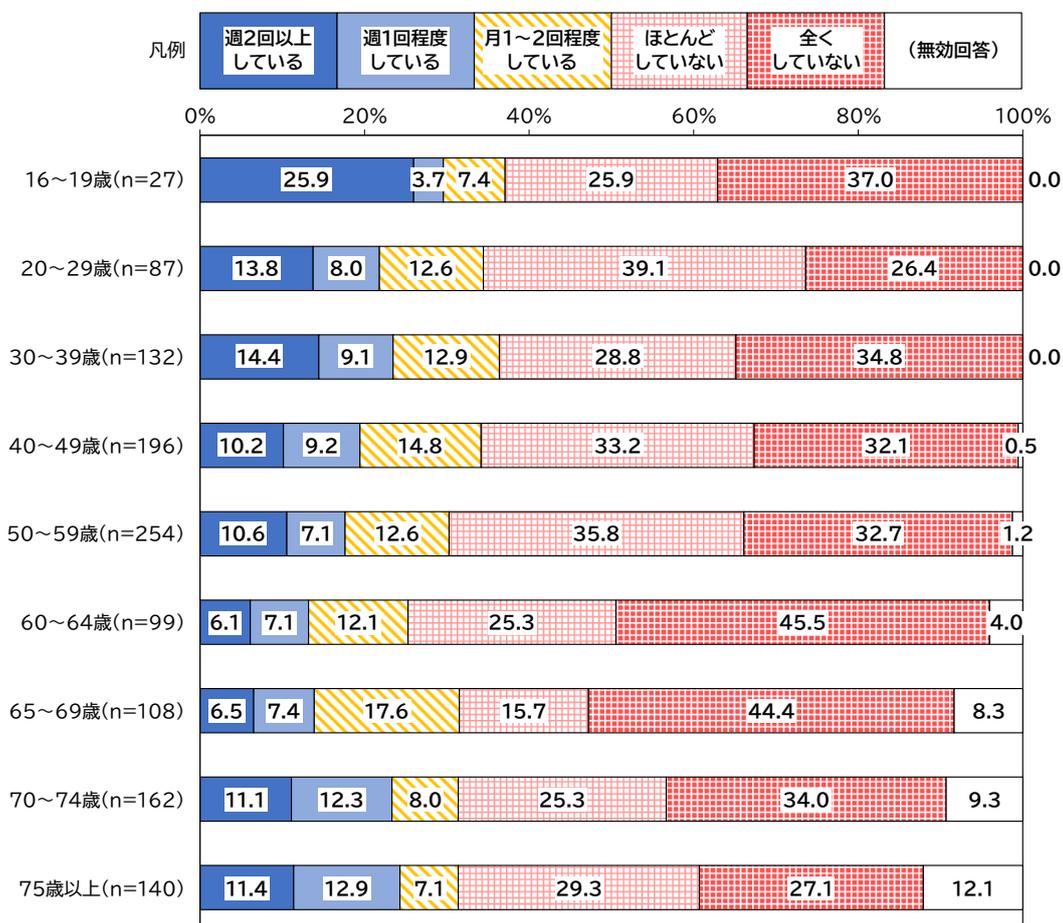


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

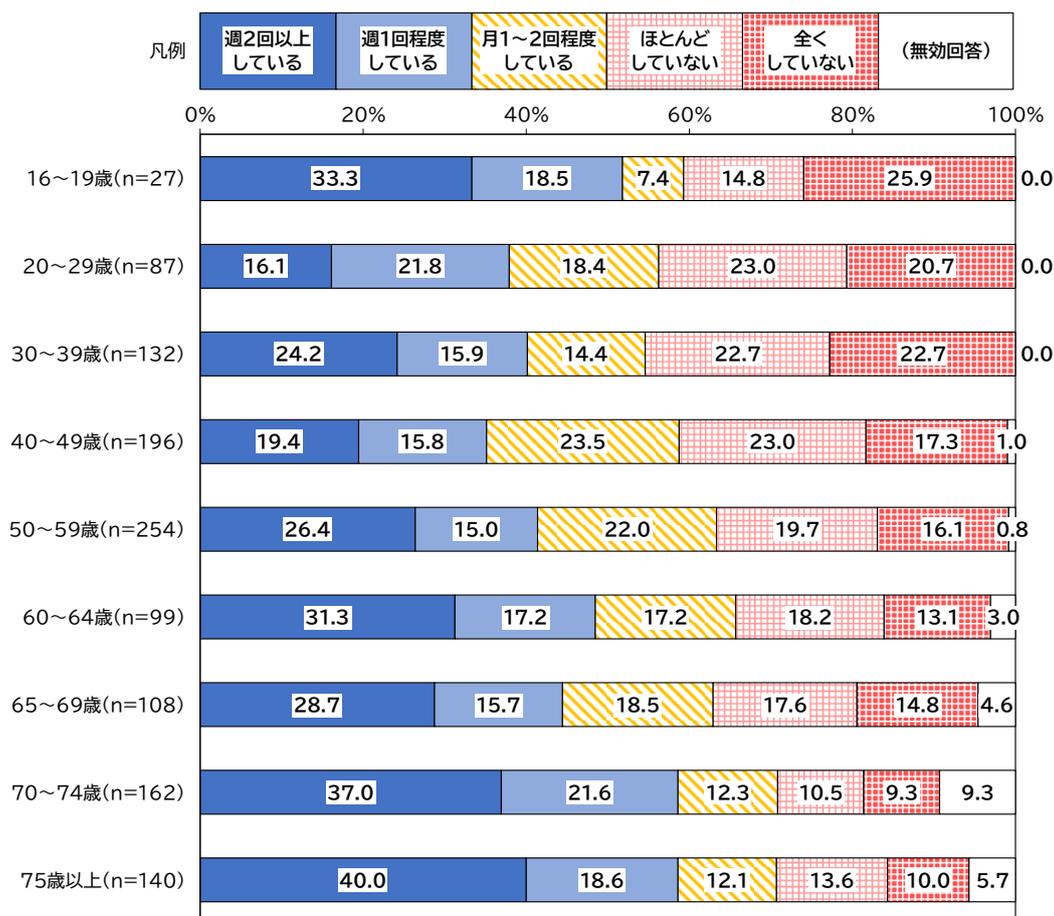
#### ウ 家事やテレビを見ながらストレッチするなど、「ながら体操」をしている



#### エ テレビやYouTubeなどでエクササイズ番組や動画を見て身体を動かしている



オ その他, 時間を見つけて身体を動かしている

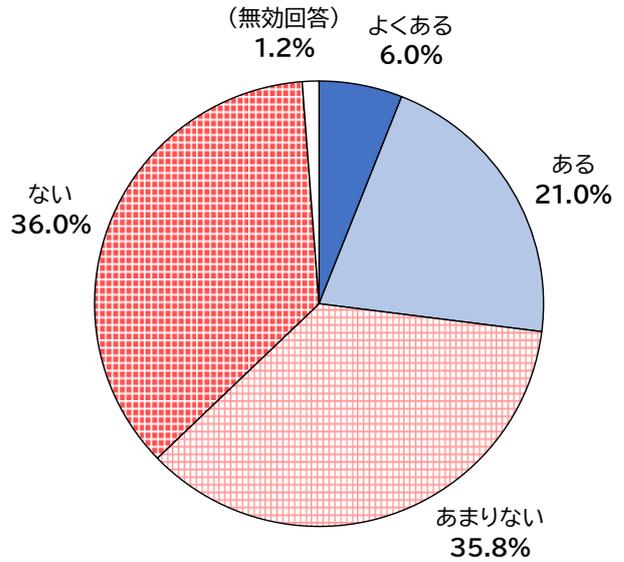


【地域コミュニティについて】

問 30) あなたは、地域のコミュニティ活動が行われていると実感する機会がありますか。

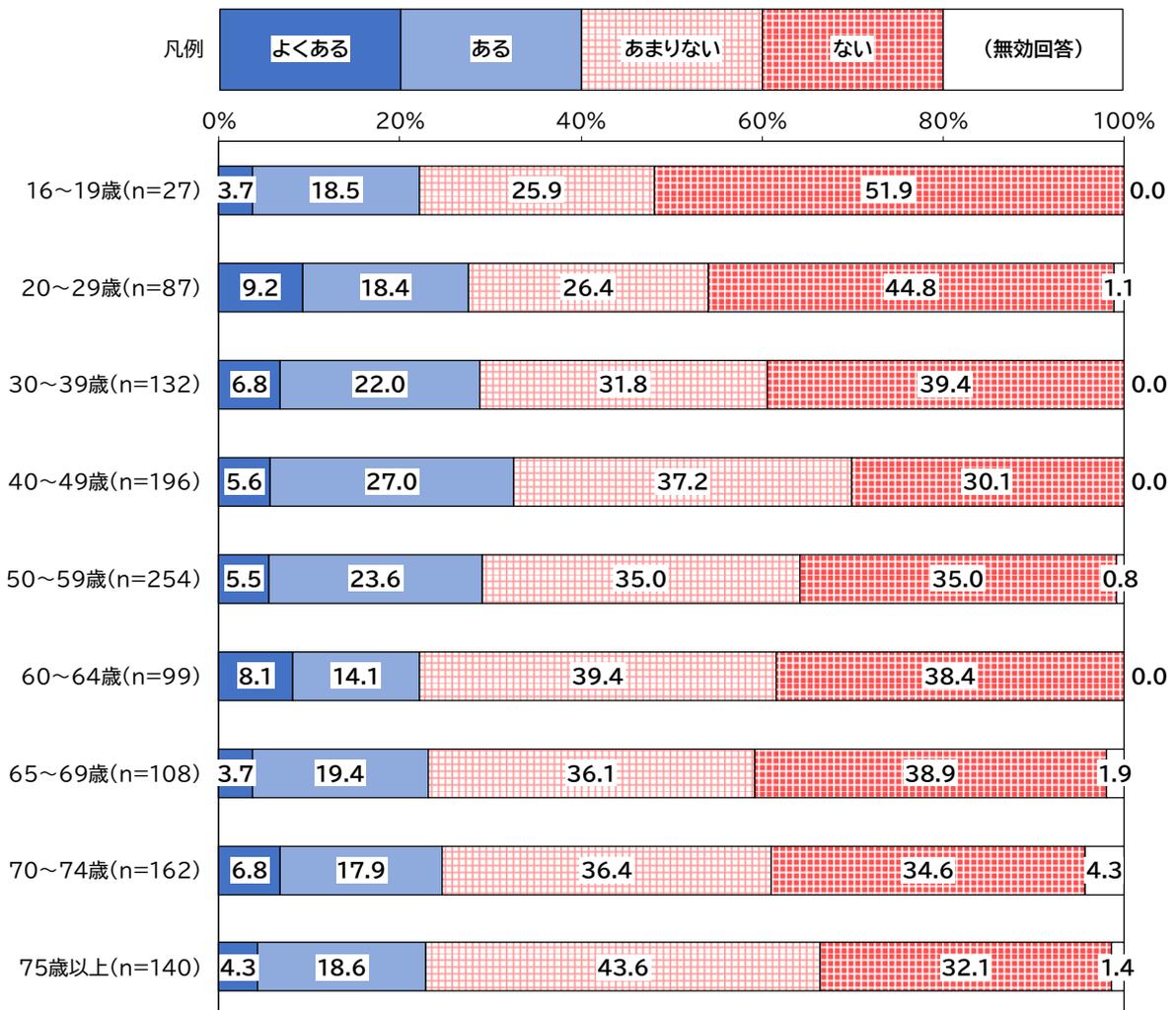
<全体 (n=1,211) >

- 地域のコミュニティ活動が行われていると実感する機会が「よくある」は 6.0%、「ある」は 21.0%であり、合計で 27.0%となっています。
- 一方、「あまりない」は 35.8%、「ない」は 36.0%であり、合計で 71.8%となっています。



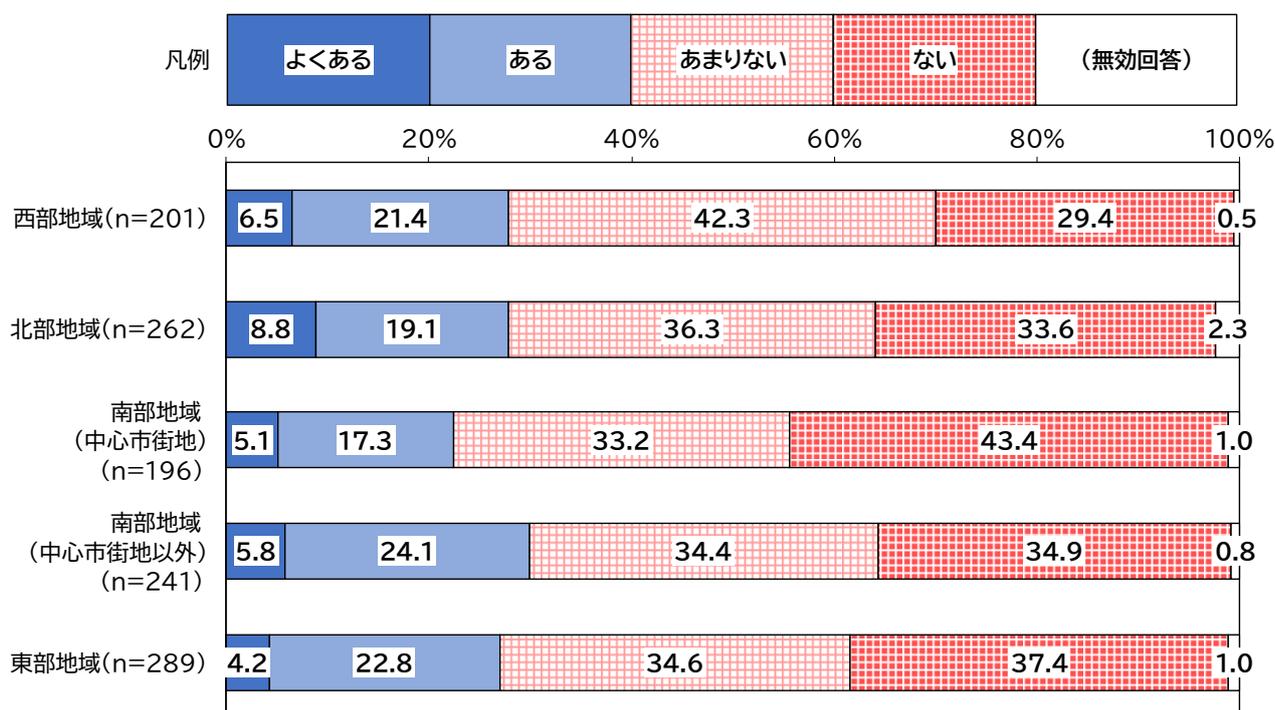
<年齢層別>

- 「ある」と「よくある」の合計は、40～49歳が 32.6%で最も高く、次いで 50～59歳 (29.1%)、30～39歳 (28.8%) の順となっています。
- 一方、「あまりない」と「ない」の合計は、40～49歳を除いた年齢層で 70%を上回っています。



<地域別>

○「ある」と「よくある」の合計は、南部地域（中心市街地以外）（29.9%）が最も高く、すべての地域で20%台となっています。



<自由記述> 主な意見を抜粋

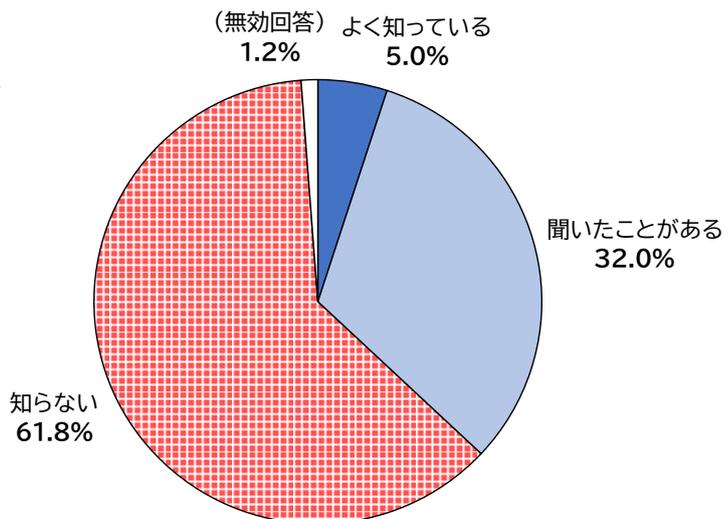
【図表 地域コミュニティに関する施策についてのご意見・ご提案】(35件)

- ・地域のコミュニティに参加するのは、初めはハードルが高いです。自治会、管理組合、任意団体、お祭り主催団体等色々ありすぎて、程よく地域に関わりたいが、どの程度付き合えばいいのかわかると感じる。
- ・規模の大きいマンションだとそこで一つのコミュニティができていて、マンション外の地域とのつながりが薄い。
- ・子どもが成人すると機会が減ってしまう。
- ・高齢者中心となっていて若者が参加したがるし、しにくい。
- ・いつ、どこで、何が行われているかがよく分からない。
- ・国領駅地域には活動施設が少ない。
- ・防災訓練をもっとやってほしい。防犯訓練など市が協力して実施するようアナウンスすべき。

問 31) あなたは、「地区協議会※」を知っていますか。

<全体 (n=1,211) >

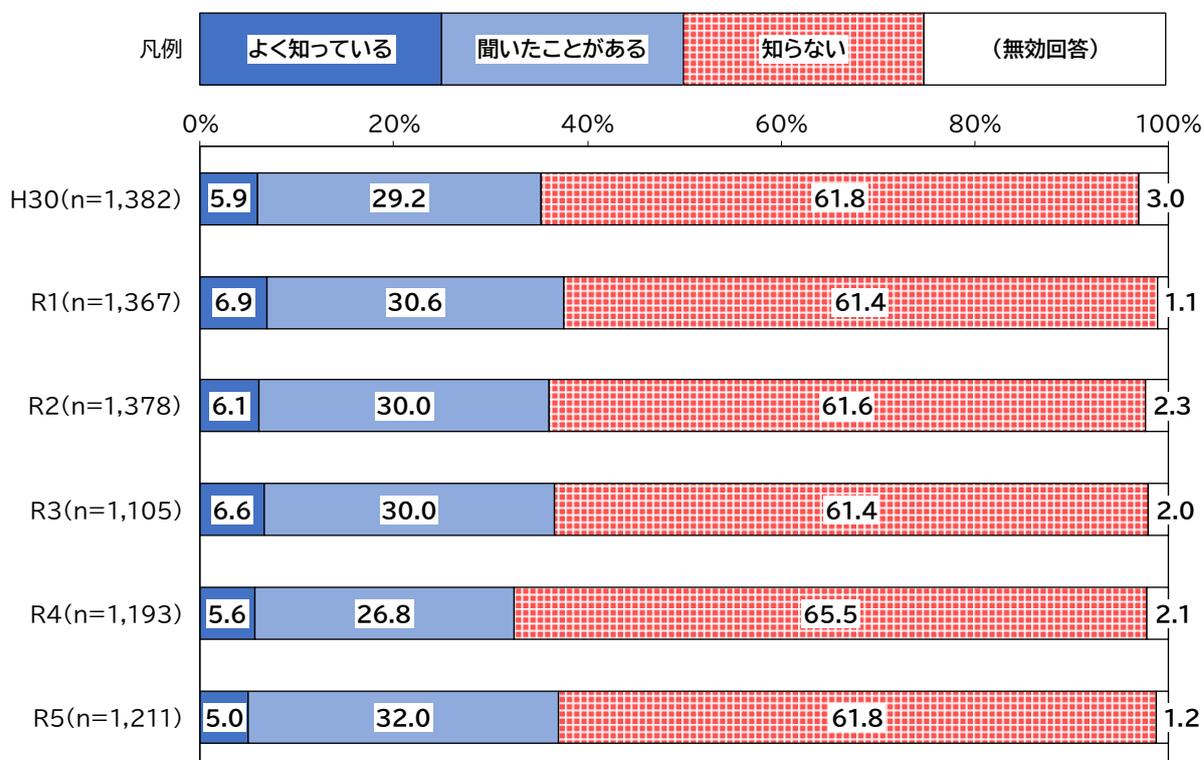
○「よく知っている」が 5.0%、「聞いたことがある」が 32.0%、合計で 37.0%となっています。



※「地区協議会」とは、自治会をはじめ地域で活動する多様な団体や個人を結ぶ地域主体のネットワーク組織で、地域の情報共有や防災訓練等のまちづくり活動における連携・協力などを行っています。市内に 20 ある小学校区を単位として、現在 18 地区で設立されています。

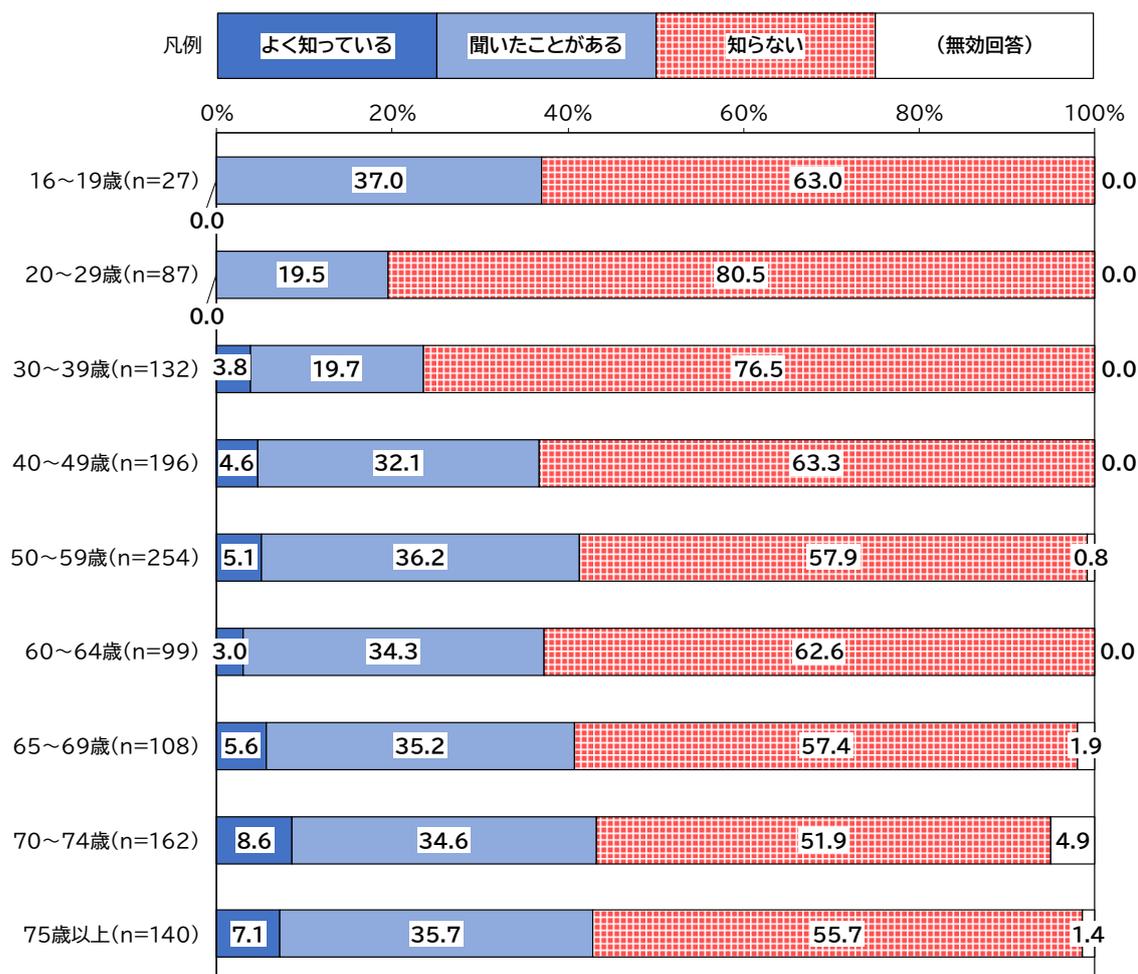
<経年比較>

○「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計 (37.0%) は、令和 4 年度 (32.4%) に比べ 4.6 ポイント増加しています。



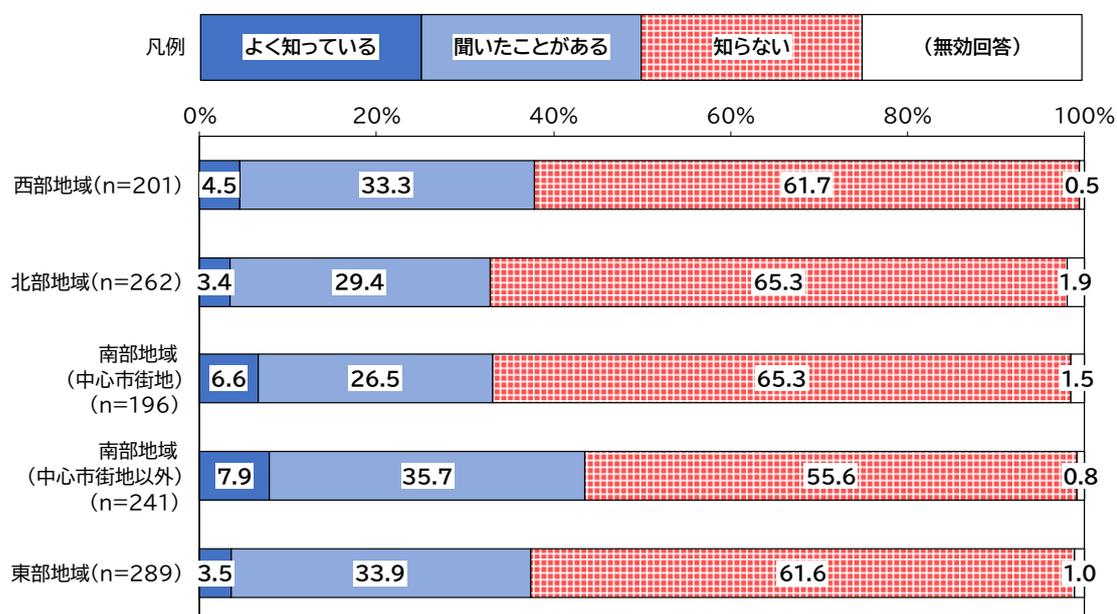
<年齢層別>

- 「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計は、20～39歳を除き、30%を超えています。
- 「知らない」は20～29歳で80%を超え、最も高くなっています。



<地域別>

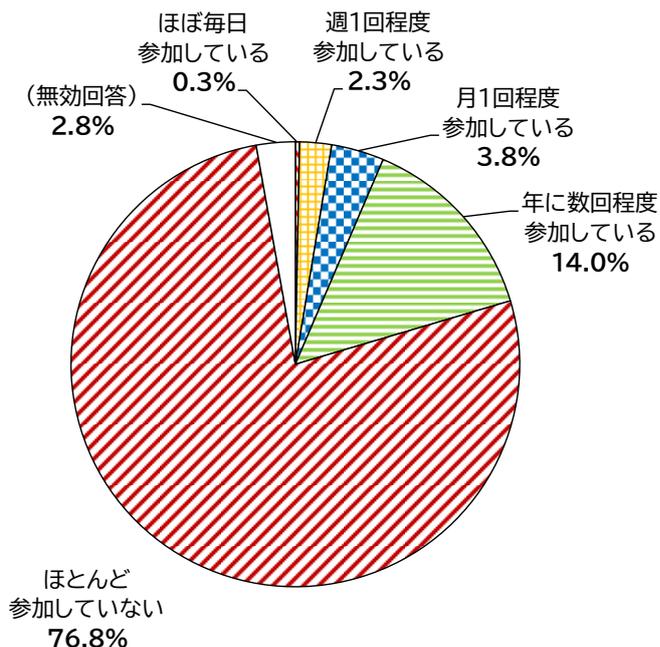
- 「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計は、南部地域（中心市街地以外）が43.6%で最も高くなっています。その他の地域では、「知らない」が60%を超えています。



問 32) あなたは、この1年間に、地域の活動やイベントに参加しましたか。

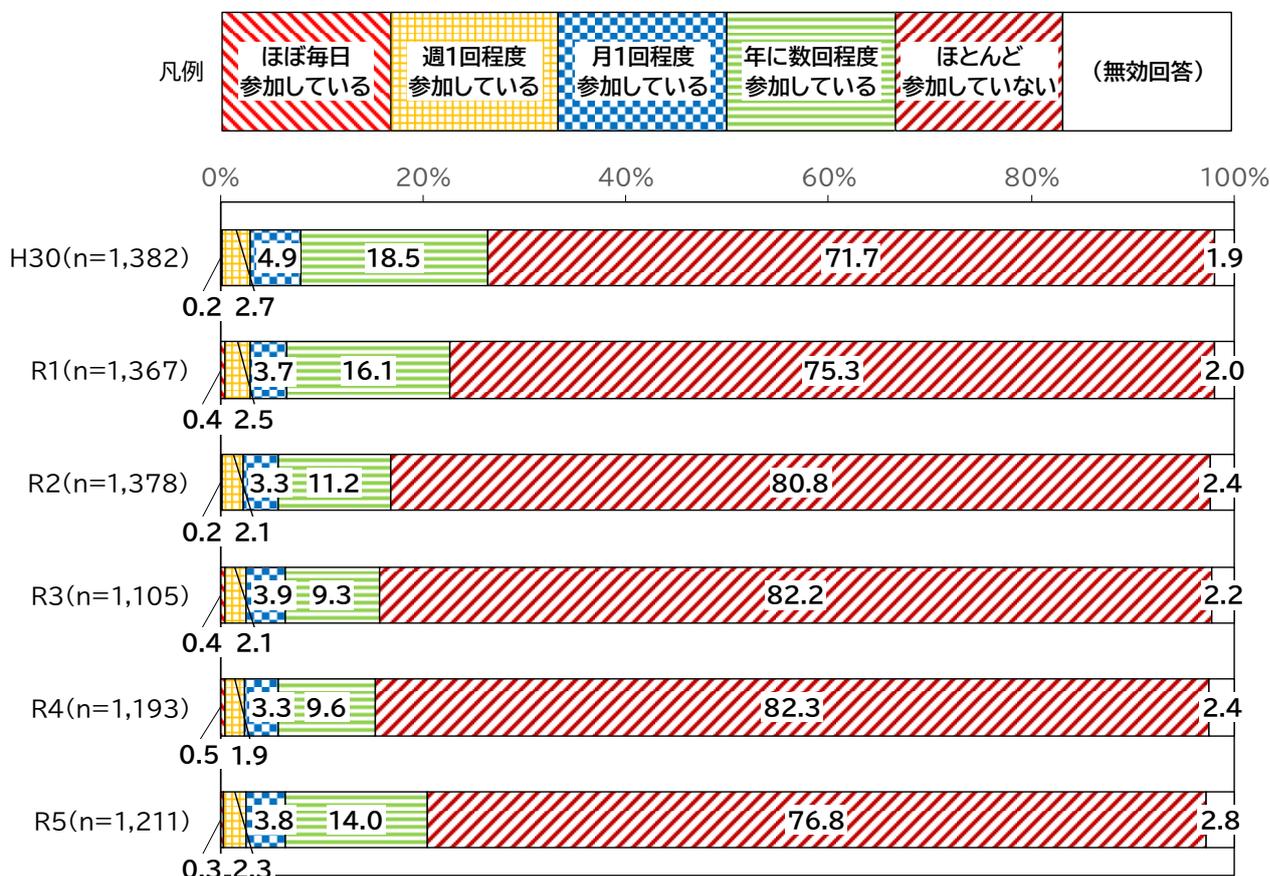
<全体 (n=1,211) >

○「ほぼ毎日参加している」、「週1回程度参加している」、「月1回程度参加している」、「年に数回程度参加している」の合計が 20.4%となっています。



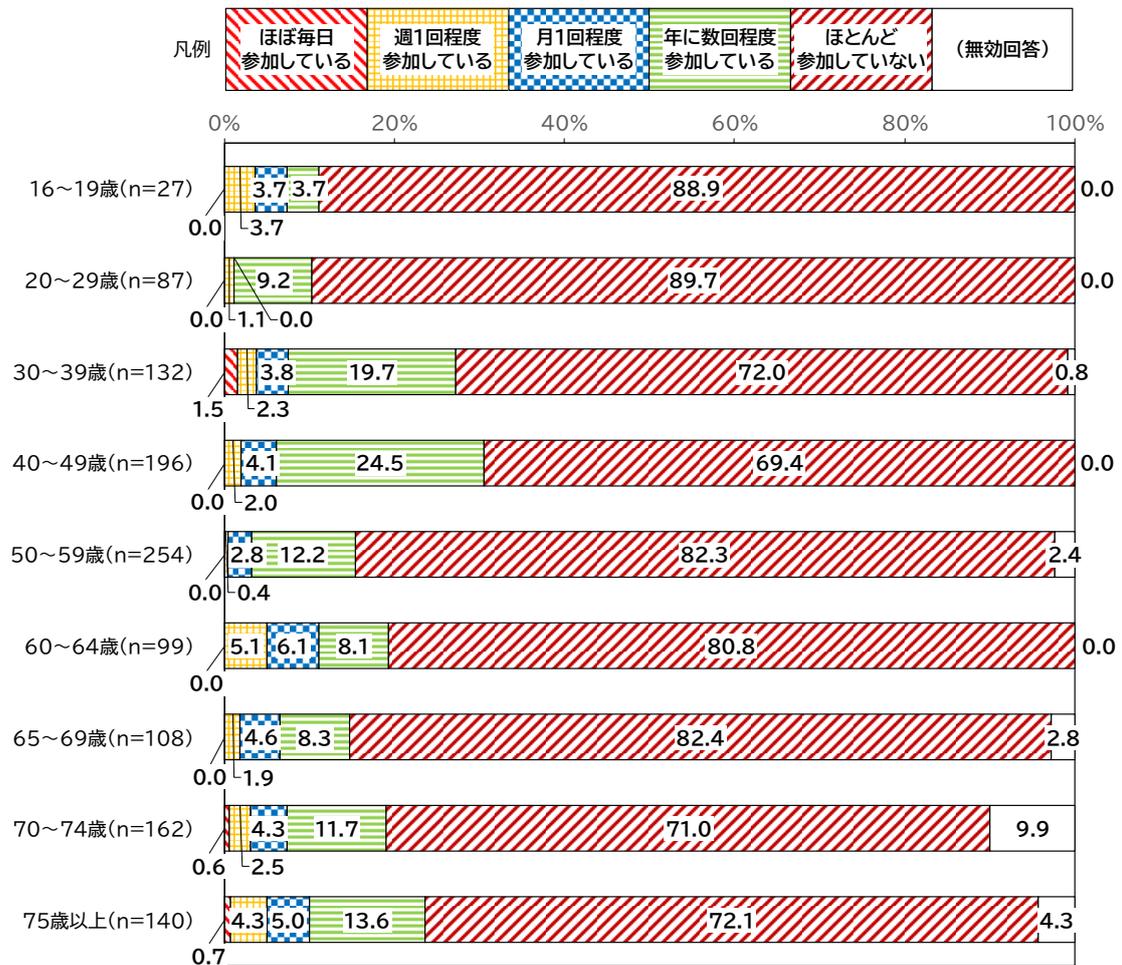
<経年比較>

○「ほぼ毎日参加している」、「週1回程度参加している」、「月1回程度参加している」、「年に数回程度参加している」の合計は、令和元年度以降、減少傾向となっていました。令和5年度(20.4%)は令和4年度(15.3%)に比べ5.1ポイント増加しています。



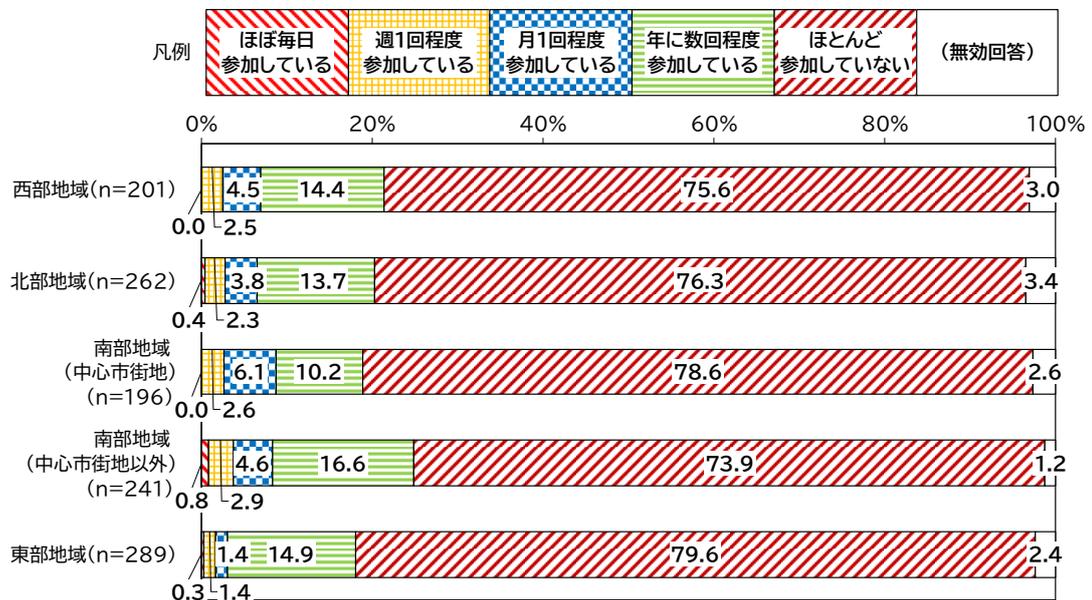
<年齢層別>

○「ほぼ毎日参加している」、「週1回程度参加している」、「月1回程度参加している」、「年に数回程度参加している」の合計は、40～49歳が30.6%で最も高く、次いで30～39歳の27.3%の順となっています。



<地域別>

○「ほぼ毎日参加している」、「週1回程度参加している」、「月1回程度参加している」、「年に数回程度参加している」の合計は、南部地域（中心市街地以外）が24.9%で最も高く、「ほとんど参加していない」はすべての地域で70%台となっています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

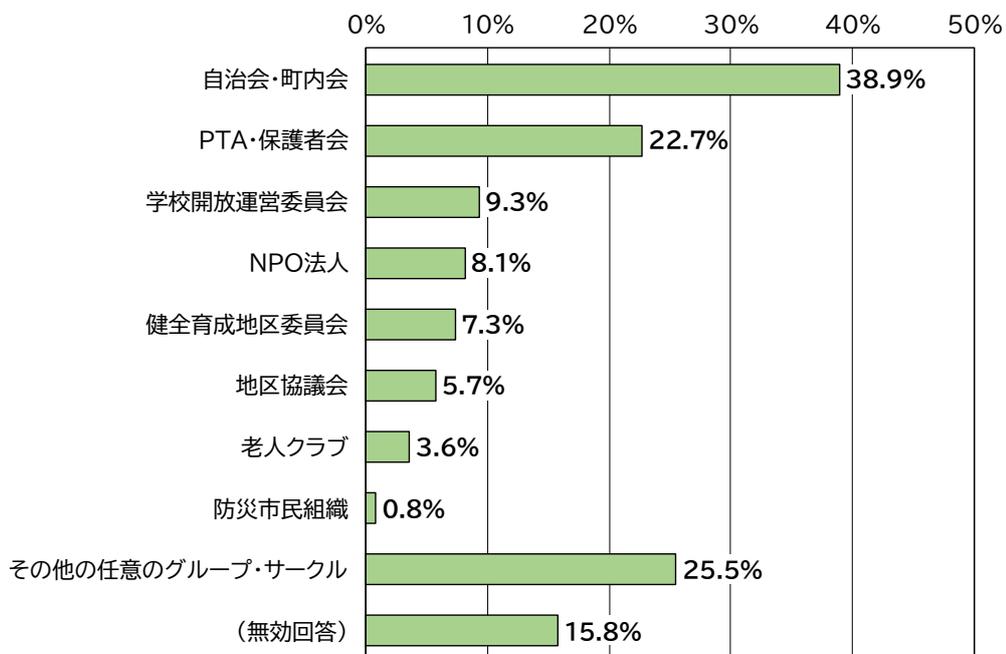
問 32-1) 問 32 で「ほぼ毎日参加している」「週 1 回程度参加している」「月 1 回程度参加している」「年に数回程度参加している」と回答した方にうかがいます。

参加した団体、活動、場所について、あてはまるものに○をつけてください。

#### 団体

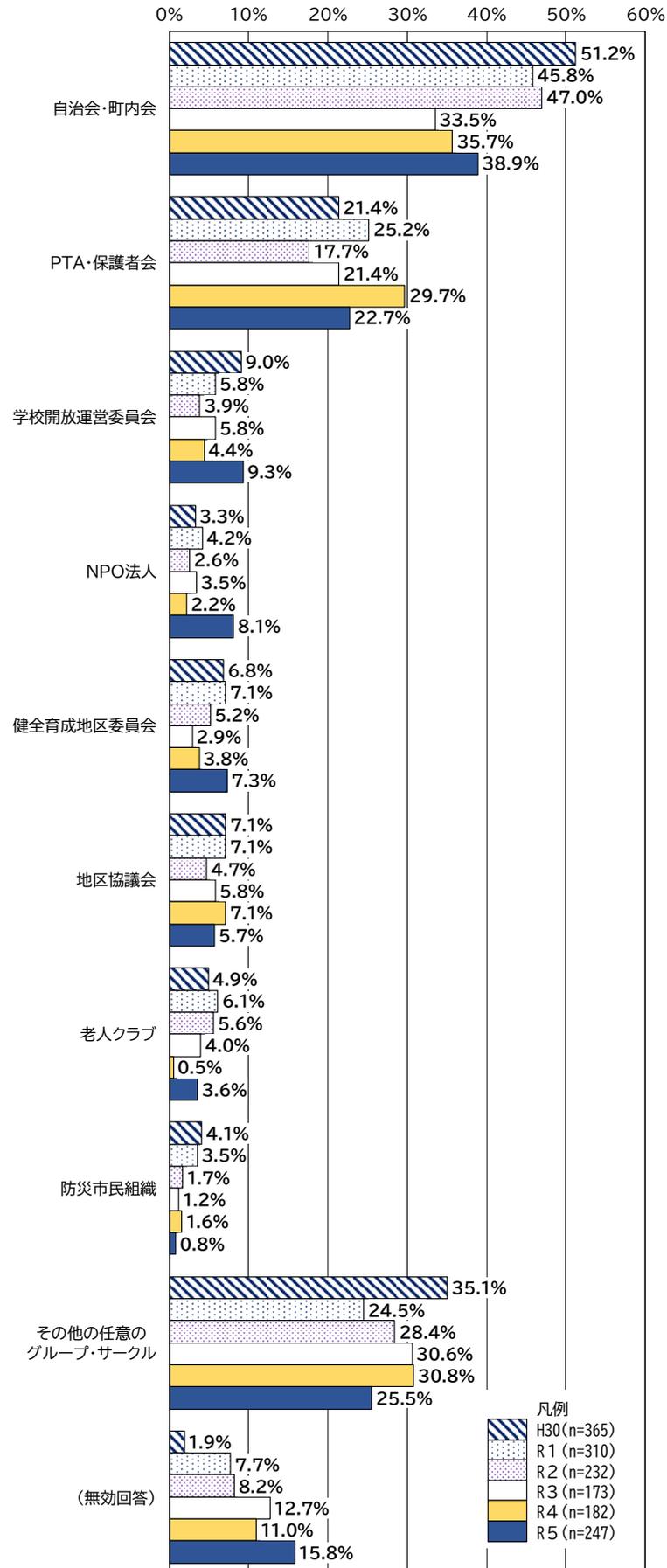
<全体 (n=247) >

○「自治会・町内会」が 38.9%で最も高く、次いで「その他の任意のグループ・サークル」の 25.5%の順となっています。



<経年比較>

○「自治会・町内会」は、令和3年度(33.5%)に大きく減少しましたが、令和4年度(35.7%)には2.2ポイント増加し、令和5年度(38.9%)はさらに3.2ポイント増加しています。また、「PTA・保護者会」(22.7%)は、令和4年度(29.7%)に比べ7.0ポイント減少しています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

○30～39 歳，50～59 歳，65～69 歳，75 歳以上では「自治会・町内会」，40～49 歳では「PTA・保護者会」，20～29 歳と60～64 歳では「その他の任意のグループ・サークル」が最も高くなっています。また，70～74 歳は「自治会・町内会」と「その他の任意のグループ・サークル」がともに最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	247	3	9	36	60	39	19	16	31	33
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
自治会・町内会	96	0	2	16	13	21	7	8	10	19
	38.9%	0.0%	22.2%	44.4%	21.7%	53.8%	36.8%	50.0%	32.3%	57.6%
PTA・保護者会	56	1	2	12	33	8	0	0	0	0
	22.7%	33.3%	22.2%	33.3%	55.0%	20.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
学校開放運営委員会	23	1	0	2	9	3	1	1	3	3
	9.3%	33.3%	0.0%	5.6%	15.0%	7.7%	5.3%	6.3%	9.7%	9.1%
NPO法人	20	0	1	5	5	4	3	1	1	0
	8.1%	0.0%	11.1%	13.9%	8.3%	10.3%	15.8%	6.3%	3.2%	0.0%
健全育成地区委員会	18	1	1	2	7	1	2	1	2	1
	7.3%	33.3%	11.1%	5.6%	11.7%	2.6%	10.5%	6.3%	6.5%	3.0%
地区協議会	14	0	1	0	5	0	0	1	4	3
	5.7%	0.0%	11.1%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	6.3%	12.9%	9.1%
老人クラブ	9	0	0	0	0	2	1	0	4	2
	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	5.3%	0.0%	12.9%	6.1%
防災市民組織	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他の任意のグループ・サークル	63	1	3	2	10	8	9	6	10	13
	25.5%	33.3%	33.3%	5.6%	16.7%	20.5%	47.4%	37.5%	32.3%	39.4%
(無効回答)	39	0	2	11	7	5	1	3	7	3
	15.8%	0.0%	22.2%	30.6%	11.7%	12.8%	5.3%	18.8%	22.6%	9.1%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

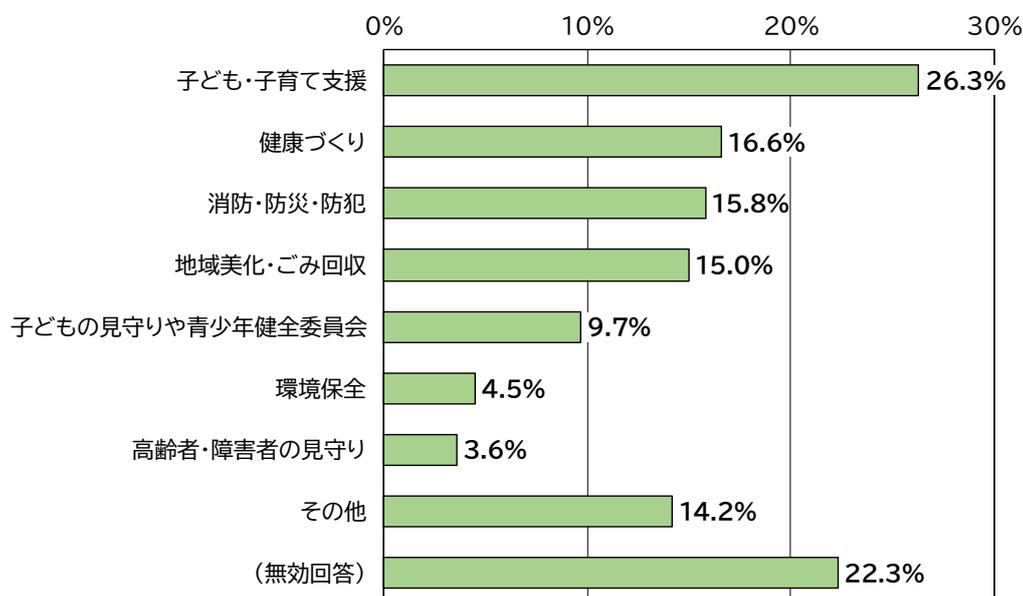
回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

#### 活動

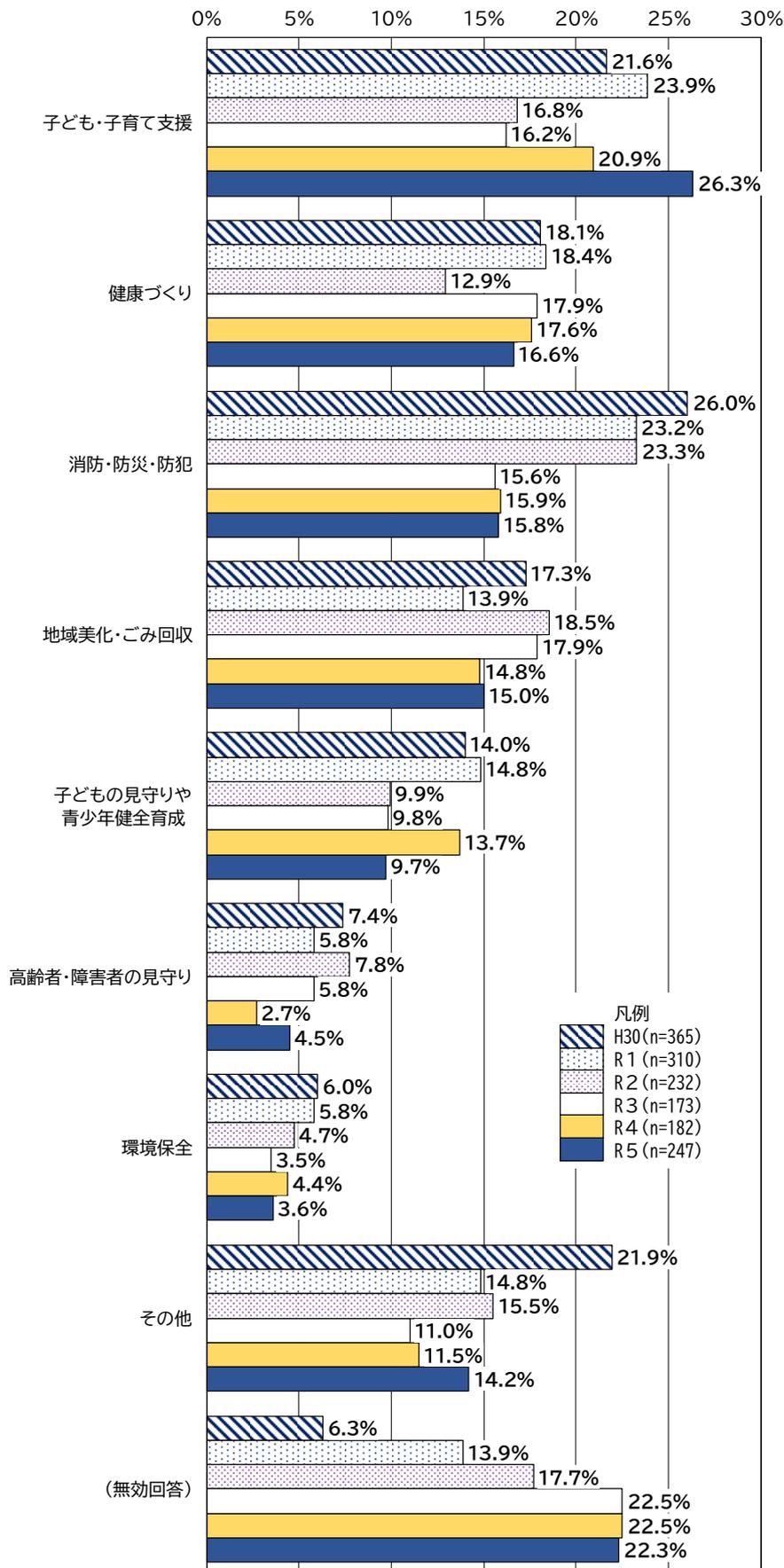
<全体 (n=247) >

○「子ども・子育て支援」が26.3%で最も高く，次いで「健康づくり」が16.6%，「消防・防災・防犯」の15.8%の順となっています。



<経年比較>

○「子ども・子育て支援」は、令和元年度（23.9%）から令和2年度（16.8%）、令和3年度（16.2%）と減少、16%台で推移しましたが、令和4年度（20.9%）に増加に転じ、令和5年度（26.3%）はさらに5.4ポイント増加しています。また、「消防・防災・防犯」は、令和2年度以前は20%を超えていましたが、令和3年度以降は約15%で推移しています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

○20～59 歳では「子ども・子育て支援」、60～69 歳及び 75 歳以上では「健康づくり」、70～74 歳では「地域美化・ごみ回収」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	247	3	9	36	60	39	19	16	31	33
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
子ども・子育て支援	65	0	4	21	23	9	3	1	3	1
	26.3%	0.0%	44.4%	58.3%	38.3%	23.1%	15.8%	6.3%	9.7%	3.0%
健康づくり	41	0	1	2	6	6	4	5	8	9
	16.6%	0.0%	11.1%	5.6%	10.0%	15.4%	21.1%	31.3%	25.8%	27.3%
消防・防災・防犯	39	1	0	6	4	9	3	4	4	8
	15.8%	33.3%	0.0%	16.7%	6.7%	23.1%	15.8%	25.0%	12.9%	24.2%
地域美化・ごみ回収	37	0	1	4	8	7	2	1	10	4
	15.0%	0.0%	11.1%	11.1%	13.3%	17.9%	10.5%	6.3%	32.3%	12.1%
子どもの見守りや青少年健全委員会	24	1	1	3	8	5	2	1	2	1
	9.7%	33.3%	11.1%	8.3%	13.3%	12.8%	10.5%	6.3%	6.5%	3.0%
環境保全	11	0	0	0	1	3	0	1	4	2
	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	7.7%	0.0%	6.3%	12.9%	6.1%
高齢者・障害者の見守り	9	0	0	0	2	0	0	1	3	3
	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	6.3%	9.7%	9.1%
その他	35	0	4	3	7	5	4	1	2	8
	14.2%	0.0%	44.4%	8.3%	11.7%	12.8%	21.1%	6.3%	6.5%	24.2%
(無効回答)	55	1	0	8	17	9	5	5	6	4
	22.3%	33.3%	0.0%	22.2%	28.3%	23.1%	26.3%	31.3%	19.4%	12.1%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

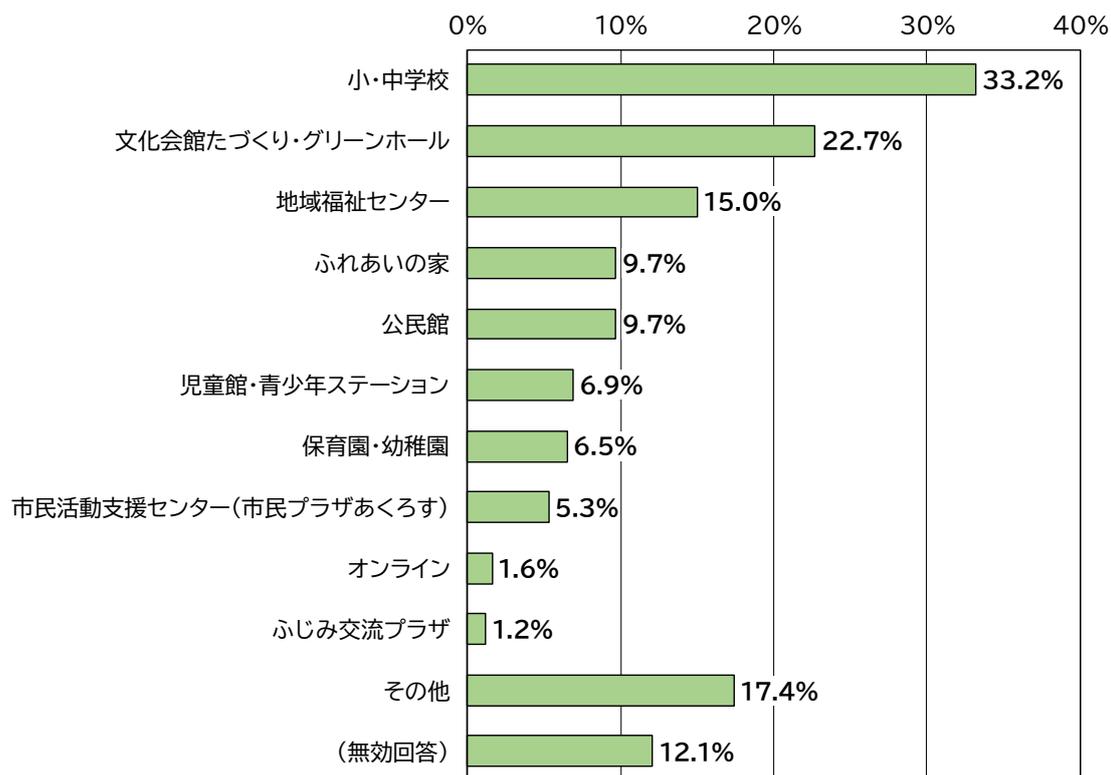
回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

#### 場所

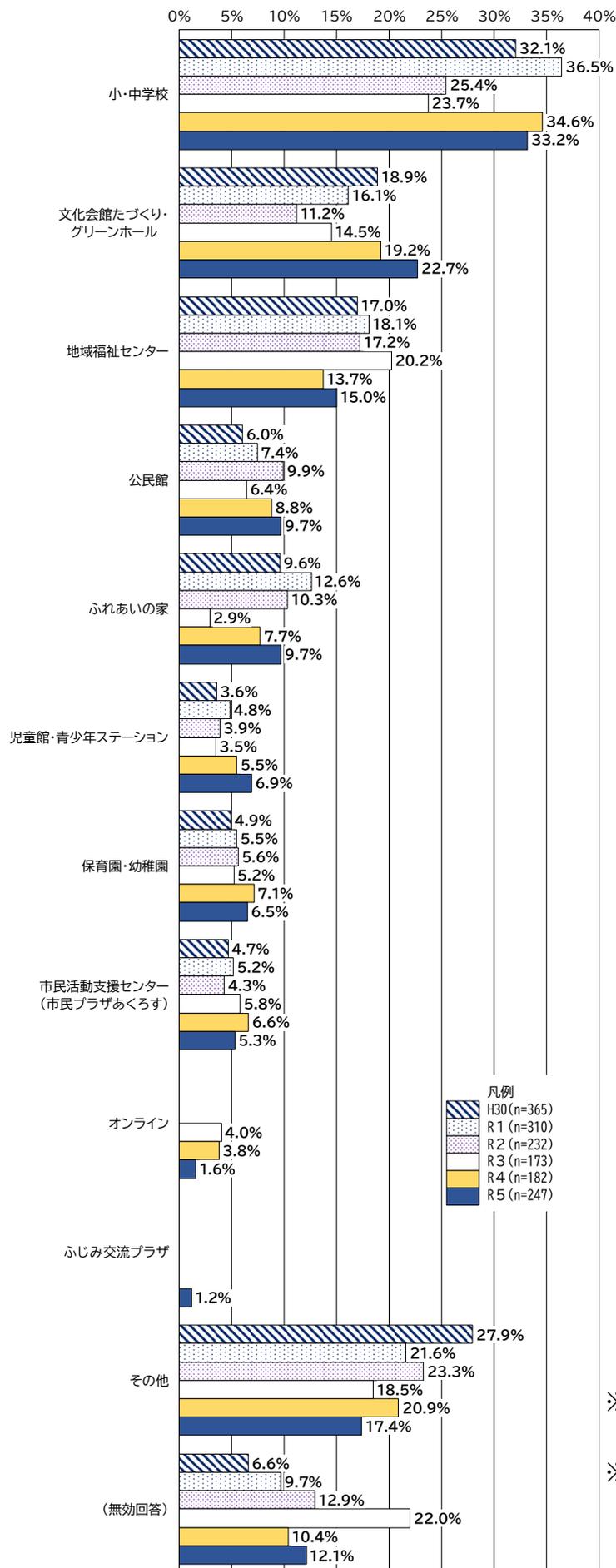
<全体 (n=247) >

○「小・中学校」が 33.2%で最も高く、次いで「文化会館たづくり・グリーンホール」の 22.7%、「地域福祉センター」の 15.0%の順になっています。



<経年比較>

○「小・中学校」は、いずれの年度においても最も高く、令和2年度と令和3年度は20%台に落ち込んだものの、令和4年度以降は再び増加し、30%台に戻っています。



※「オンライン」は、令和3年度に追加された選択肢です。  
 ※「ふじみ交流プラザ」は、令和5年度に追加された選択肢です。

### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

016～19 歳及び 30～59 歳では「小・中学校」、60～69 歳及び 75 歳以上では「文化会館たづくり・グリーンホール」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	247	3	9	36	60	39	19	16	31	33
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
小・中学校	82	3	2	14	39	10	2	3	4	4
	33.2%	100.0%	22.2%	38.9%	65.0%	25.6%	10.5%	18.8%	12.9%	12.1%
文化会館たづくり・グリーンホール	56	0	2	9	12	7	7	5	6	8
	22.7%	0.0%	22.2%	25.0%	20.0%	17.9%	36.8%	31.3%	19.4%	24.2%
地域福祉センター	37	0	2	5	8	2	3	2	7	8
	15.0%	0.0%	22.2%	13.9%	13.3%	5.1%	15.8%	12.5%	22.6%	24.2%
ふれあいの家	24	0	0	1	5	5	4	1	7	1
	9.7%	0.0%	0.0%	2.8%	8.3%	12.8%	21.1%	6.3%	22.6%	3.0%
公民館	24	0	0	3	6	1	4	1	5	4
	9.7%	0.0%	0.0%	8.3%	10.0%	2.6%	21.1%	6.3%	16.1%	12.1%
児童館・青少年ステーション	17	0	0	10	4	0	0	0	2	1
	6.9%	0.0%	0.0%	27.8%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	6.5%	3.0%
保育園・幼稚園	16	0	1	10	3	2	0	0	0	0
	6.5%	0.0%	11.1%	27.8%	5.0%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
市民活動支援センター（市民プラザあくろす）	13	0	0	1	2	3	0	1	2	4
	5.3%	0.0%	0.0%	2.8%	3.3%	7.7%	0.0%	6.3%	6.5%	12.1%
オンライン	4	0	0	1	0	2	0	1	0	0
	1.6%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	5.1%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%
ふじみ交流プラザ	3	0	0	0	1	0	1	0	0	1
	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	3.0%
その他	43	0	3	8	4	10	4	2	5	7
	17.4%	0.0%	33.3%	22.2%	6.7%	25.6%	21.1%	12.5%	16.1%	21.2%
（無効回答）	30	0	2	1	4	7	4	4	3	5
	12.1%	0.0%	22.2%	2.8%	6.7%	17.9%	21.1%	25.0%	9.7%	15.2%

（上段：実数（人），下段：構成比）

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

#### <自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 活動場所のその他の例】（30件）

・ 団地，マンション内	・ 自治会，町内会
・ 集会所	・ 自宅周辺

#### <自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 地域における子育て支援や青少年健全育成に関する施策についてのご意見・ご提案】（17件）

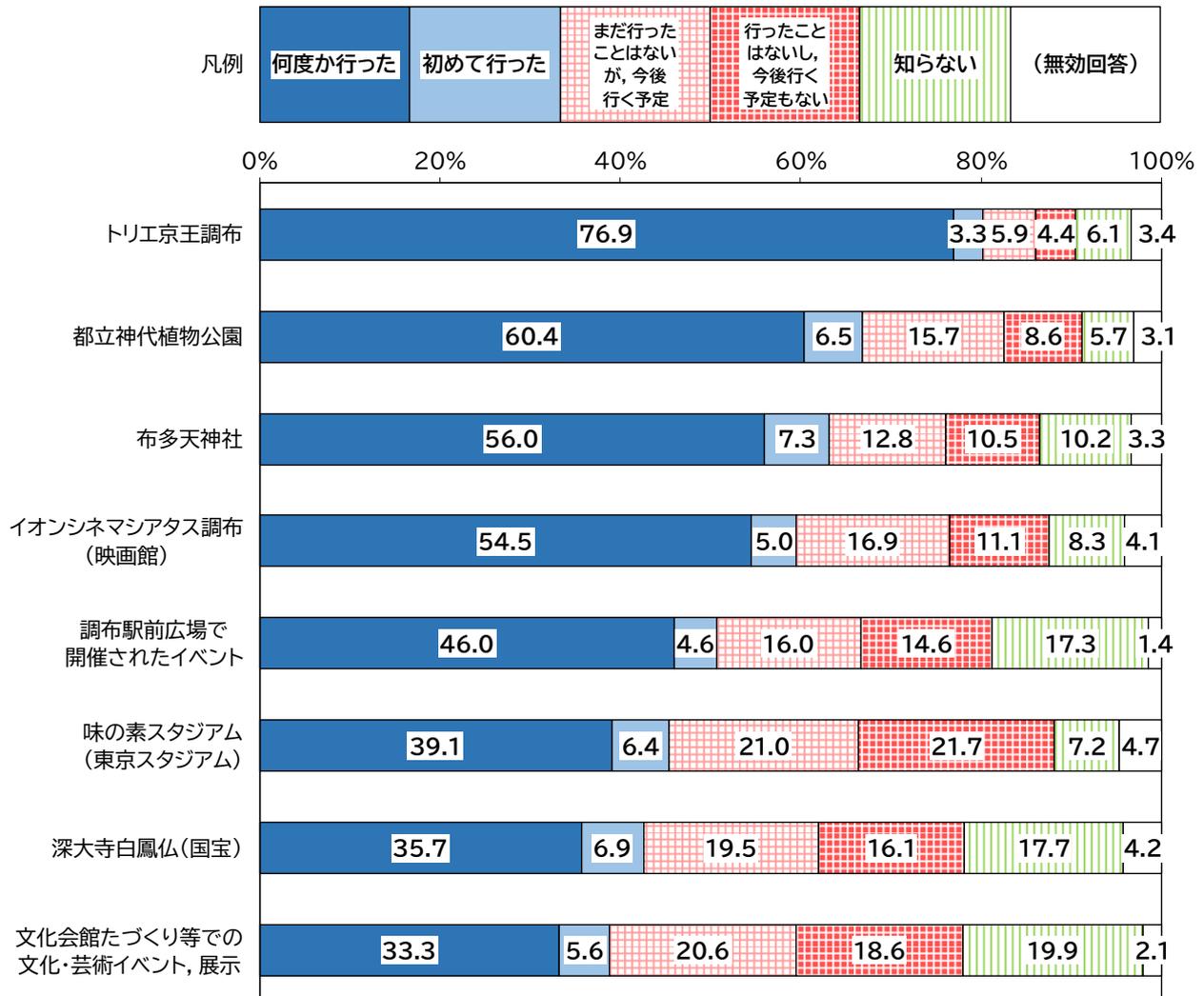
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域でゆるくつながっている感じの仕組みがあるとよいが，なかなか難しい。小中学校の段階で，多様な人々と一緒に勉強や活動をする機会をもっと増やすとよい（障害児者，老若男女，いわゆるマイノリティーの人等）。</li> <li>・ 乳児期は子育て支援でお世話になり，色々とおアドバイスいただけただけなのは心強かった。幼児以上でも，些細なことを子育て相談できたらありがたいです。</li> <li>・ 保育士さんが安心して長く働けるよう給与や労働環境の改善・向上の取り組みを続けていただきたいです。子どもが病気にかかった時に仕事の調整に頭を悩まされる事が多いので，病児保育サービスの充実を望みたいです。</li> </ul>
--

【産業・農業・観光について】

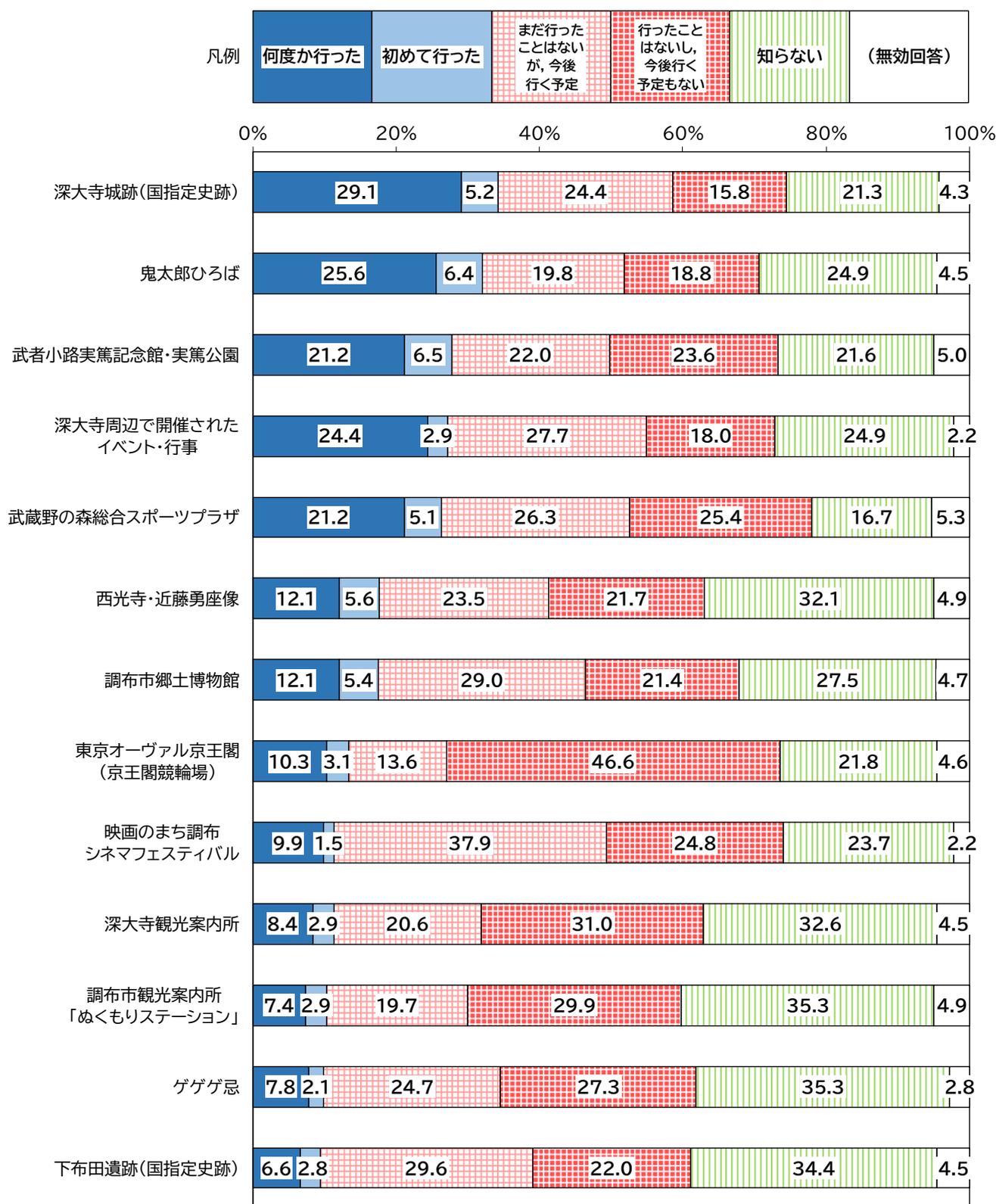
問 33) あなたはこの1年間に、次のイベントや施設・場所に行ったことがありますか。

<全体 (n=1,211) >

- 「何度か行った」、「初めて行った」の合計が 50%を超えているのは、「トリエ京王調布」、「都立神代植物公園」、「布多天神社」、「イオンシネマ シアタス調布 (映画館)」、「調布駅前広場で開催されたイベント」となっています。
- 「映画のまち調布シネマフェスティバル」は、「まだ行ったことはないが、今後行く予定」が 30%を超えています。

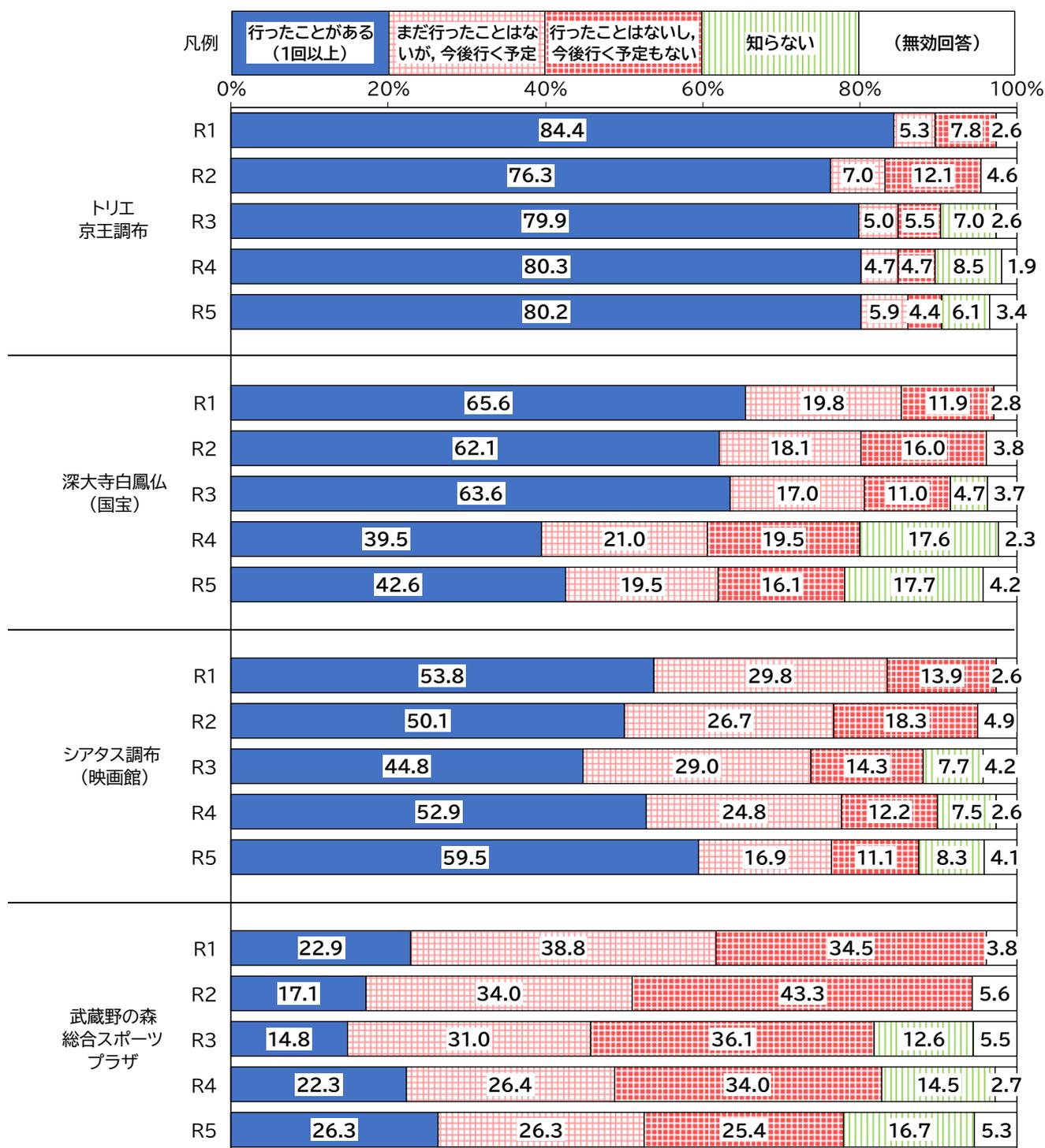


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>



<経年比較>

- 「行ったことがある（1回以上）」と回答した方の割合は、「トリエ京王調布」では令和3年度以降、約80%で推移しています。
- 「深大寺白鳳仏（国宝）」は令和4年度、「シアタス調布（映画館）」と「武蔵野の森総合スポーツプラザ」は令和3年度に「行ったことがある（1回以上）」と回答した方の割合が過去5年間で最も低くなっていますが、いずれも令和5年度は令和4年度と比べて増加しています。



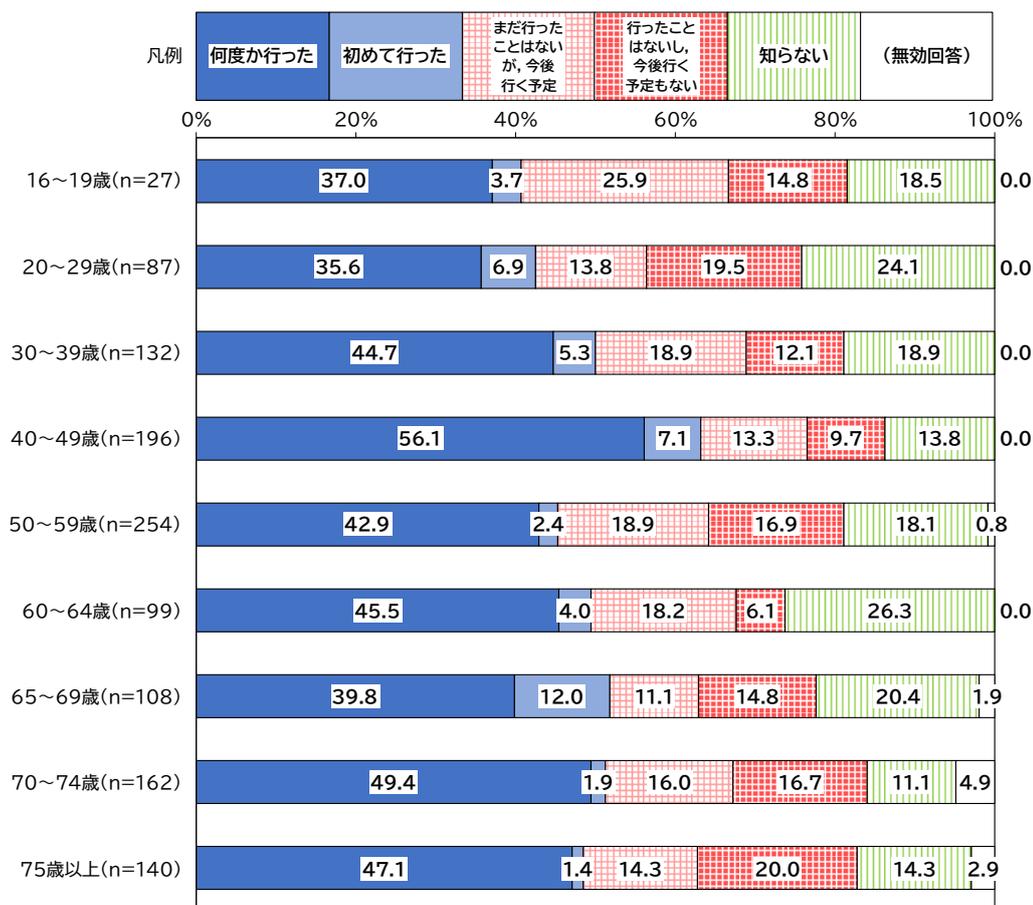
※「知らない」は、令和3年度以降追加された選択肢です。

### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

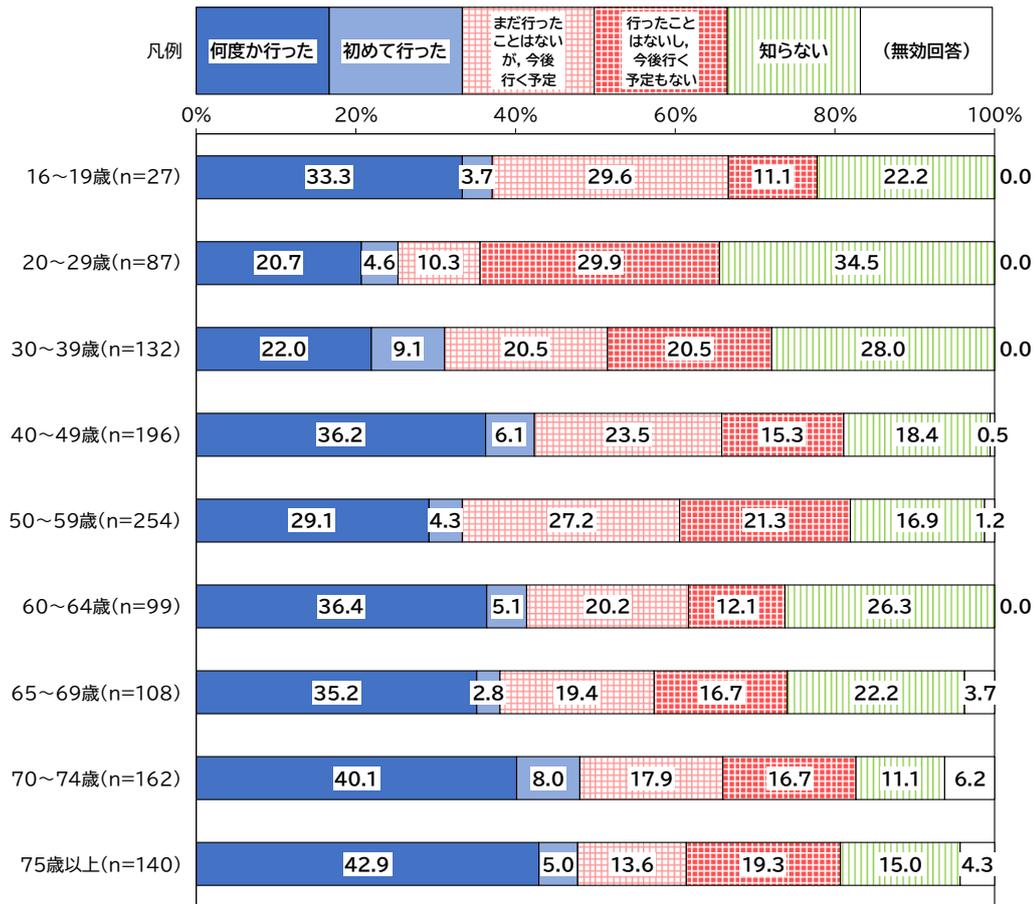
#### <年齢層別>

- 「何度か行った」、「初めて行った」の合計は、「カ 武者小路実篤記念館・実篤公園」、「ス 深大寺城跡（国指定史跡）」、「セ 下布田遺跡（国指定史跡）」、「ソ 調布市郷土博物館」、「チ 布多天神社」、「ツ 西光寺・近藤勇座像」、「ト 調布市観光案内所「ぬくもりステーション」」、「ナ 深大寺観光案内所」は75歳以上が最も高くなっています。
- 「ア 調布駅前広場で開催されたイベント」、「ウ 深大寺周辺で開催されたイベント・行事」、「コ 武蔵野の森総合スポーツプラザ」、「タ 鬼太郎ひろば」、「テ 東京オーヴァル京王閣（京王閣競輪場）」は40～49歳が最も高くなっています。
- 「ク イオンシネマ シアタス調布（映画館）」、「ケ 味の素スタジアム（東京スタジアム）」は16～19歳が最も高くなっています。

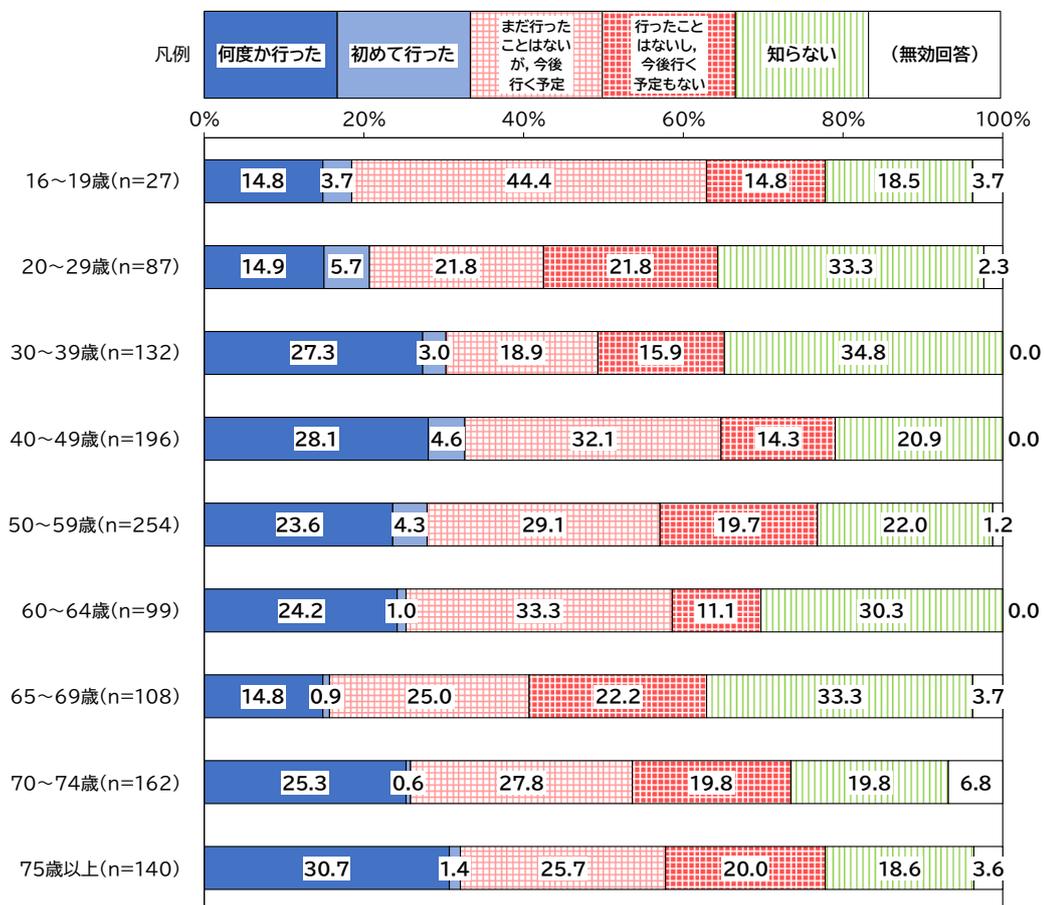
#### ア 調布駅前広場で開催されたイベント



イ 文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場での文化・芸術イベント、展示

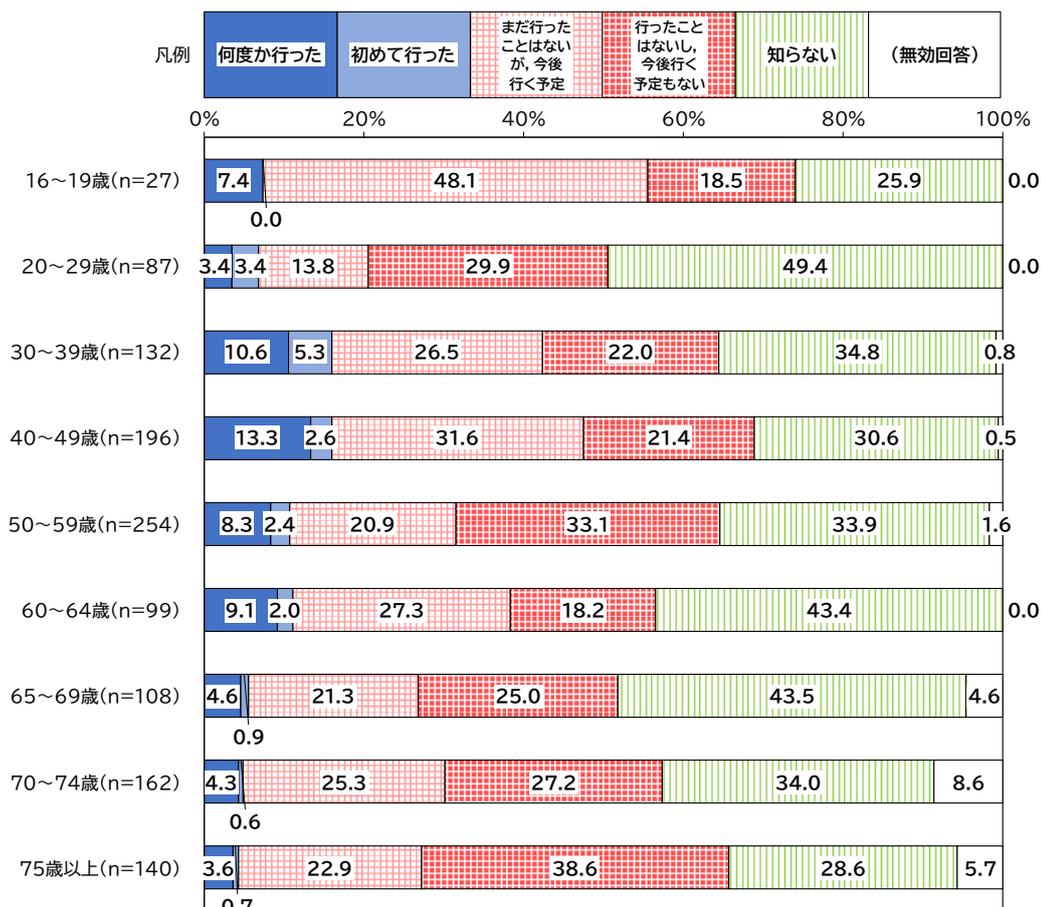


ウ 深大寺周辺で開催されたイベント・行事

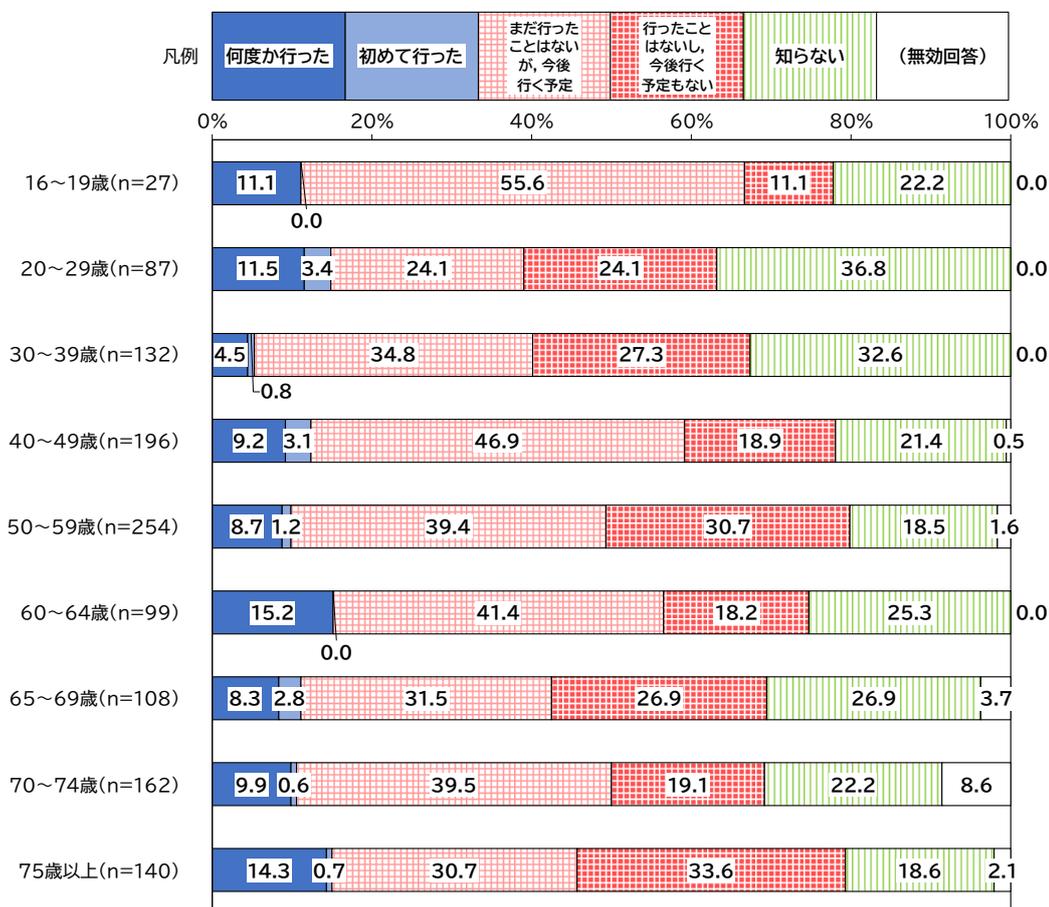


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

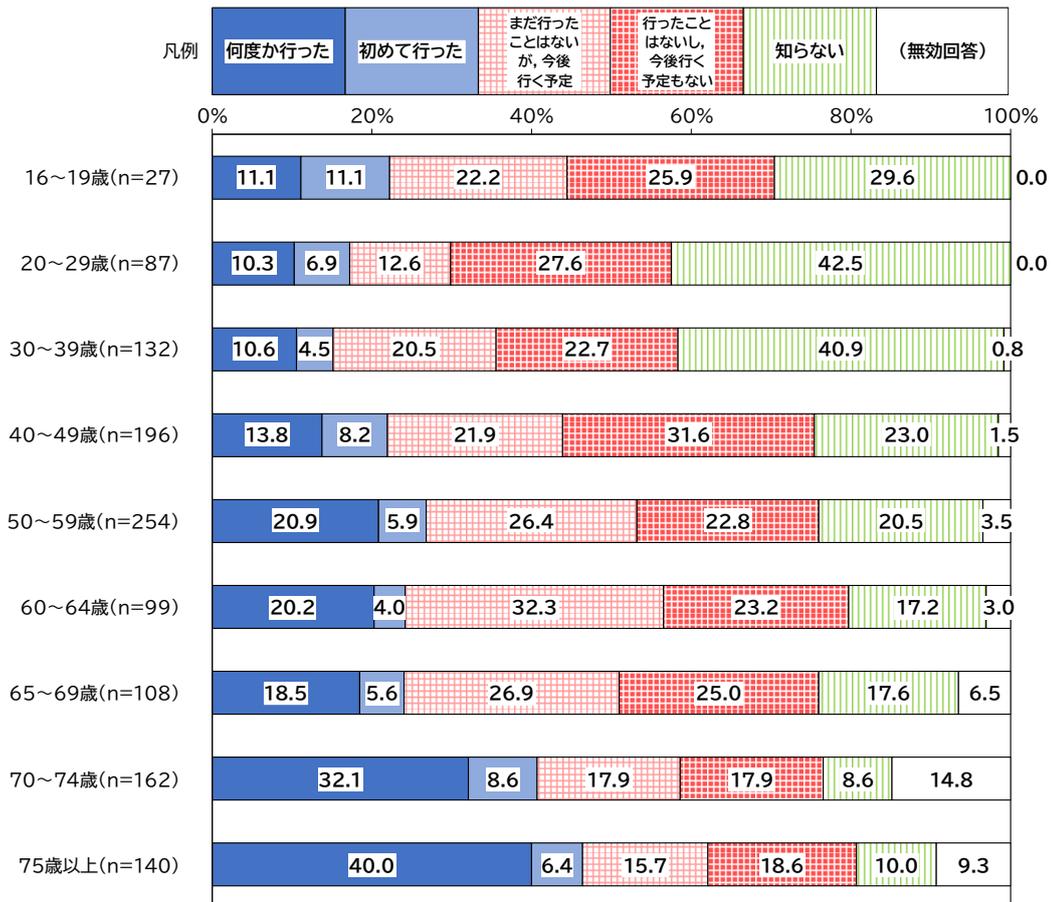
#### エ ゲゲゲ忌



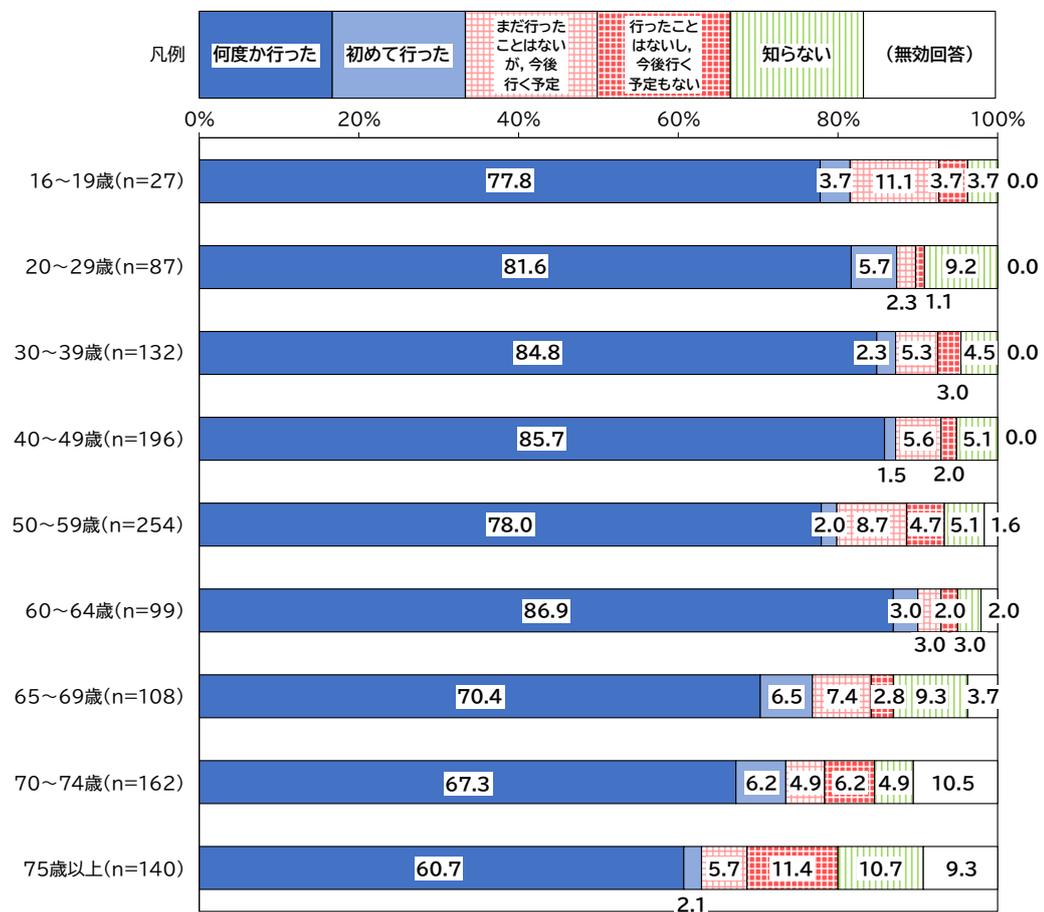
#### オ 映画のまち調布 シネマフェスティバル



カ 武者小路実篤記念館・実篤公園

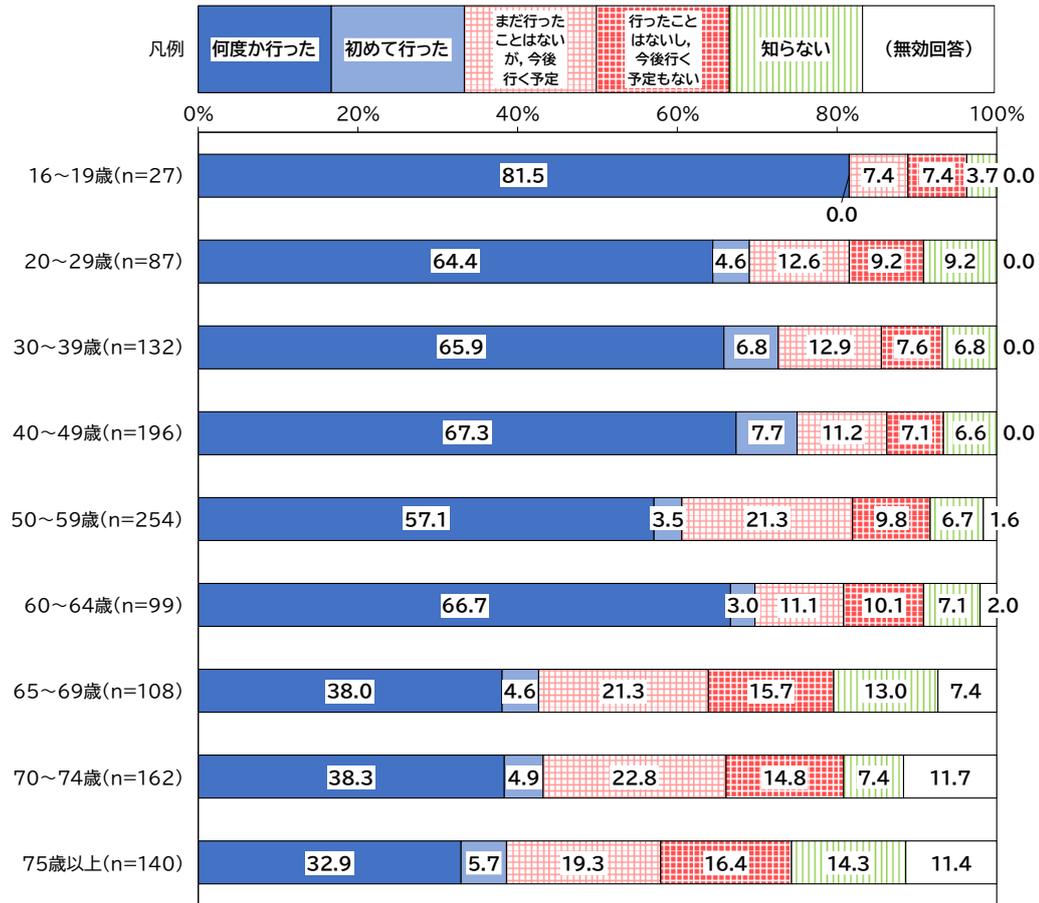


キ トリエ京王調布

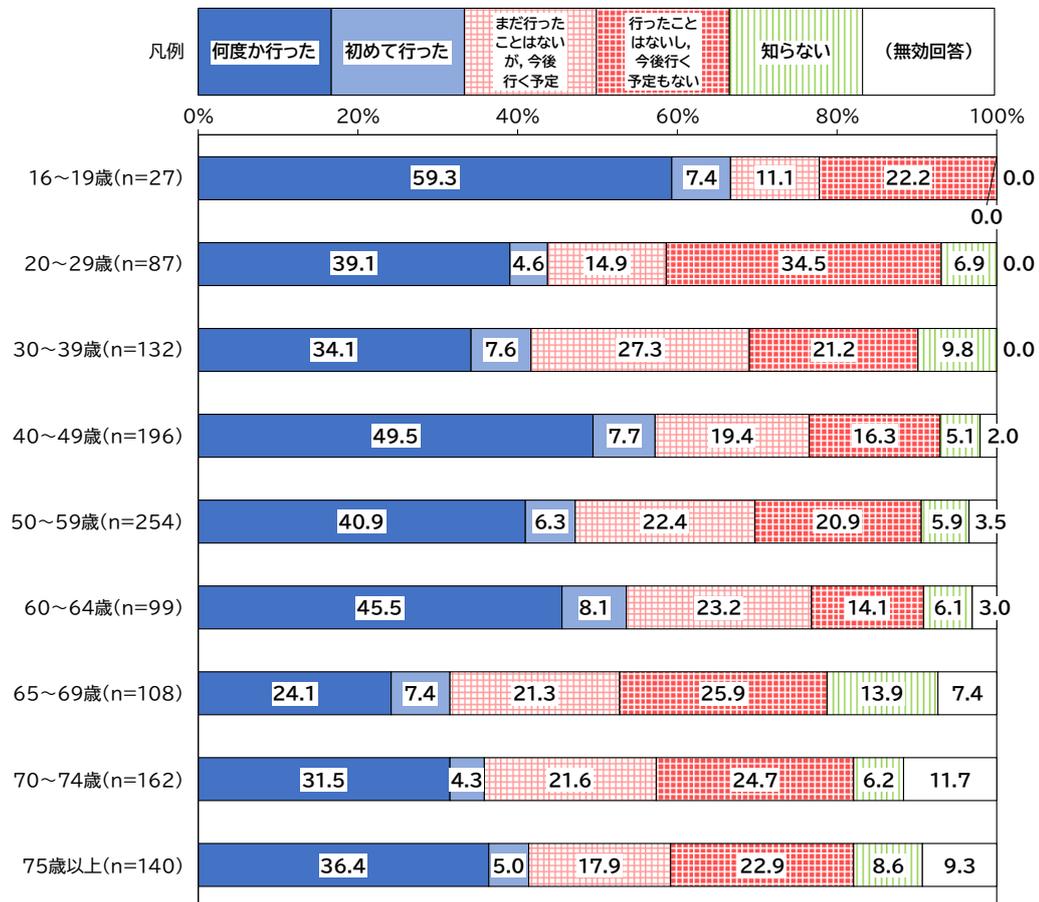


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

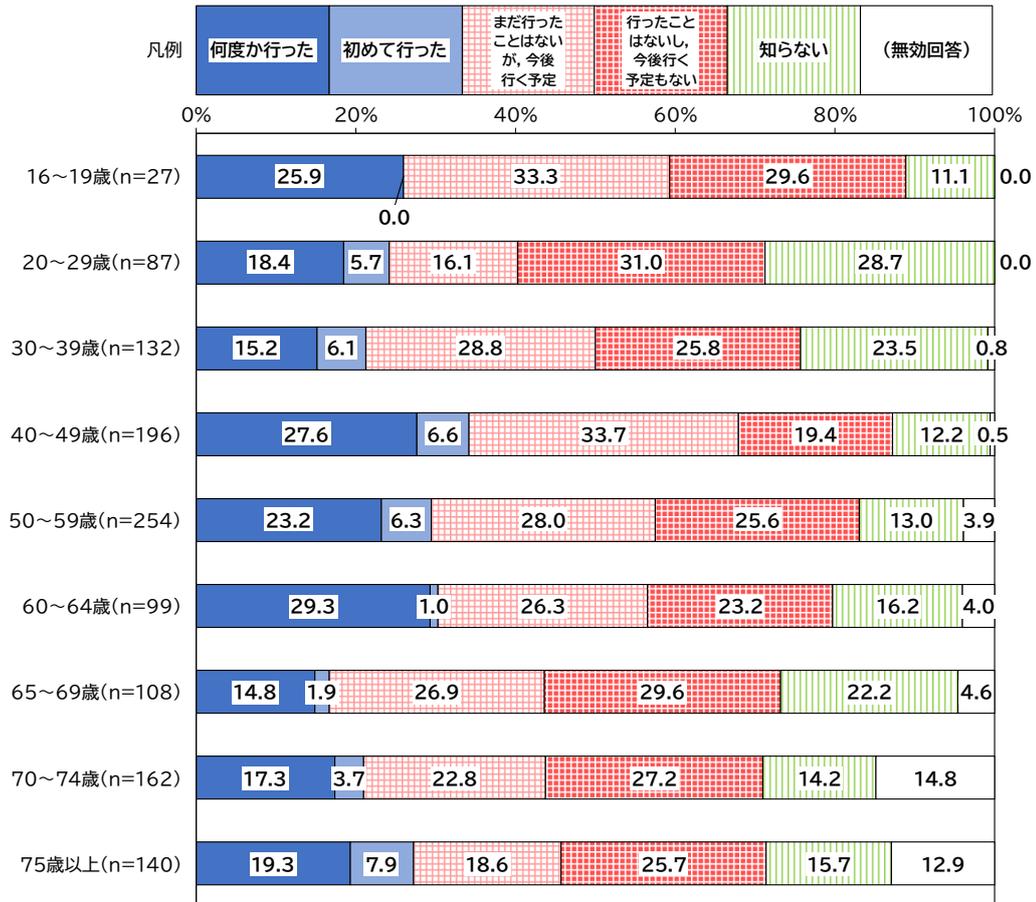
ク イオンシネマ シアタス調布（映画館）



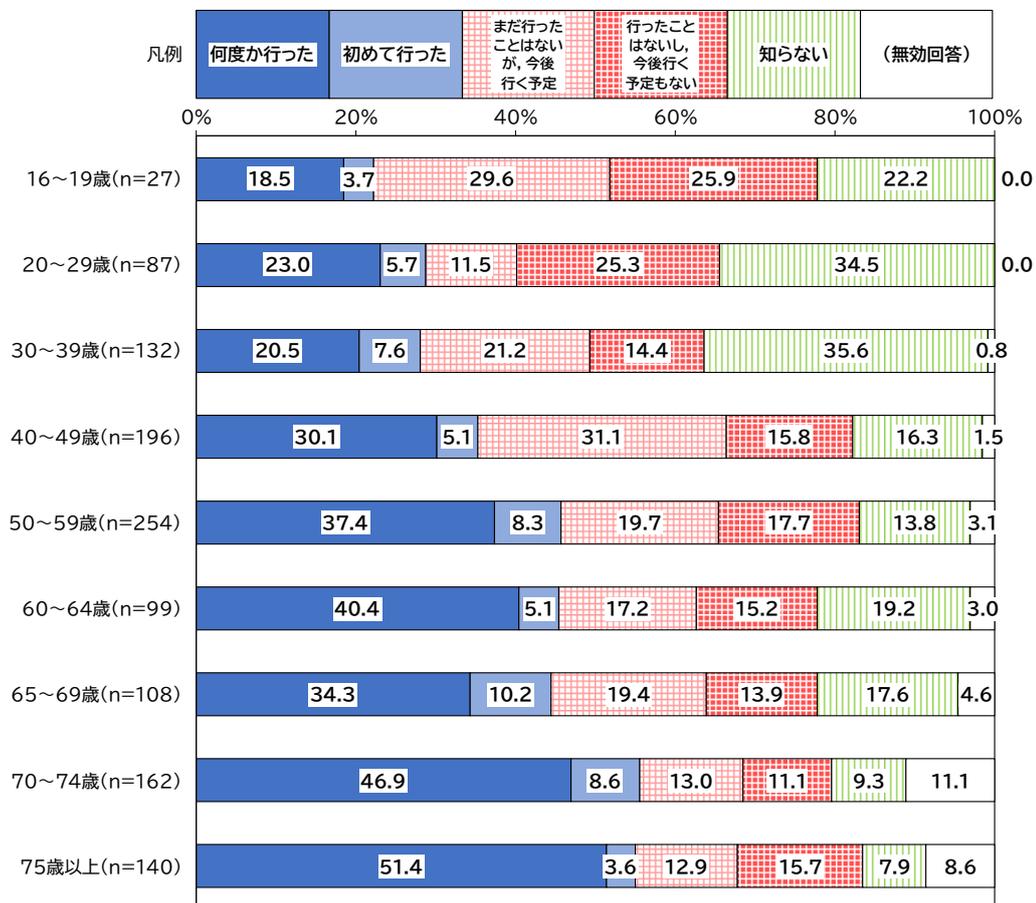
ケ 味の素スタジアム（東京スタジアム）



コ 武蔵野の森総合スポーツプラザ

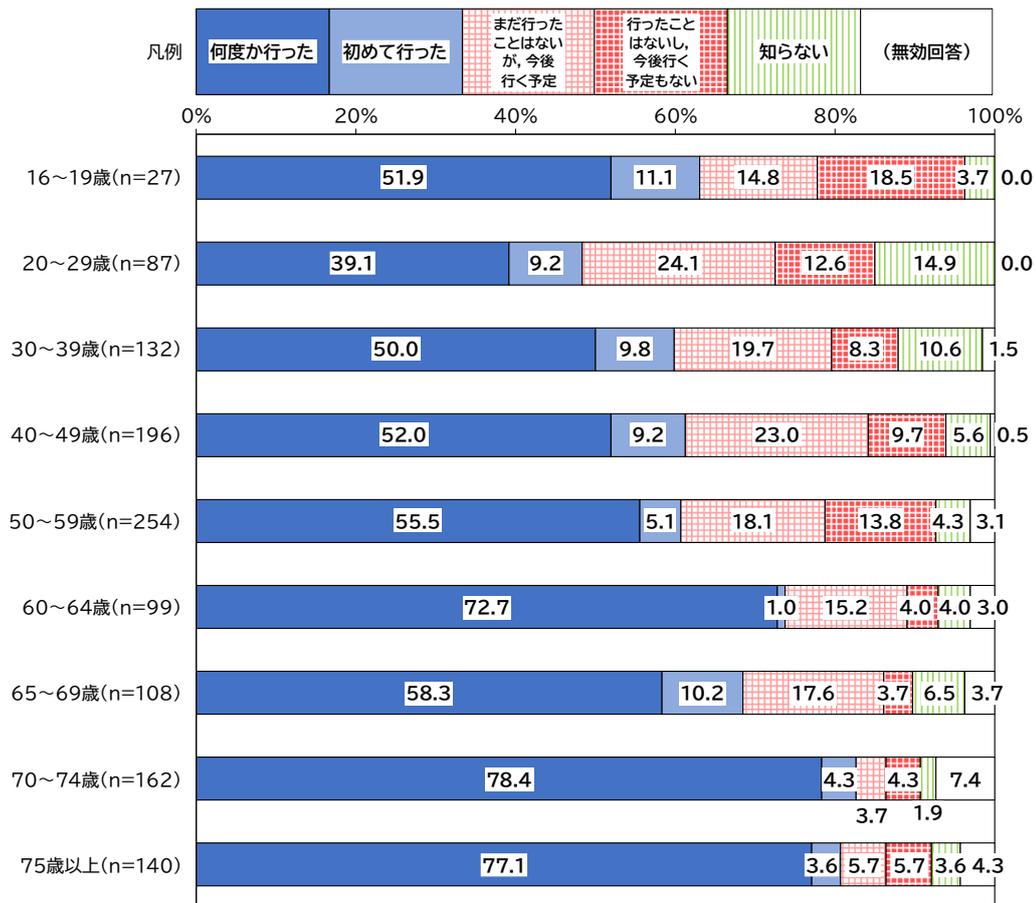


サ 深大寺白鳳仏 (国宝)

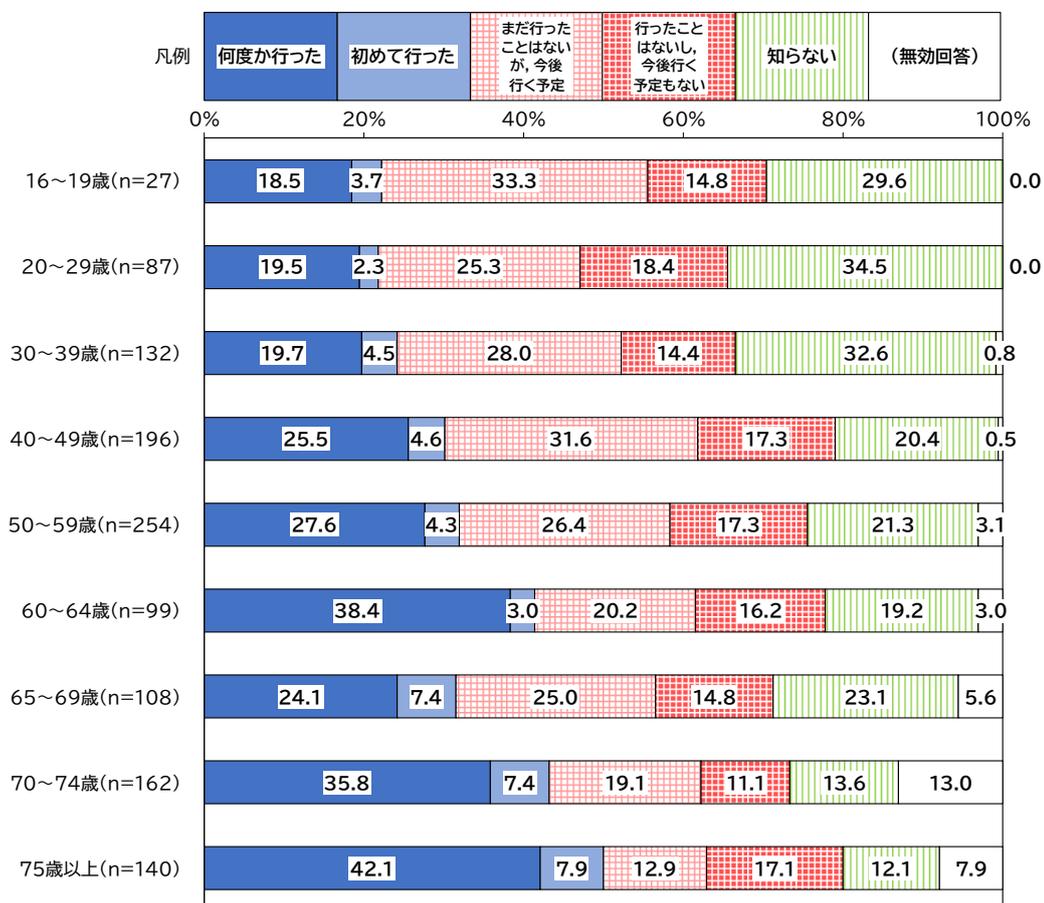


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

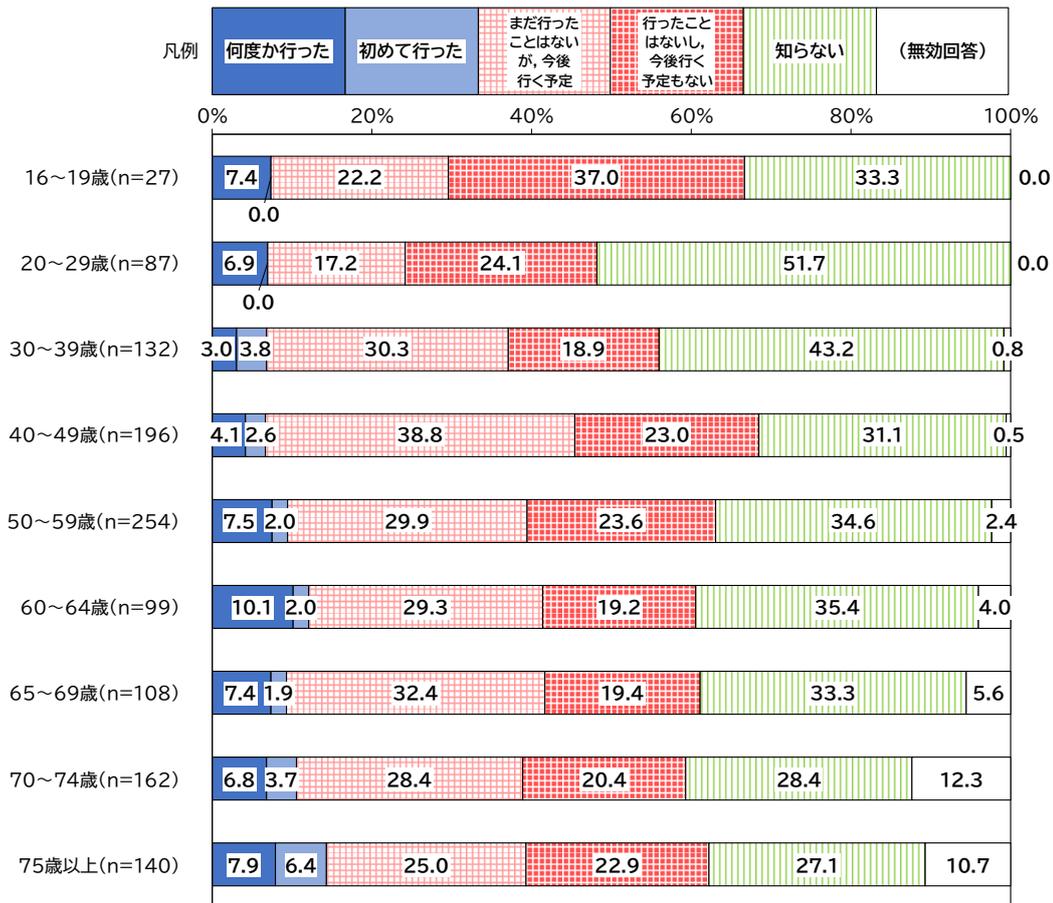
#### シ 都立神代植物公園



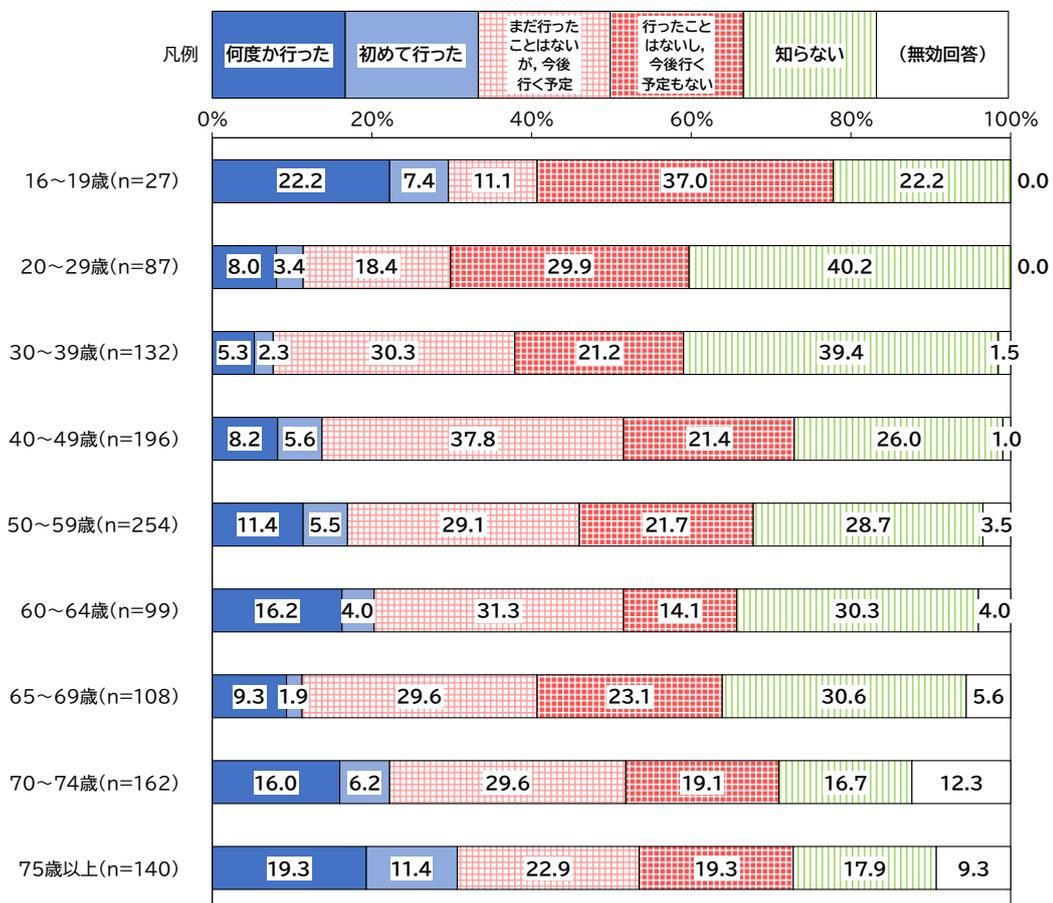
#### ス 深大寺城跡（国指定史跡）



セ 下布田遺跡（国指定史跡）

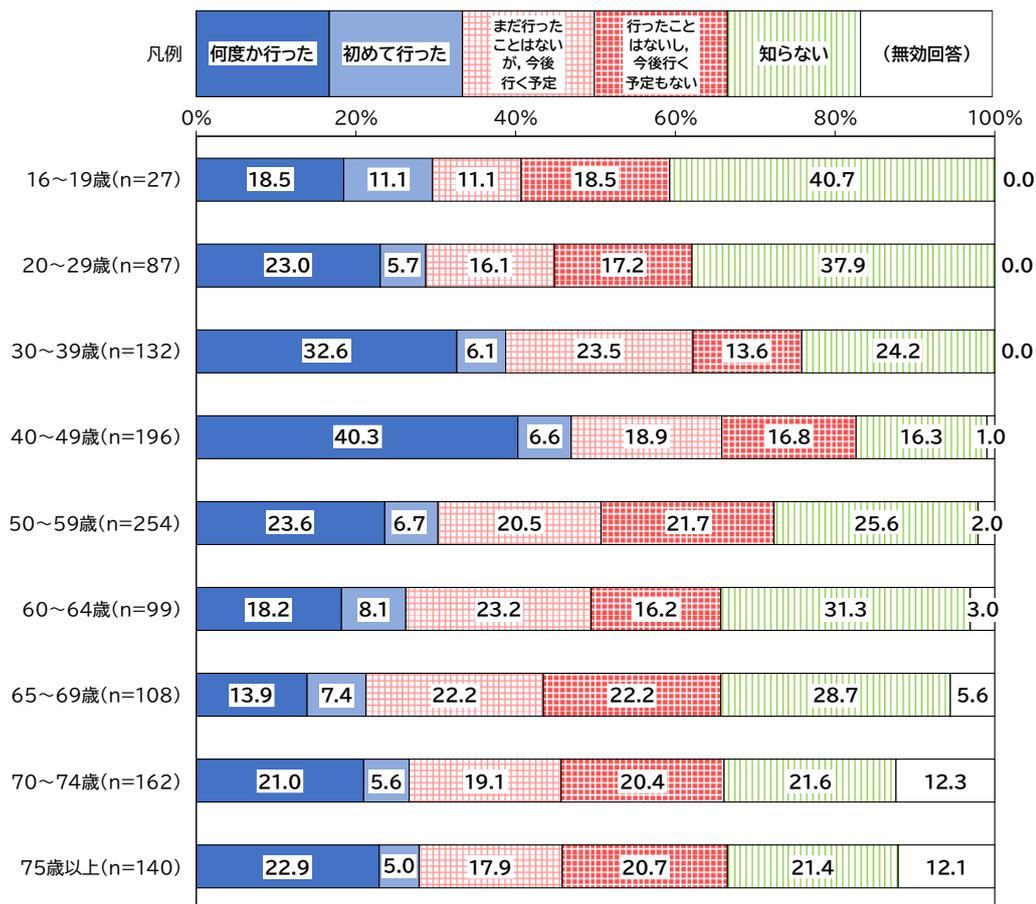


ソ 調布市郷土博物館

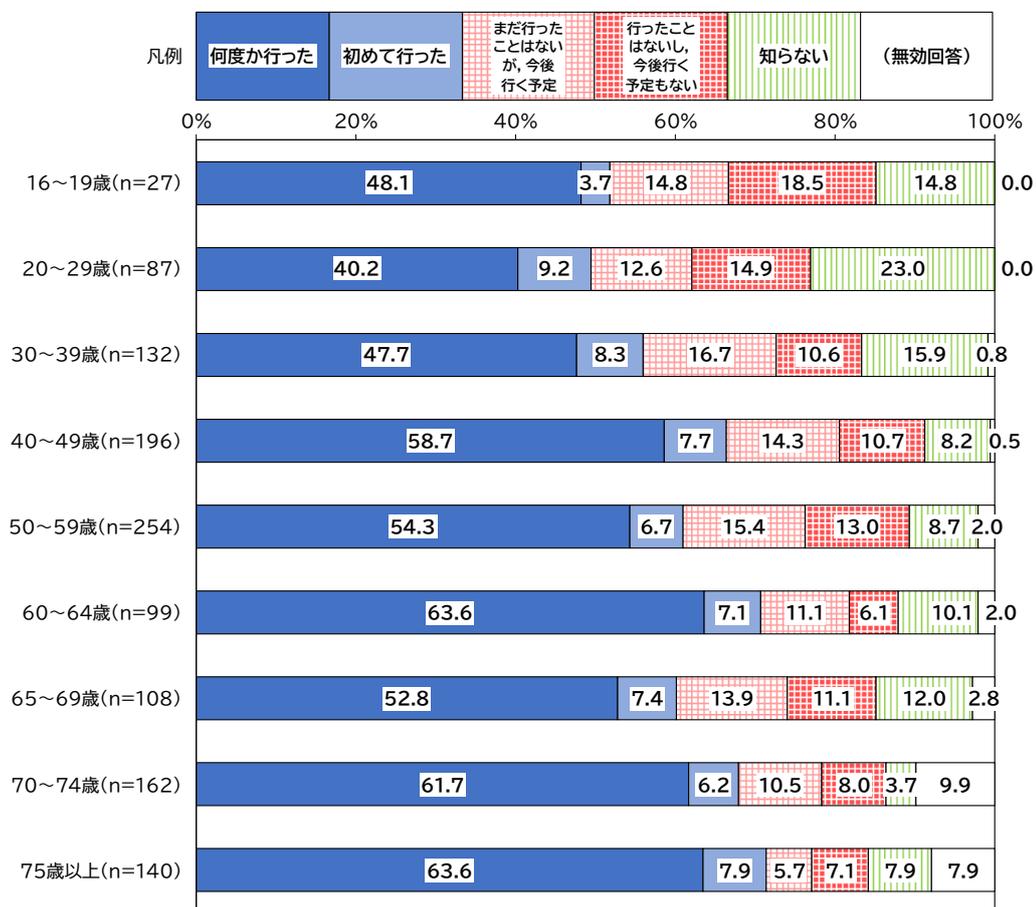


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

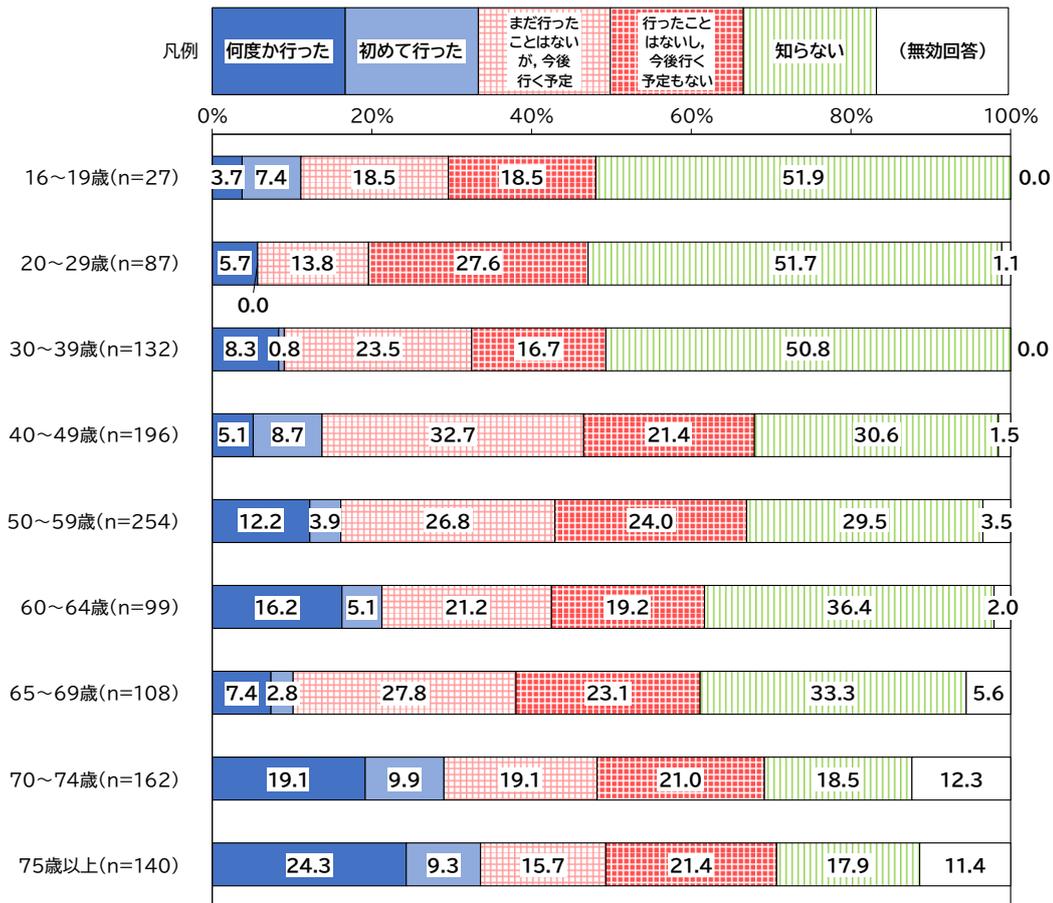
#### タ 鬼太郎ひろば



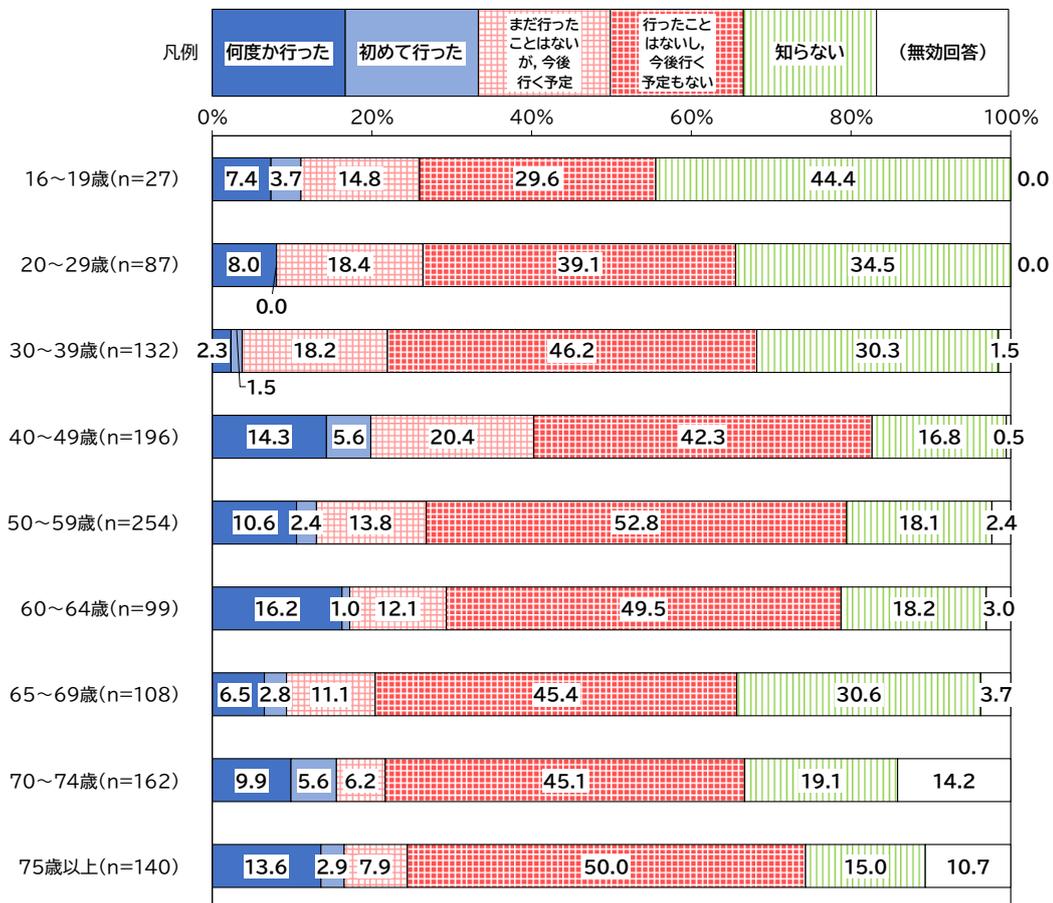
#### チ 布多天神社



ツ 西光寺・近藤勇座像

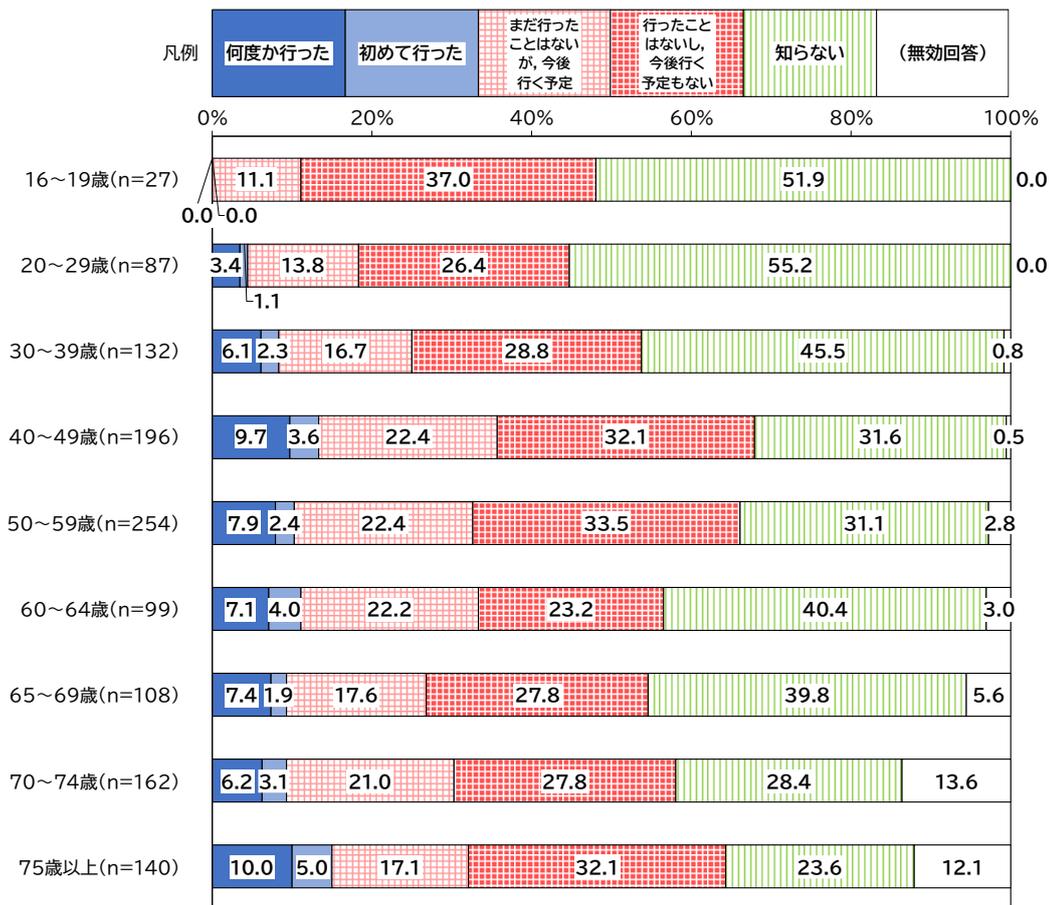


テ 東京オーヴァル京王閣 (京王閣競輪場)

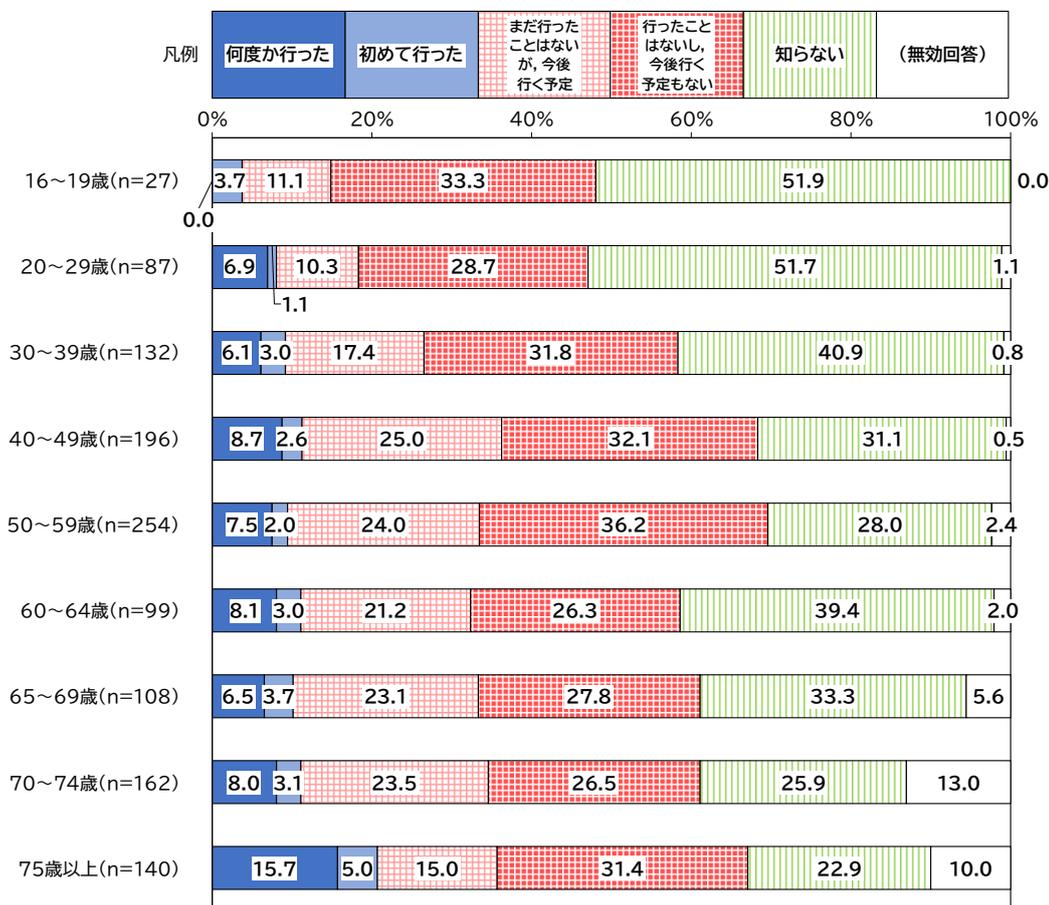


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### ト 調布市観光案内所「ぬくもりステーション」



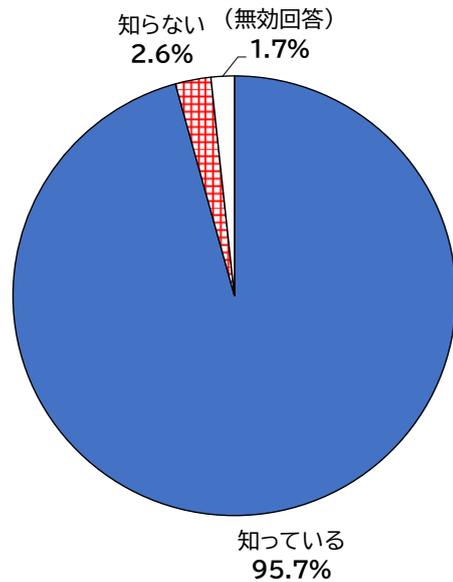
#### ナ 深大寺観光案内所



問 34) あなたは、調布市が、名誉市民・水木しげる氏が 50 年以上暮らし、「ゲゲゲの鬼太郎」や「悪魔くん」など、数々の作品を生み出した「水木マンガの生まれた街」であることを知っていますか。

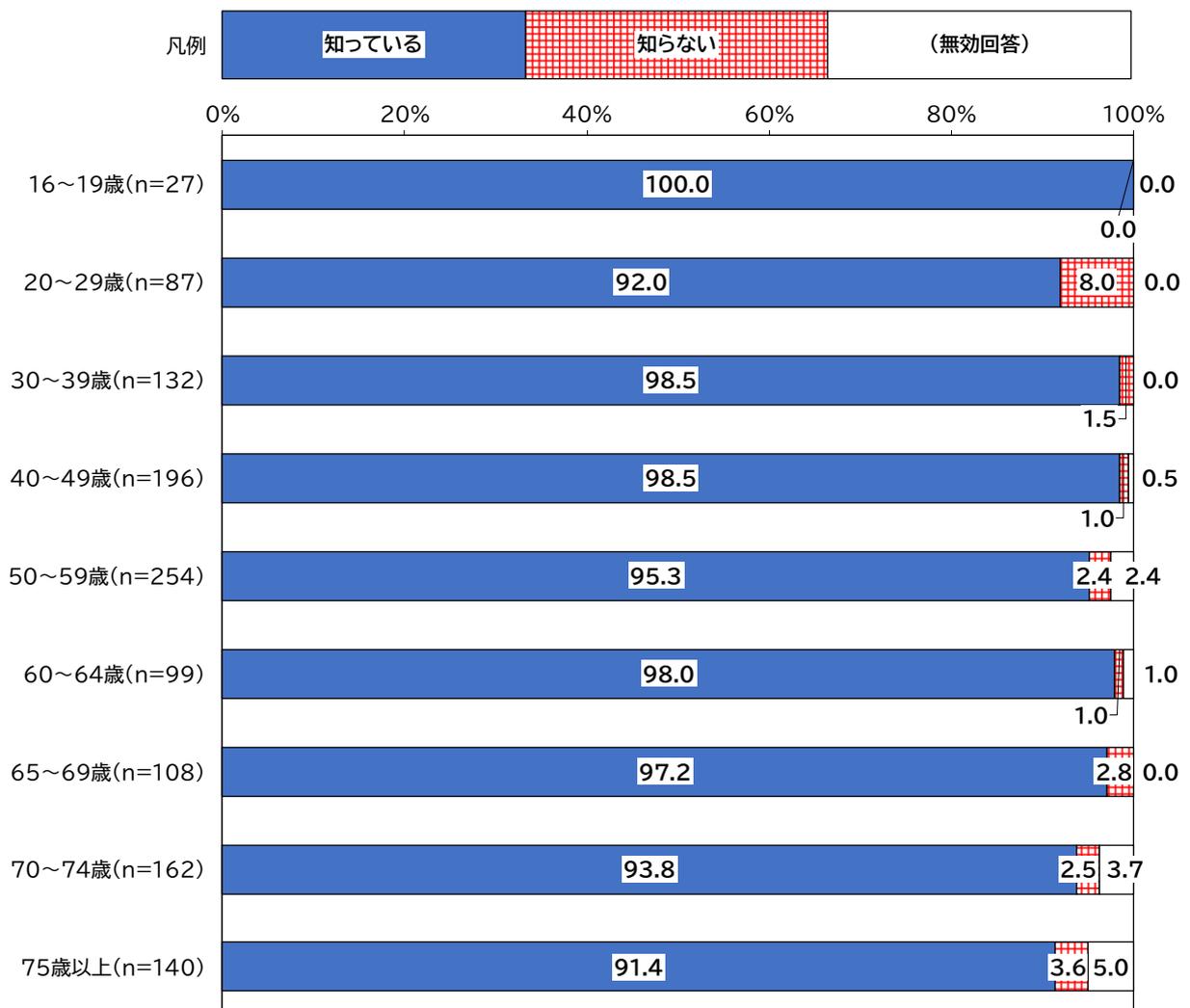
<全体 (n=1,211) >

○「知っている」が 95.7%、「知らない」が 2.6%となっています。



<年齢層別>

○「知っている」は、いずれの年齢層でも 90%を超えています。

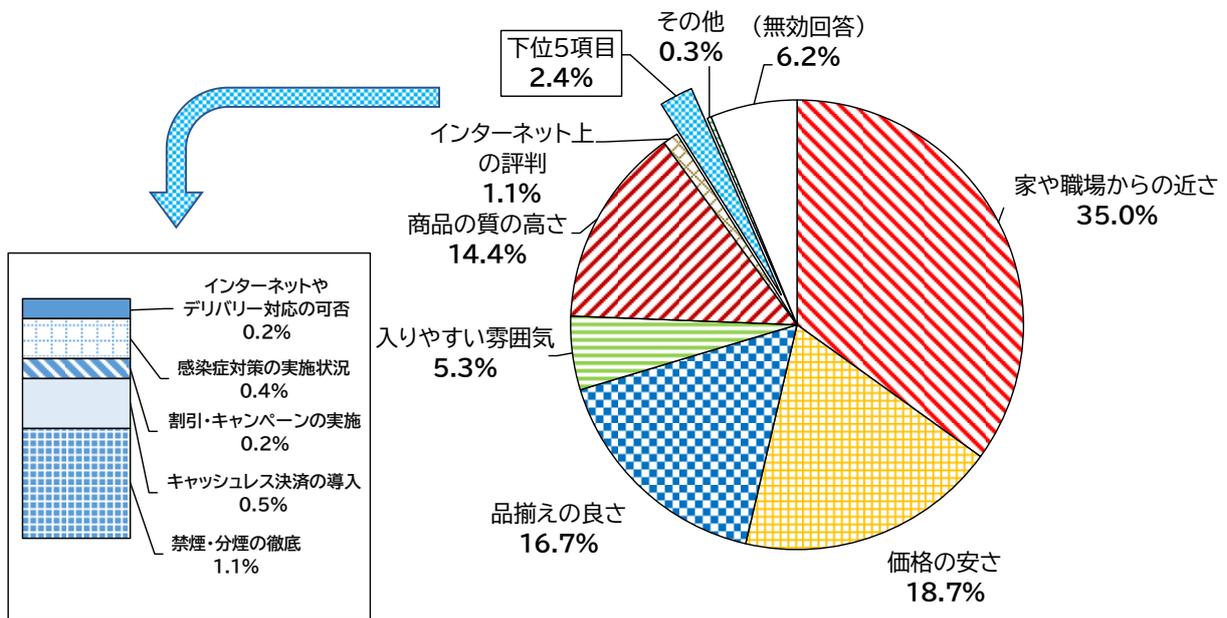


問 35) 買い物や食事など、お店選びで重視していることは何ですか。

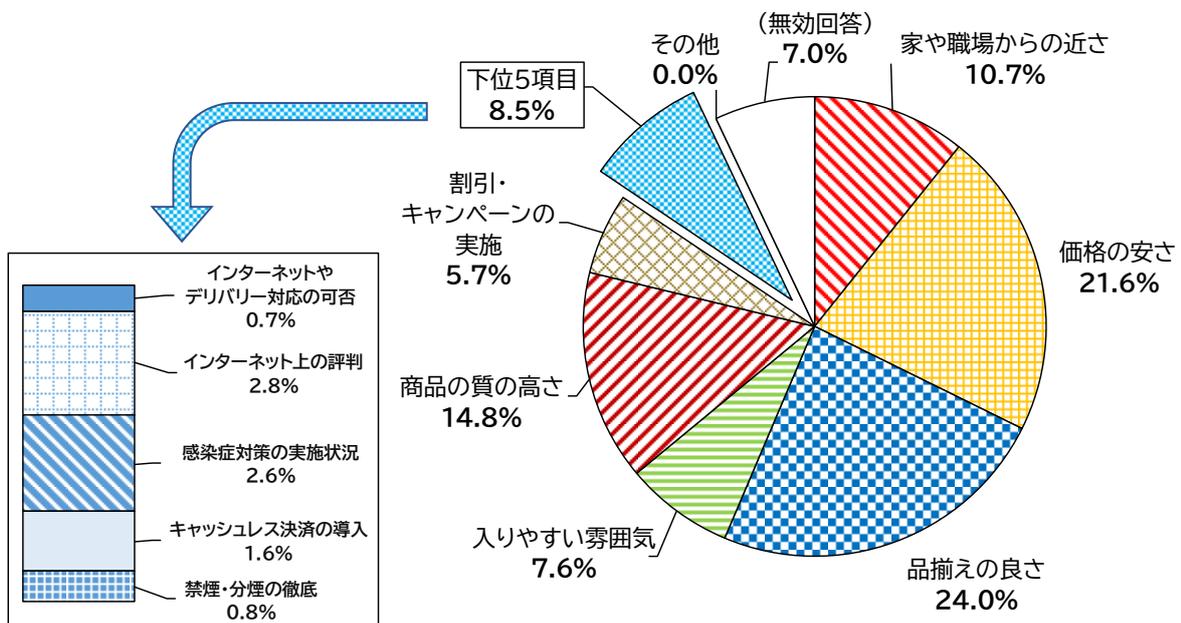
<全体 (n=1,211) >

- 1 番目に重視していることは、「家や職場からの近さ」が 35.0%で最も高く、次いで「価格の安さ」の 18.7%、「品揃えの良さ」の 16.7%の順となっています。
- 2 番目に重視していることは、「品揃えの良さ」が 24.0%で最も高く、次いで「価格の安さ」の 21.6%、「商品の質の高さ」の 14.8%の順となっています。
- 3 番目に重視していることは、「品揃えの良さ」が 20.1%で最も高く、次いで「商品の質の高さ」の 15.4%、「価格の安さ」の 12.3%の順となっています。

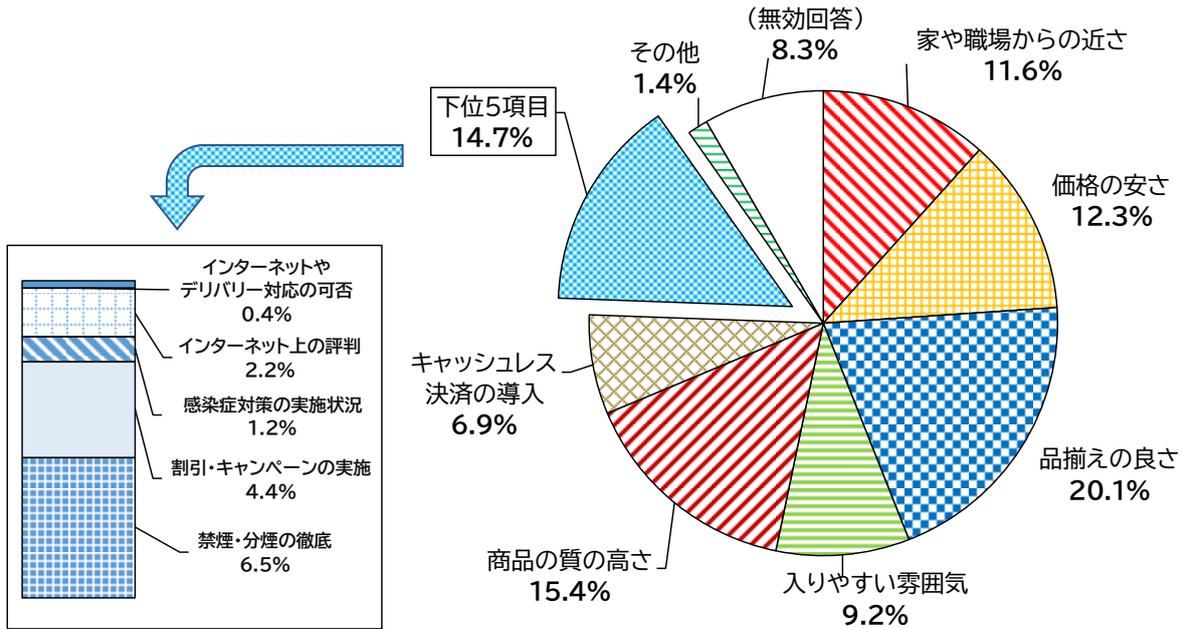
1 番目に重視していること



2 番目に重視していること



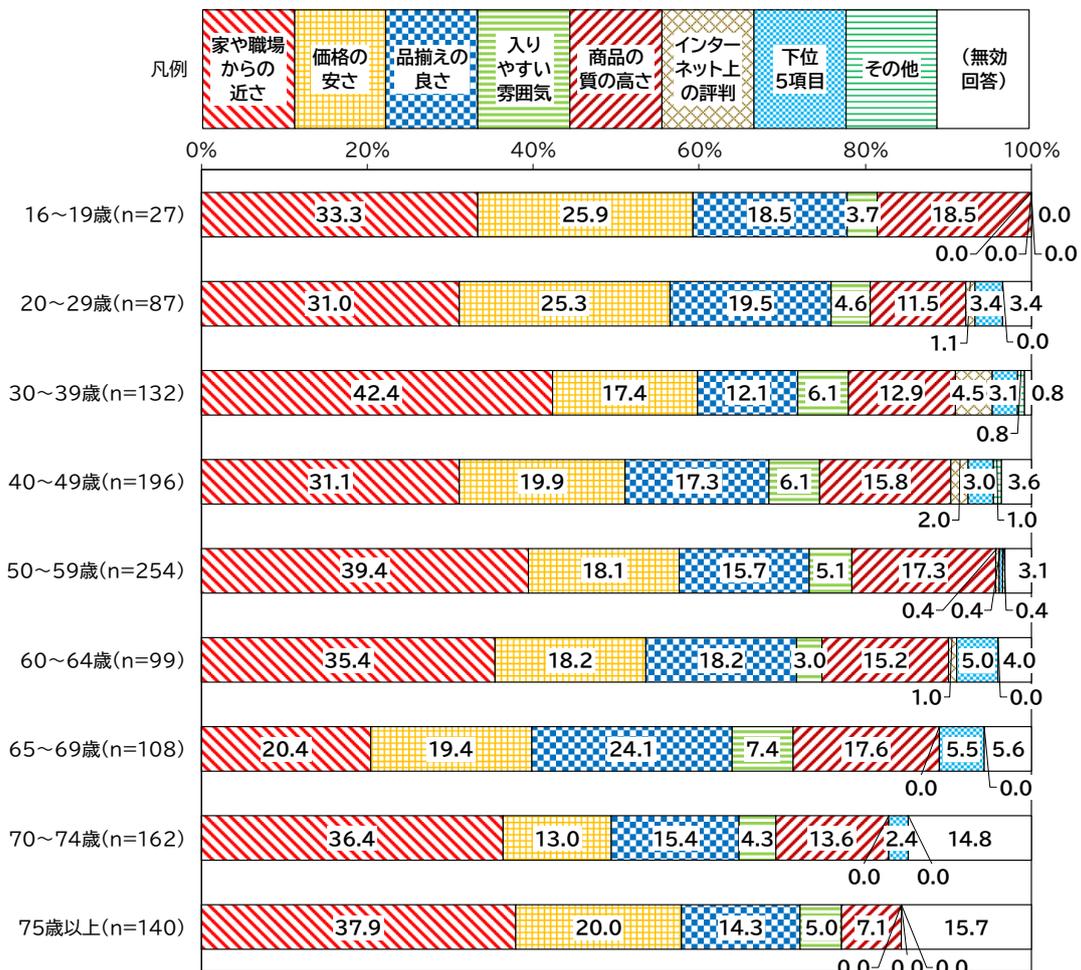
3番目に重視していること



<年齢層別>

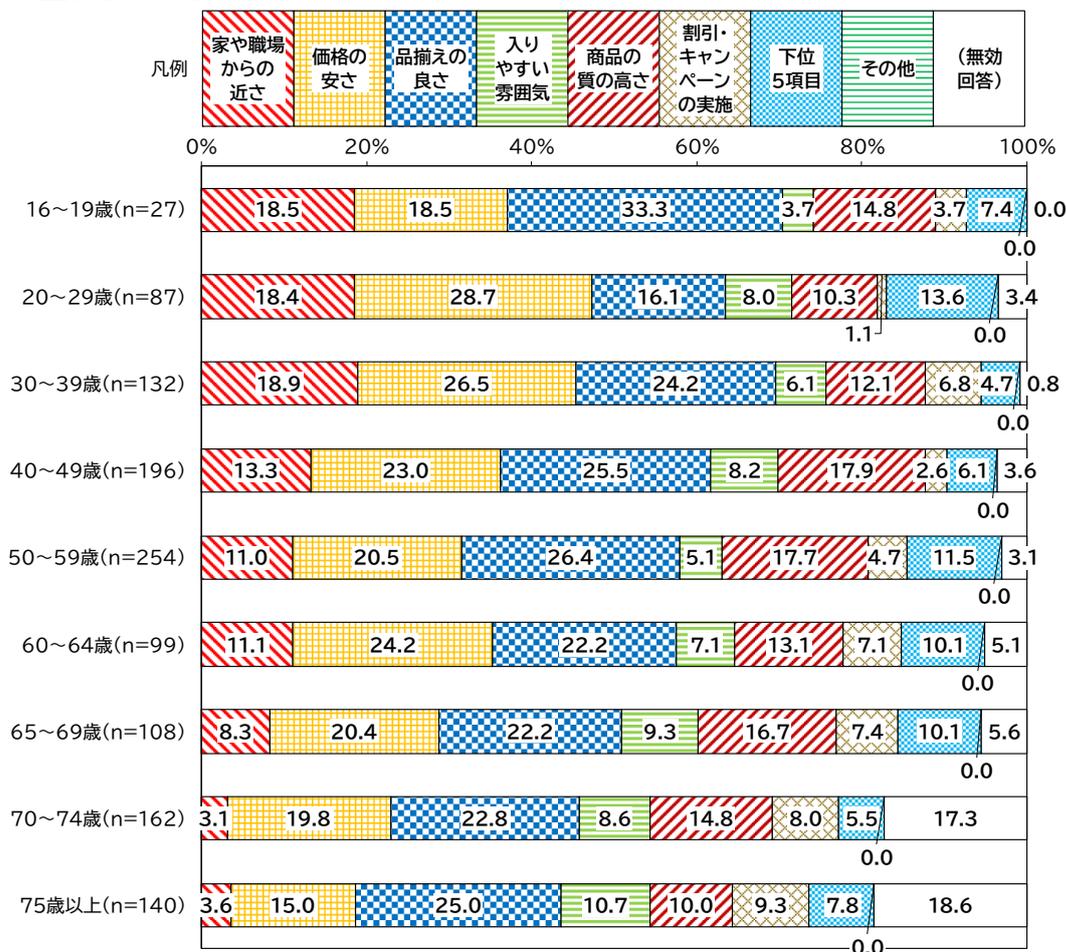
○1番目に重視していることは、65～69歳を除く年齢層で「家や職場からの近さ」が最も高く、2番目に重視していることは、おおむね年齢が下がるほど「家や職場からの近さ」と「価格の安さ」が高くなる傾向にあります。

1番目に重視していること

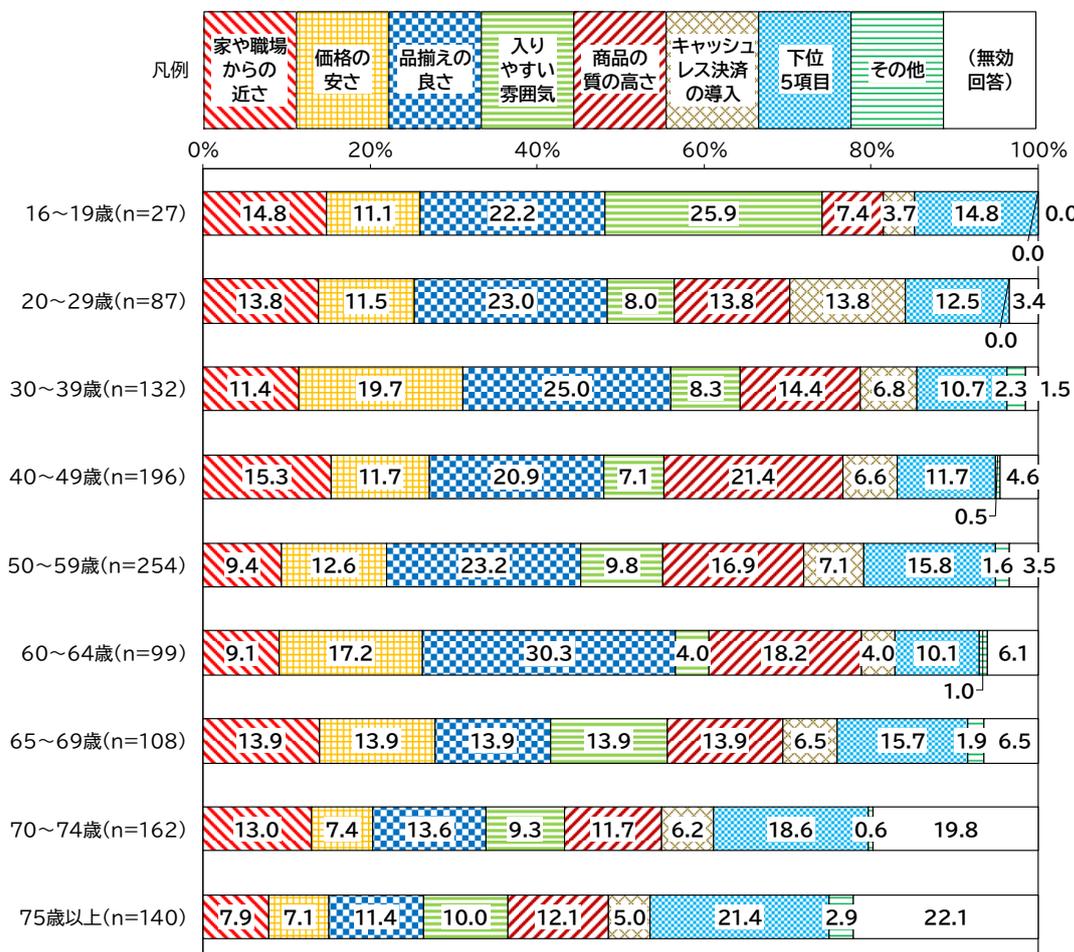


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### 2番目に重視していること



#### 3番目に重視していること



<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 産業振興に関する施策についてのご意見・ご提案】(29件)

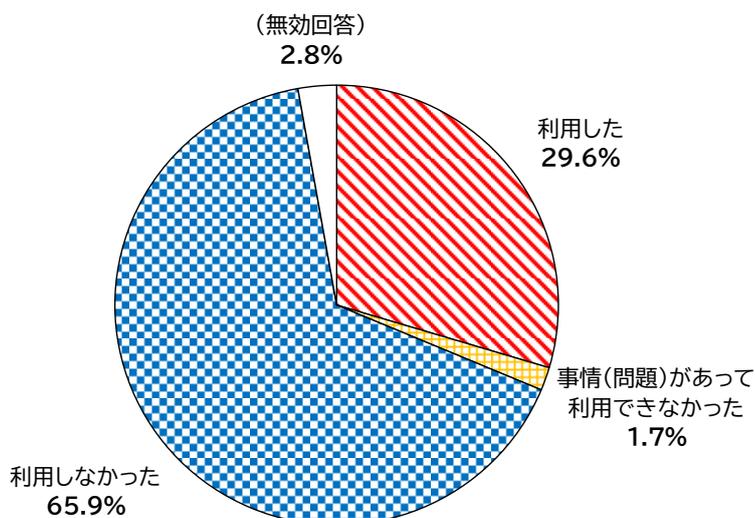
- ・ 大型スーパー・チェーン店だけでなく、個人商店やカフェも増えてほしい。
- ・ 施設やお店のバリアフリー化。
- ・ 道の駅のような、地場産物などがまとめて置いてありおしゃれに取り扱う場所があると、地域が活性化すると思うし楽しいので作ってほしい。カフェ等店も入れ、イベントもつくる。
- ・ IT系の産業が集まるような施設や設備があるとよい。例えば駅前、深大寺や川沿い等の立地で、コワーキングスペースを誘致するなどよいのではないか。たづくりなどに、おしゃれなコワーキングスペースや気軽に利用できるレンタル会議室などがあるといいのでは。

問 36) 令和5年度調布市キャッシュレス決済ポイント還元事業<sup>※</sup>についてうかがいます。あなたは、この事業を利用しましたか。

<全体 (n=1,211) >

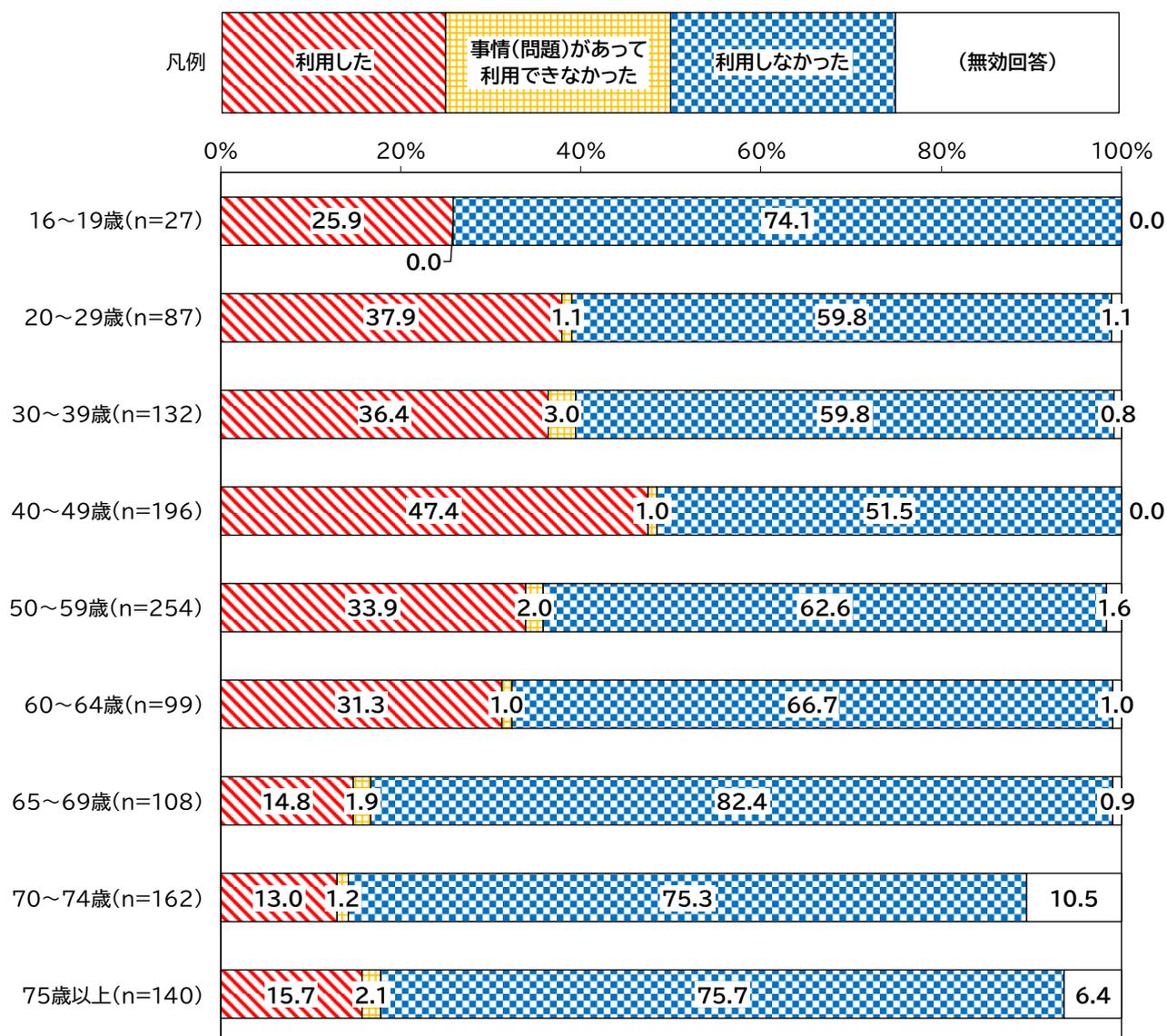
○「利用した」は 29.6%で、「利用しなかった」は 65.9%でした。

※市内対象店舗で、指定する複数のキャッシュレス決済サービスを利用した場合に、決済額の最大 20 パーセントのポイントが戻ってくる事業です。【事業実施期間：令和5年7月1日～令和5年8月7日】



<年齢層別>

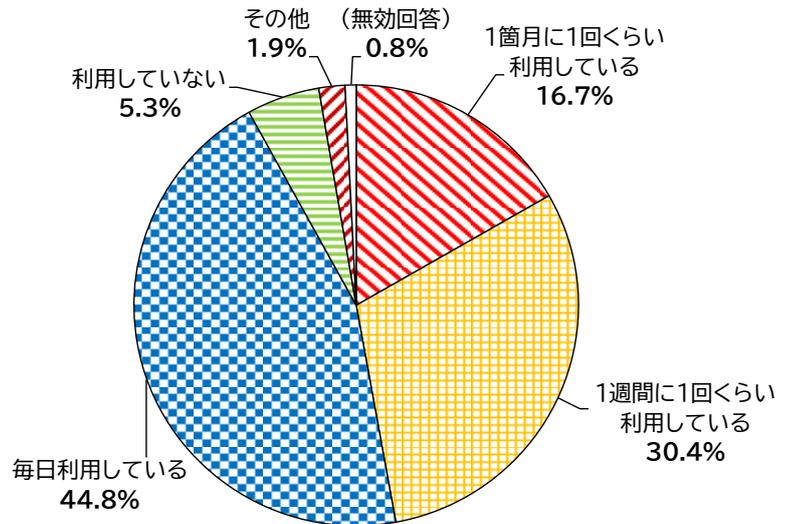
○「利用した」は 40～49 歳の 47.4%が最も高く、次いで 20～29 歳の 37.9%、30～39 歳の 36.4%の順となっています。一方で、65 歳以上は 10%台にとどまっています。



問 36-1) 問 36 で「利用した」と回答した方にうかがいます。キャッシュレス決済ポイント還元事業終了後、キャッシュレス決済サービスを利用していますか。

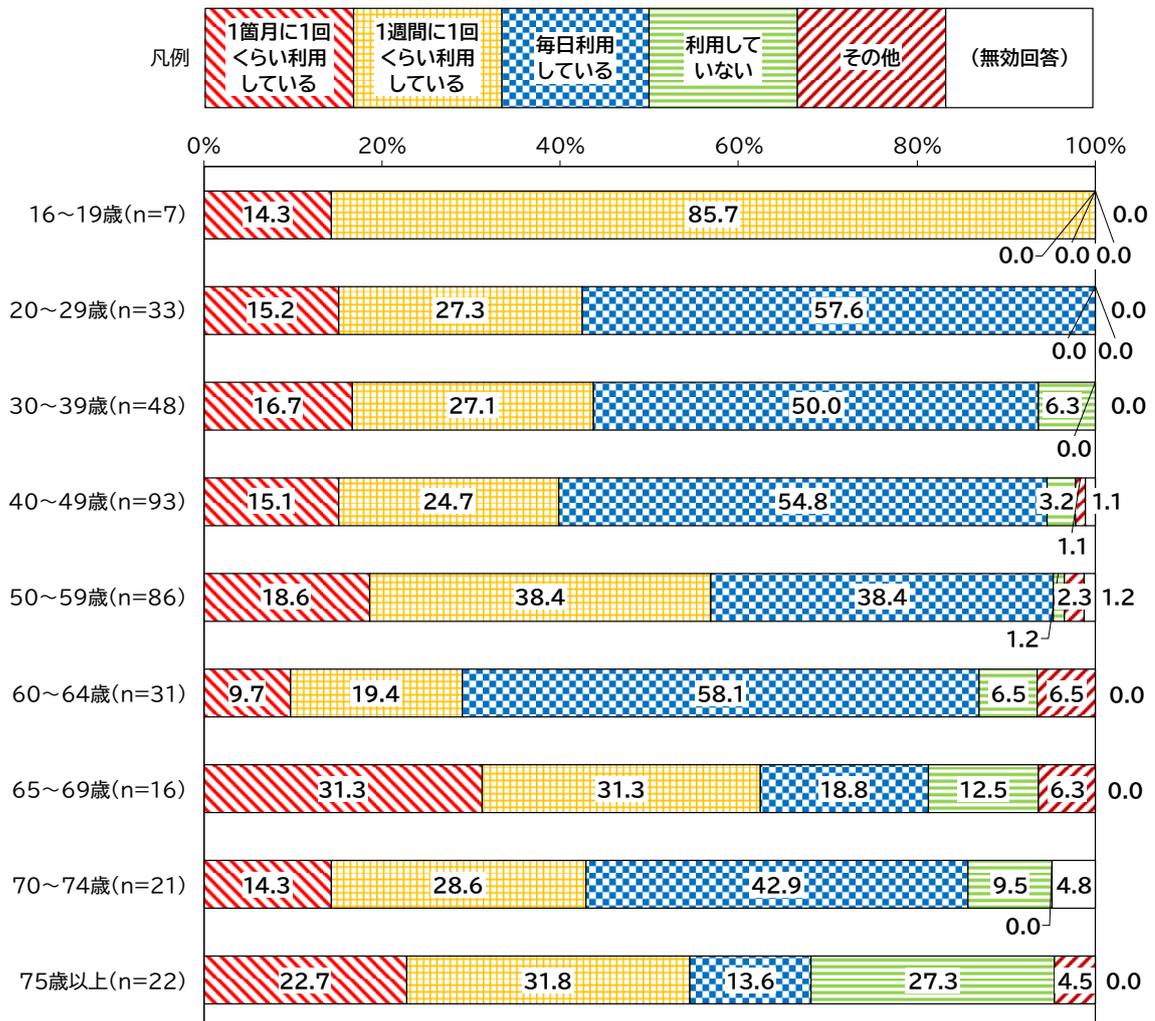
<全体 (n=359) >

○「毎日利用している」が 44.8%で最も高く、次いで「1週間に1回くらい利用している」の 30.4%、「1箇月に1回くらい利用している」の 16.7%、「利用していない」の 5.3%の順となっています。



<年齢層別>

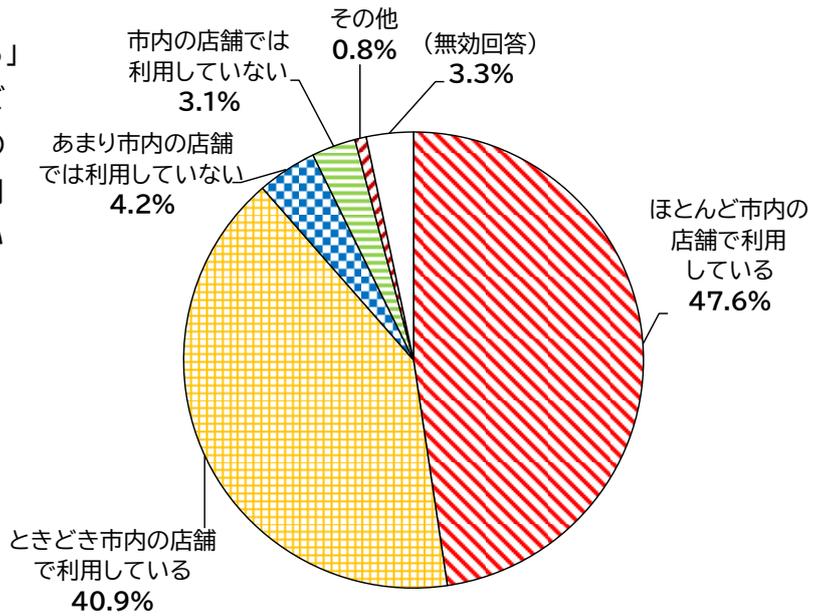
○16～59 歳で「1箇月に1回くらい利用している」、「1週間に1回くらい利用している」、「毎日利用している」の合計は 90%を超えています。一方で、「利用していない」は 75 歳以上が 27.3%と最も高くなっています。



問 36-2) 問 36-1 の回答のうち、市内の店舗で利用する割合はどれくらいですか。

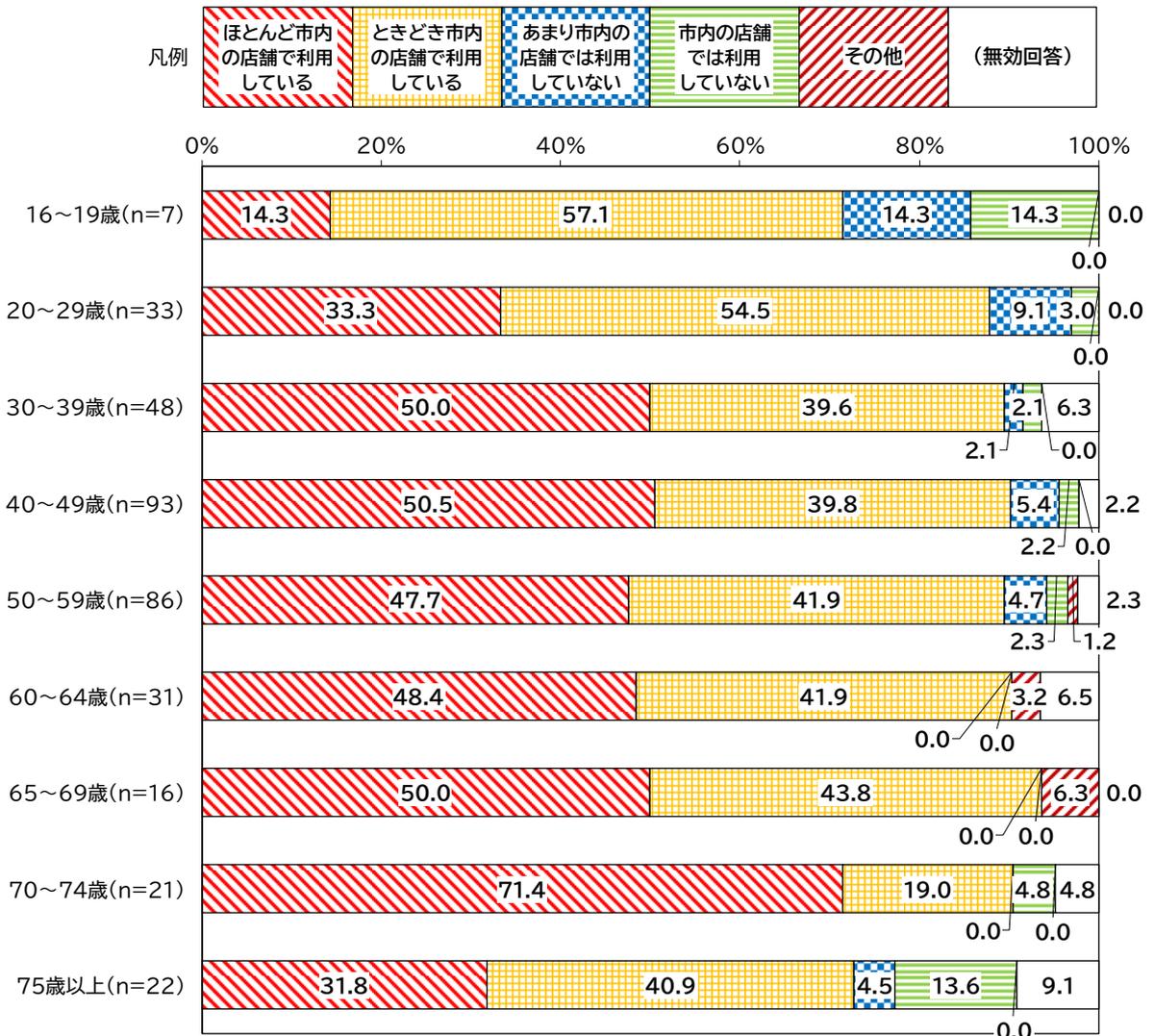
<全体 (n=359) >

○「ほとんど市内の店舗で利用している」が 47.6%で最も高く、次いで「ときどき市内の店舗で利用している」の 40.9%、「あまり市内の店舗では利用していない」の 4.2%の順となっています。



<年齢層別>

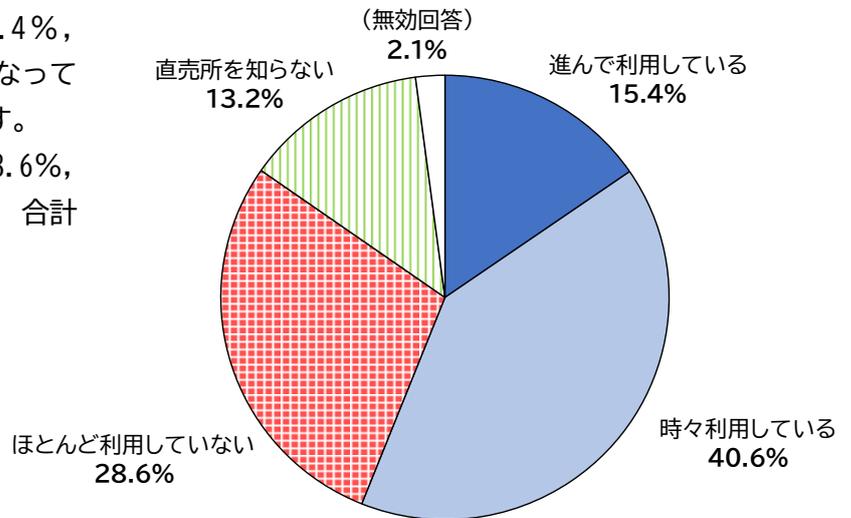
○30～74 歳では「ほとんど市内の店舗で利用している」が最も高く、16～29 歳及び 75 歳以上では「ときどき市内の店舗で利用している」が最も高くなっています。



問 37) あなたは、市内農家の農産物直売所（市内スーパーの直売コーナー、農協直売コーナーを含む）を利用していますか。

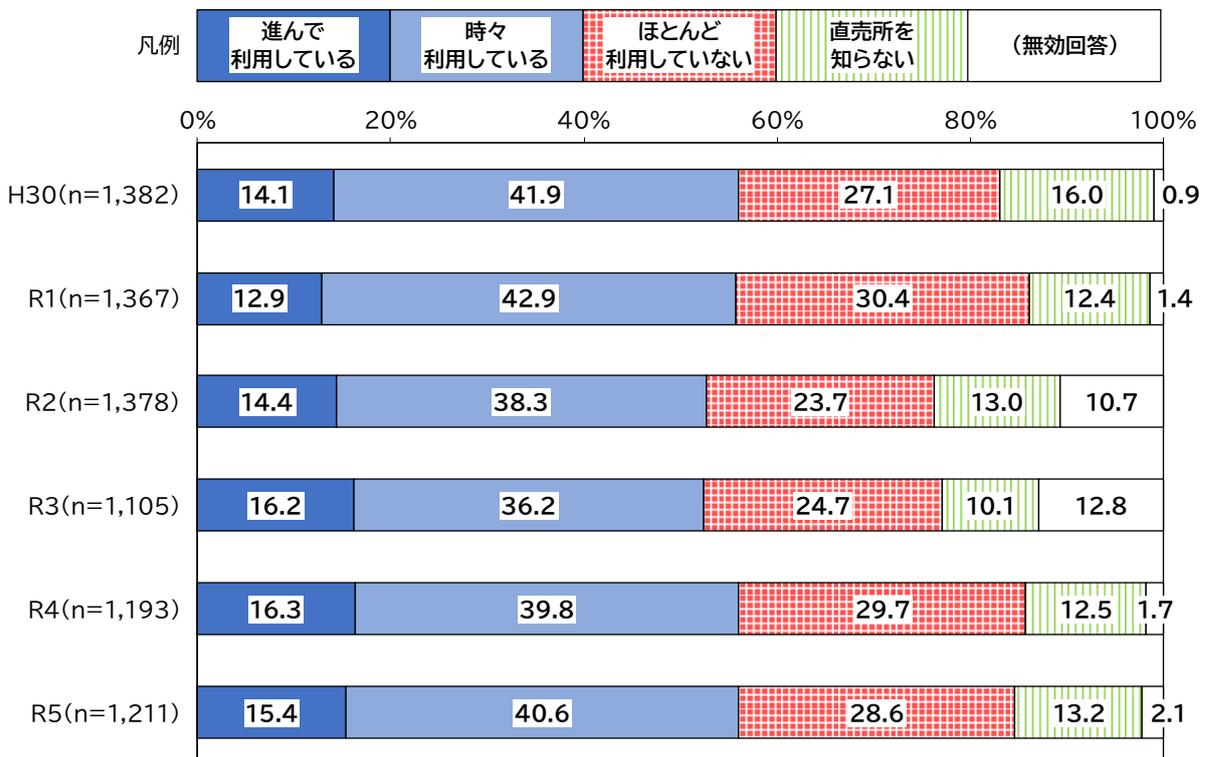
<全体 (n=1,211) >

- 「進んで利用している」は 15.4%、「時々利用している」は 40.6%となっており、合計で 56.0%を占めています。
- 「ほとんど利用していない」が 28.6%、「直売所を知らない」が 13.2%で、合計すると 41.8%となっています。



<経年比較>

- 「進んで利用している」と「時々利用している」の合計は、平成 30 年度から令和 3 年度は減少傾向となっていたものの、いずれの年度も 50%台で推移しています。

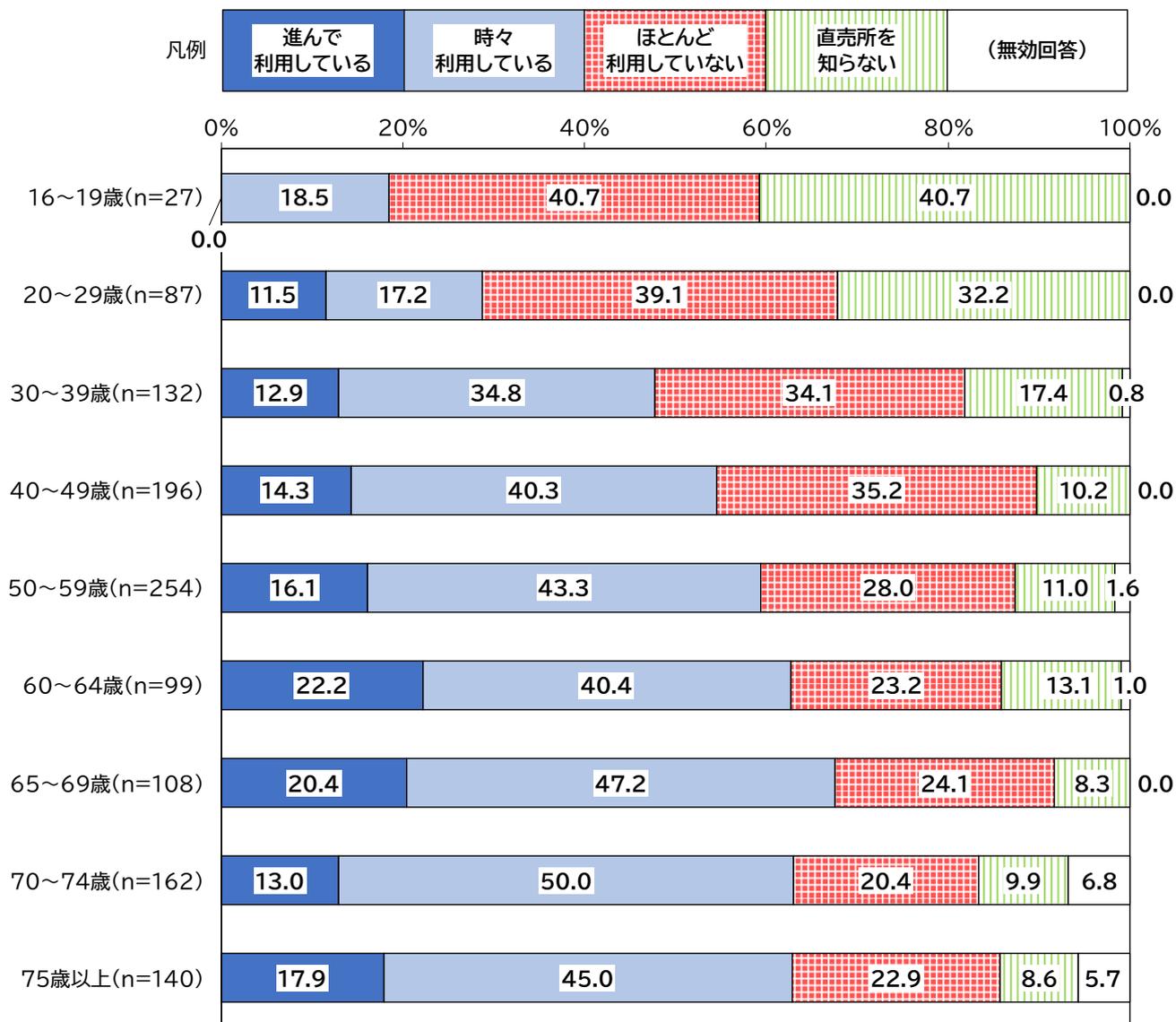


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

○おおむね年齢が上がるほど「進んで利用している」と「時々利用している」の合計が高く、60歳以上の年齢層では60%を超えています。

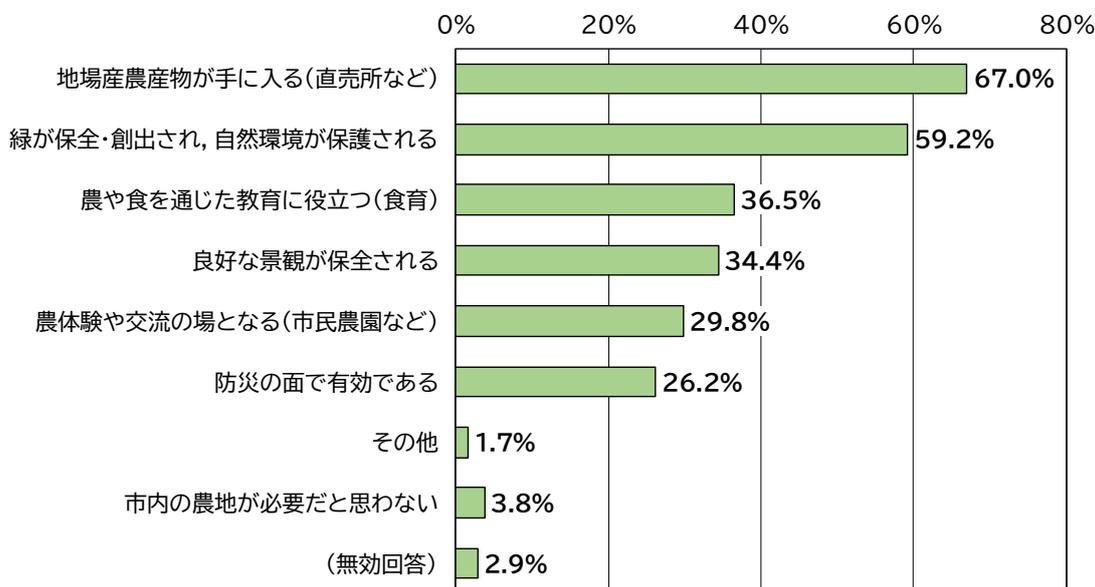
○16～29歳では、「ほとんど利用していない」と「直売所を知らない」の合計が70%を超えています。



問 38) あなたは市内に農地が必要だと思いませんか。必要だと思う場合はその理由について、選んでください。

<全体 (n=1,211) >

○「地場産農産物が手に入る(直売所など)」が 67.0%で最も高く、次いで「緑が保全・創出され、自然環境が保護される」の 59.2%の順となっています。



<年齢層別>

○20～74 歳では「地場産農産物が手に入る(直売所など)」が最も高く、16～19 歳及び 75 歳以上では「緑が保全・創出され、自然環境が保護される」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
地場産農産物が手に入る(直売所など)	811	11	50	88	130	175	75	78	111	89
	67.0%	40.7%	57.5%	66.7%	66.3%	68.9%	75.8%	72.2%	68.5%	63.6%
緑が保全・創出され、自然環境が保護される	717	14	36	68	113	152	71	69	97	93
	59.2%	51.9%	41.4%	51.5%	57.7%	59.8%	71.7%	63.9%	59.9%	66.4%
農や食を通じた教育に役立つ(食育)	442	11	22	63	92	92	33	31	49	48
	36.5%	40.7%	25.3%	47.7%	46.9%	36.2%	33.3%	28.7%	30.2%	34.3%
良好な景観が保全される	417	9	22	38	66	89	42	40	54	54
	34.4%	33.3%	25.3%	28.8%	33.7%	35.0%	42.4%	37.0%	33.3%	38.6%
農体験や交流の場となる(市民農園など)	361	8	17	56	76	73	30	28	34	37
	29.8%	29.6%	19.5%	42.4%	38.8%	28.7%	30.3%	25.9%	21.0%	26.4%
防災の面で有効である	317	3	8	18	42	60	32	38	60	54
	26.2%	11.1%	9.2%	13.6%	21.4%	23.6%	32.3%	35.2%	37.0%	38.6%
その他	21	0	2	1	2	6	2	2	3	3
	1.7%	0.0%	2.3%	0.8%	1.0%	2.4%	2.0%	1.9%	1.9%	2.1%
市内の農地が必要だと思わない	46	1	9	9	11	3	2	3	4	4
	3.8%	3.7%	10.3%	6.8%	5.6%	1.2%	2.0%	2.8%	2.5%	2.9%
(無効回答)	35	0	0	1	2	4	3	1	14	9
	2.9%	0.0%	0.0%	0.8%	1.0%	1.6%	3.0%	0.9%	8.6%	6.4%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 農業に関する施策についてのご意見・ご提案】(60件)

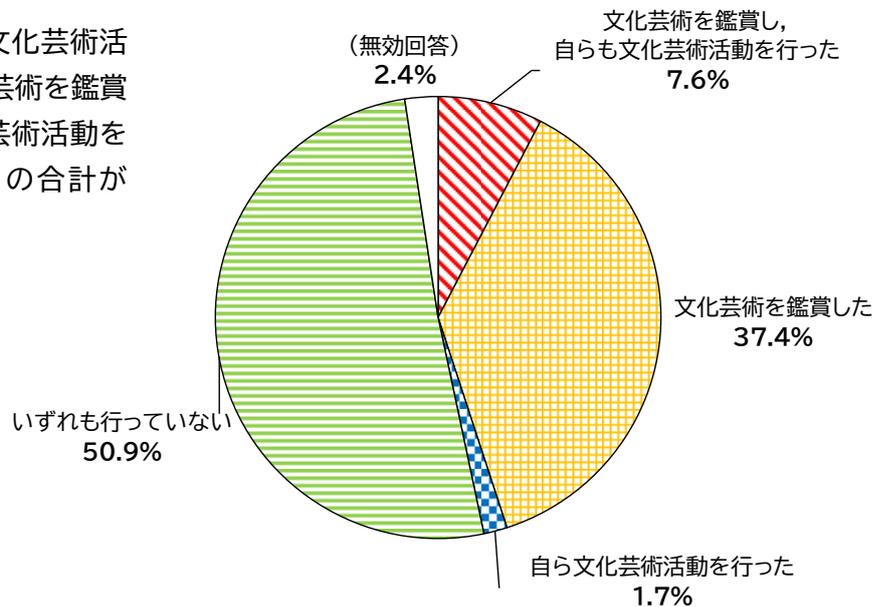
- ・ 農地は残すべき。農家さんへの支援も必要。
- ・ 市民農園を増やしてほしい。やりたいがもれてしまう。
- ・ 宅地化され農地がどんどん減っているのは、仕方ないことですが少し寂しいです。農地を持つ人にとって、続けたいけど続けられないという状態が生まれえないような、政策になっているといい。
- ・ 可能であれば農園の方に、収穫体験や種や苗の植え付け体験交流させてほしい。農地保全への関心を持つことで、子どもも都心の緑地化を理解する一助になると思う。市で機会を設けて頂ければ嬉しい。
- ・ 農業まつりのようなイベントを駅前（市役所前）でもっとやってほしい。
- ・ 市報などで、直売所の場所が分かるようにしてほしい。
- ・ 市の農業シンボルとして交通便の良いところに、三鷹緑化センターのような広い緑化センターを作ってほしい。

【芸術・歴史文化について】

問 39) あなたは、この1年間に、市内・市外を問わず、文化芸術（音楽、演劇、美術、舞踊等伝統芸能、映画など）の鑑賞や、自ら文化芸術活動を行いましたか。

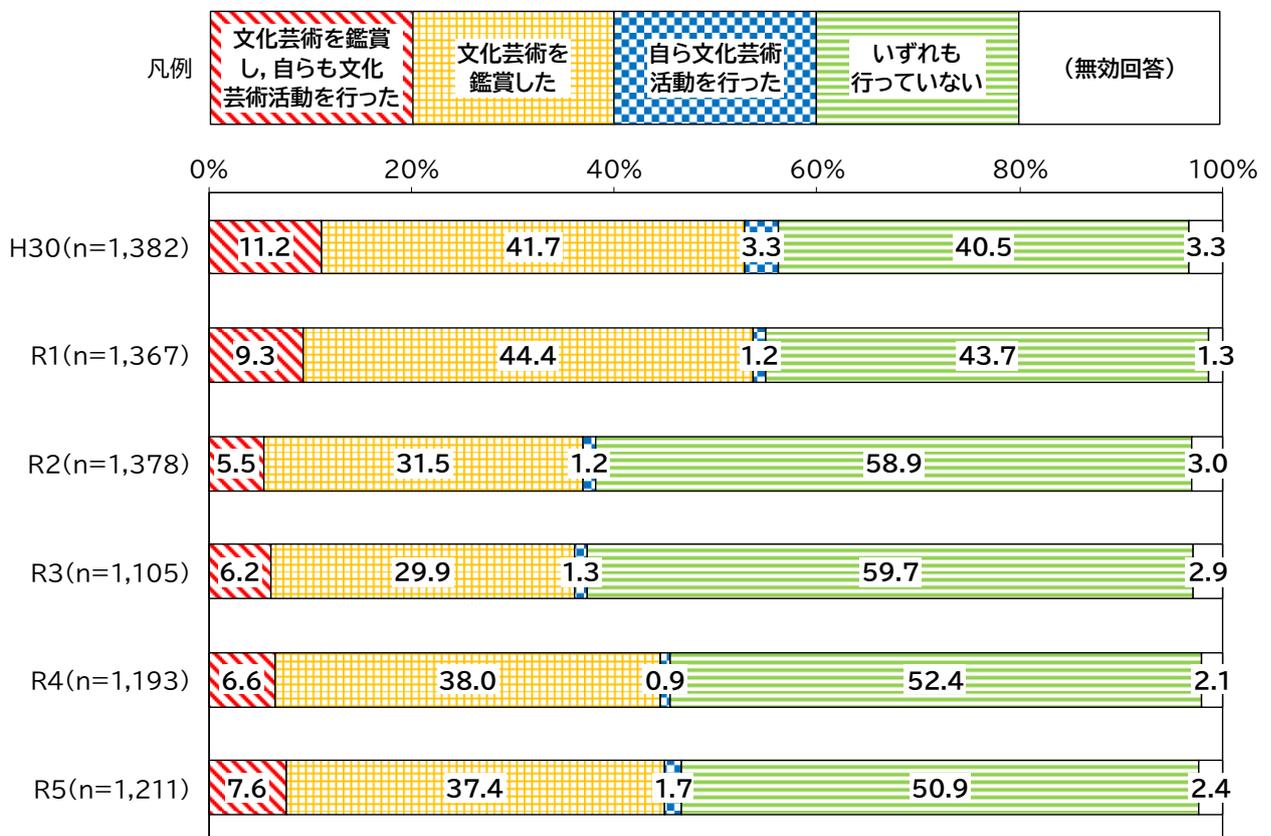
<全体 (n=1,211) >

○「文化芸術を鑑賞し、自らも文化芸術活動を行った」が 7.6%、「文化芸術を鑑賞した」が 37.4%、「自ら文化芸術活動を行った」が 1.7%で、これらの合計が 46.7%となっています。



<経年比較>

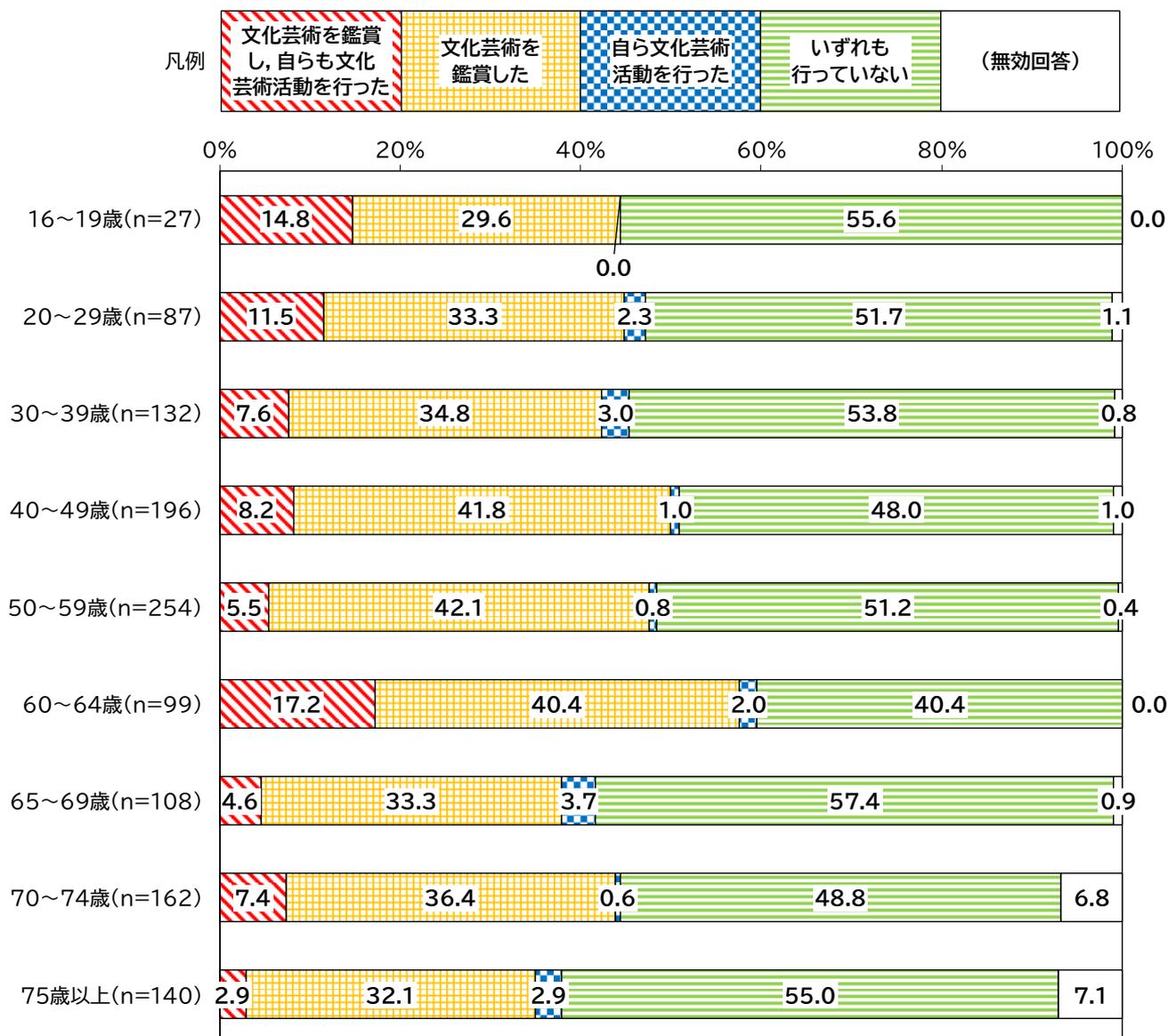
○「文化芸術を鑑賞し、自らも文化芸術活動を行った」、「文化芸術を鑑賞した」、「自ら文化芸術活動を行った」の合計は、令和2年度と令和3年度は30%台に落ち込んでいましたが、令和4年度(45.5%)と令和5年度(46.7%)は40%台に増加しています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

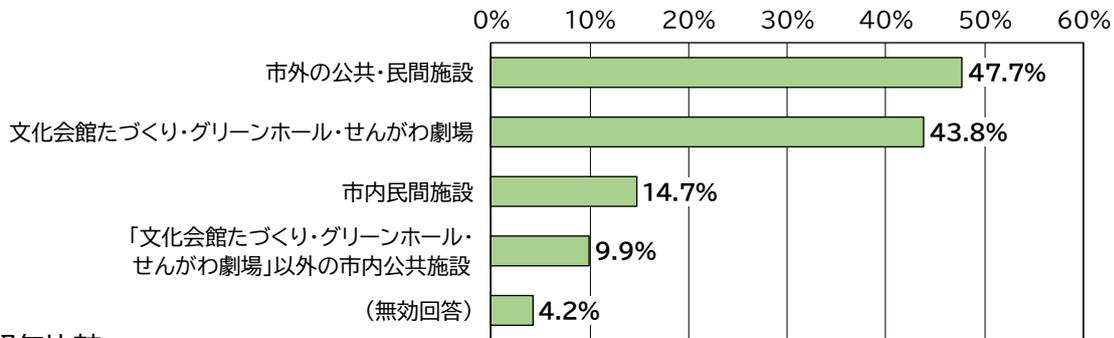
○「芸術文化を鑑賞した」、「自ら芸術文化活動を行った」、「芸術文化を鑑賞し、自らも芸術文化活動を行った」の合計は、60～64歳の59.6%が最も高く、次いで、40～49歳の51.0%、50～59歳の48.4%の順となっています。一方で、「いずれも行っていない」は65～69歳の57.4%が最も高くなっています。



問 39-1) 問 39 で「文化芸術を鑑賞し、自らも文化芸術活動を行った」「文化芸術を鑑賞した」「自ら文化芸術活動を行った」と回答した方にうかがいます。文化芸術を鑑賞した、または文化芸術活動を行った場所はどこですか。

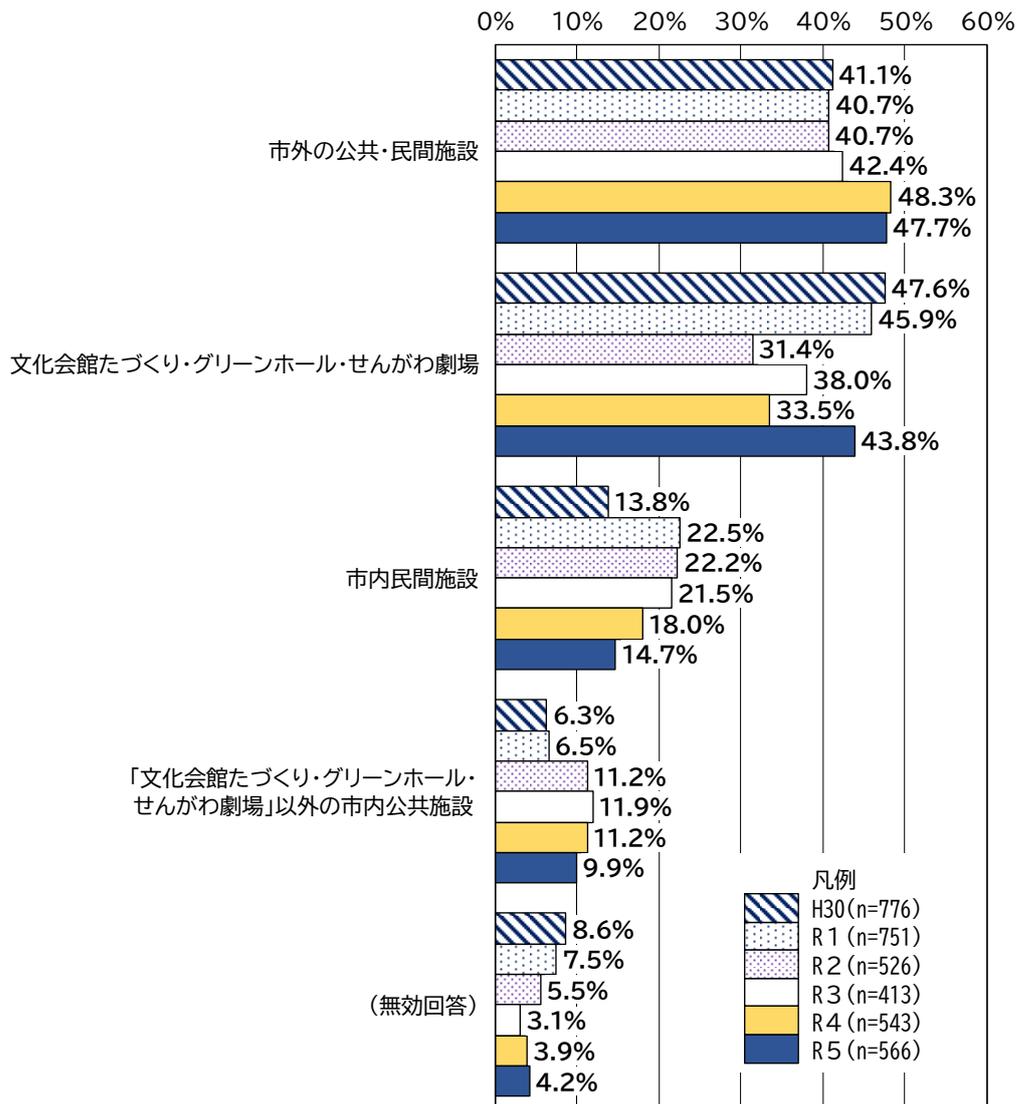
<全体 (n=566) >

○「市外の公共・民間施設」の 47.7%が最も高く、次いで「文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場」の 43.8%の順となっています。



<経年比較>

○「文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場」は、令和 4 年度 (33.5%) に比べ令和 5 年度 (43.8%) は 10.3 ポイント増加しています。一方で、「市外民間施設」は、令和 4 年度 (18.0%) に比べ令和 5 年度 (14.7%) は 3.3 ポイント減少しています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

いずれの年齢層においても、「市外の公共・民間施設」と「文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	566	12	41	60	100	123	59	45	72	53
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
市外の公共・民間施設	270	7	29	31	41	69	26	22	27	18
	47.7%	58.3%	70.7%	51.7%	41.0%	56.1%	44.1%	48.9%	37.5%	34.0%
文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場	248	4	9	21	42	45	23	18	52	33
	43.8%	33.3%	22.0%	35.0%	42.0%	36.6%	39.0%	40.0%	72.2%	62.3%
市内民間施設	83	1	4	14	20	20	12	8	2	2
	14.7%	8.3%	9.8%	23.3%	20.0%	16.3%	20.3%	17.8%	2.8%	3.8%
文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場以外の市内公共施設	56	1	5	6	12	12	6	4	4	6
	9.9%	8.3%	12.2%	10.0%	12.0%	9.8%	10.2%	8.9%	5.6%	11.3%
(無効回答)	24	0	3	3	5	4	4	2	3	0
	4.2%	0.0%	7.3%	5.0%	5.0%	3.3%	6.8%	4.4%	4.2%	0.0%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：



#### <自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 主な市外の施設】(205件)

・ 国立博物館 (台東区)	・ 東京オペラシティ (新宿区)
・ 帝国劇場 (千代田区)	・ 劇団四季 (港区)
・ 狛江エコルマホール (狛江市)	・ 府中の森芸術劇場 (府中市)